

2021年度

*FD*報告集



帝塚山大学
TEZUKAYAMA UNIVERSITY

令和3年度 FD 報告集の刊行によせて

本学では、平成14年度にFD推進室を設置、平成24年度にはFD推進室、学習支援室、全学共通教育センターの3つを統合・改組して全学教育開発センターを設置し、以来、当センターが主体となって大学全体のFDを推進してきた。各種活動は、管轄の委員会での検討・審議を経て実施することになっているが、委員会に提案する原案は、従来から、センター内に設けられたFD推進検討チームで作成していただいている。また、本報告集の作成も同チームにお願いしてきたところである。この場をお借りして、メンバーの皆様へ感謝申し上げる。

なお、委員会での検討・審議は昨年度までは、全学教育開発センター運営委員会で行っていたが、今年度からは、FD活動のさらなる推進のために新たに組織されたFD推進委員会で行うこととなった。

今年度もコロナ禍の中、前後期とも対面と遠隔が混在するイレギュラーな授業形態がとられたことから、FD活動についても、当初の予定を一部変更しながら実施することとなった。

(1) 授業改善アンケートは、前期は全科目対象にGoogleフォームで実施、後期は各教員原則1科目を対象として、本学独自のe-LearningシステムTALESを活用して行ったが、いずれも、回収率は十分ではなかった。来年度に向けて改善を図りたい。

(2) 公開授業・授業参観は対面授業を前提としていることから、前後期とも実施することができなかった。参観者だけでなく授業公開教員にとっても授業改善に資する有益な活動であるだけに、2年連続での中止は残念である。

(3) 学内FDフォーラムは、昨年度同様、2回とも遠隔会議システムを活用して行い、多数の参加者を得ることができた。今後は、コロナ収束後も同形式を有効に活用するのが望ましいと考えられる。

多様な入試によって多様な学習動機・学力の学生が入学する中、それらの学生を教育面で満足させるには、授業運営における各教員のさらなる工夫と学科等の組織による有効な対応が求められるところであり、今後とも当センターが中心となって、各種FD活動を通じて全学的な教育改善が行えるよう取り組んでいきたい。

令和4年3月

帝塚山大学 全学教育開発センター長

大西 智之

目次

F D 報告集の刊行によせて

I. 授業改善アンケート	1
II. 学生ヒアリング	77
III. F D フォーラム	86
IV. 公開授業	89
V. F D 推進委員会	91
VI. 全学教育開発センター F D 推進検討チーム	96

I. 授業改善アンケート

1. 2021 年度 授業改善アンケート集計結果

実施概要

前期は、対面授業で紙ベースの授業改善アンケートの実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、多くの科目で遠隔授業が実施されたこと、全科目を対象としたことから、Google フォームを利用した WEB アンケートの実施に切り替えた。

前期の回答率が低かったことを受けて、後期は対象科目を限定し、遠隔授業で必ず利用する TALES 上での WEB アンケートという形で実施することとなった。

(1) 実施目的

帝塚山大学で開講されている授業をより良くするために、学生による授業改善アンケートを行い、全体的傾向を把握するとともに、各担当教員に基礎データを提供する。

(2) 実施方法

<対象科目>

前期：原則として、学部・全学教育開発センター開講の全ての科目

後期：原則として、各教員の担当する履修者数が最も多い科目

(リレー講義、集中講義、共同担当科目、履修登録者が 3 名以下の科目は除く)

<調査方法>

前期：Google フォームをメールで案内

後期：TALES の各授業コース内で実施

(3) 回収数、回収率

	在学生数	対象科目数	対象科目の 延べ履修登録者数	回収数	回収率
前期	3,622	773	29,133	6,797	23.3%
後期		276	15,928	5,957	37.4%

※在学生数は 2021 年 5 月 1 日現在

(4) 実施期間

前期：2021 年 6 月 3 日 (木) ～6 月 9 日 (水)

後期：2021 年 11 月 8 日 (月) ～11 月 20 日 (土)

(5) アンケート項目

対面授業、遠隔授業いずれにもあてはまる項目として、以下の14項目を設定した。

前期	後期	区分	質問	1	2	3	4	5	6
Q01		シラバスとの整合性	あなたにとってこの授業の進度は適切ですか。	遅い	やや遅い	適切	やや速い	速い	-
Q02		教材	あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか。	易しい	やや易しい	適切	やや難しい	難しい	-
Q03		進捗	授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	シラバスを見ていない	-
Q04		難易度	講師は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない	-	-
Q05	Q06	課題の量	授業内に配付あるいは提示される教材（教科書も含む）は授業内容に沿った適切なものですか。	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない	-	-
Q06	Q07	理解度の確認	講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。	分かりやすい	ある程度分かりやすい	少しわかりにくい	分かりにくい	-	-
Q07	Q08	説明の仕方	授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか。	関心を持てる	ある程度関心を持てる	あまり関心がない	関心がない	-	-
Q08	Q05	授業内容	講師から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか。	受けられる	ある程度受けられる	あまり受けられない	受けられない	質問をしたことがない	-
Q09		学習支援	講師の学生への接し方に満足していますか。	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	不満足である	-	-
Q10		フィードバック	課題の解答等に対する説明は行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	フィードバックを確認していない	-
Q11		達成目標への到達度	予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業1回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか。（授業時間も含める）	30分未満	30分～1時間	1時間～2時間	2時間～3時間	3時間～4時間	4時間以上
Q12		学修時間	この授業に意欲的に取り組んでいますか。	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない	-	-
Q13		意欲的な学び	あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。	力がついてきている	ある程度力がついてきている	あまり力がついていない	力がついていない	到達目標を知らない	-
Q14		授業実施方法の適切さ	総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか。	意義がある	ある程度意義がある	あまり意義がない	意義がない	-	-

(6) 授業アンケート結果概要

1. はじめに

前期は、全学生に一斉メールを送り、Google フォームを使って全受講科目に対して回答を求めた。後期は、各教員の担当科目のなかから最も受講者数が多い科目を選び、当該科目の受講生に TALES 上で回答を求めた。このように、前期・後期の調査方法の違いや回答への負荷の違いから、両者を同等にあつかうことはできない。また、昨年度との比較についても、2020 年度前期はアンケートを実施しなかったため、後期のみの比較となる。なお、後期については、昨年度・今年度ともに同じ実施方法である。

以上のような制約条件をふまえて、全学的な傾向についてまとめる。なお、前期と後期では質問の順番が異なる部分があるため、授業運営に関する項目から学生の学びに関する項目へとすすむように配列を変え、各質問の内容をあらわす表題をつけた。さらに各項目には、前期・後期の該当する質問番号をつけた（例：→〔前〕1、〔後〕2）。

2. 回収率

回収率は、科目の開講学部等によってばらつきがみられるが、前期は 23.3%、後期は 37.4%（昨年度は 45.3%）であった。

3. シラバスとの整合性 8割以上の授業が整合的

「授業はシラバス（授業概要、到達目標、授業計画）に沿って行われていますか」という質問に対して、「行われている」と「ある程度行われている」と答えた学生の割合をあわせると、前期は 88.2%、後期は 84.8%（昨年度は 89.7%）であった。

→〔前〕3、〔後〕3

4. 教材の適切性 約 96%が適切な教材

「授業内に配布あるいは提示される教材（教科書を含む）は授業内容に沿った適切なものですか」という質問に対して、「適切である」と「ある程度適切である」と答えた学生の割合をあわせると、前期は 96.0%、後期は 96.1%（昨年度は 95.6%）であった。

→〔前〕5、〔後〕6

5. 説明の分かりやすさ 8割以上が分かりやすい説明

「講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか」という質問に対して、「分かりやすい」と「ある程度分かりやすい」と答えた学生の割合をあわせると、前期は 84.5%、後期は 86.9%（昨年度は 80.8%）であった。

→〔前〕6、〔後〕7

6. 課題に対する説明 約8割の授業で説明あり

「課題の解答等に対する説明は行われていますか」という質問に対して、「行われている」と「ある程度行われている」と答えた学生の割合をあわせると、前期は76.8%、後期は83.9%（昨年度は62.5%）であった。一方、「行われていない」と「あまり行われていない」と答えた学生の割合をあわせると、前期が14.9%、後期が10.1%（昨年度は23.2%）であった。

昨年度後期は「授業担当者から課題へのフィードバックが行われていますか」という質問であったが、「フィードバック」という言葉に対する学生の認識にばらつきがあると考えられ、本年度は「説明」という言葉に変えた。

→〔前〕10、〔後〕10

7. 理解度の確認 9割弱が理解度確認

「講師は受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか」という質問に対して、「進めている」と「ある程度進めている」と答えた学生の割合をあわせると、前期は87.3%、後期は87.4%（昨年度は81.8%）であった。

→〔前〕4、〔後〕4

8. 難易度 約6割が「適切」

「あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか」という質問に対して、「適切」と答えた学生は、前期が61.5%、後期が59.0%（昨年度は55.1%）であった。一方、「難しい」と「やや難しい」と答えた学生の割合をあわせると、前期は32.6%、後期は35.9%（昨年度は38.8%）であった。

→〔前〕2、〔後〕2

9. 進捗 約8割が「適切」

「あなたにとってこの授業の進捗は適切ですか」という質問に対して、「適切」と答えた学生は、前期が83.3%、後期が81.0%（昨年度は79.8%）であった。

→〔前〕1、〔後〕1

10. 学生への接し方 9割の満足度

「講師の学生への接し方に満足していますか」という質問に対して、「満足している」と答えた学生は、前期で52.7%、後期で49.3%であった。「ある程度満足している」をあわせると、それぞれ91.9%、91.0%となった。

*昨年度は同様の質問はない。

→〔前〕9、〔後〕9

11. 授業外での学習支援 支援体制はあるが約 35%が「質問したことがない」

「講師から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか」という質問に対して、「受けられる」と「ある程度受けられる」と答えた学生の割合をあわせると、前期は 59.8%、後期は 59.2%（昨年度は 54.9%）であった。なお、「質問をしたことがない」と答えた学生は、前期が 35.2%、後期が 34.5%（昨年度は 36.6%）であった。

→〔前〕 8、〔後〕 5

12. 授業内容への関心度 約 9 割が関心あり

「授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか」という質問に対して、「関心を持てる」と「ある程度関心を持てる」と答えた割合をあわせると、前期は 89.9%、後期は 88.2%（昨年度は 86.9%）であった。

→〔前〕 7、〔後〕 8

13. 意欲的な学び 9 割は意欲的

「この授業に意欲的に取り組んでいますか」という質問に、「意欲的に取り組んでいる」と「ある程度意欲的に取り組んでいる」と答えた学生は、前期が 90.7%、後期が 90.1%（昨年度は 87.9%）であった。

→〔前〕 12、〔後〕 12

14. 授業外学修時間 8 割強が 2 時間未満 減らない「30 分未満」

「予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業 1 回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか。（授業時間も含める）」という質問に対して、前期は「1 時間～2 時間」（40.4%）が最も多く、次いで「30 分～1 時間」（29.9%）、「30 分未満」（14.7%）の順で、2 時間までの学修時間の学生が 85.0%を占める。後期は「30 分～1 時間」（32.9%）が最も多く、次いで「1 時間～2 時間」（31.5%）、「30 分未満」（20.0%）の順で、84.4%が 2 時間未満の学修時間である。昨年度は、「30 分～1 時間」（34.9%）が最も多く、次いで「1 時間～2 時間」（32.2%）、「30 分未満」（18.2%）の順であった。

→〔前〕 11、〔後〕 11

15. 学修到達度 約8割は力がついている

「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という質問に、「力がついてきている」と「ある程度力がついてきている」と答えた学生をあわせると、前期は81.6%、後期は79.7%（昨年度は74.0%）であった。一方、「到達目標を知らない」という学生が、前期で5.2%、後期で5.8%（昨年度は6.7%）いた。

→〔前〕13、〔後〕13

16. 授業の意義 9割が「意義あり」

「総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか」という質問に、「意義がある」「ある程度意義がある」と答えた学生をあわせると、前期は91.4%、後期は92.8%であった。

*昨年度は同様の質問はない。

→〔前〕14、〔後〕14

今後の課題

授業運営と学生の学びに関する質問項目については、開講学部等によるばらつきはあるものの、全体としては、おおむね良好な結果となった。また、同じ方法で実施した今年度後期と昨年度後期の結果を比較しても、向上した項目が多かった。しかし、アンケート調査結果からみえてくる課題が大きく二つある。ひとつは授業外学修時間の充実であり、もうひとつは回収率の向上である。

前者については、高等教育全体の課題でもある。2019年度までのアンケート調査では、「この授業に関して、予習・復習など授業時間外の自習時間の1週間あたりの平均はどのぐらいですか」という質問になっており、「30分前後」や「していない」と回答する学生の比率が高かった。2020年度以降のアンケート結果とそれ以前のものを単純に比較することはできないが、表面上はかなり改善されたようにみえる。しかし、「30分未満」と答える学生が、前期で14.7%、後期で20.0%という結果になっている。今年度は「しなかった」という選択肢はないが、これまでの調査結果をふまえると、「30分未満」のなかに、まったく自習をしない学生が含まれていることが推測される。いずれにせよ、毎年の課題ではあるが、授業外学修時間の充実をはかる工夫を検討する必要がある。

回収率については、2019年度までの高回収率（2018年度75.4%、2019年度75.0%）からみれば、オンラインでの実施になったことで、前期は23.3%、後期は37.4%と大幅に低下した。オンラインでの授業アンケートの回収率が20~30%になることは、これまでも多くの大学で報告されている。今後も、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、オンライン授業あるいは対面授業との併用を余儀なくされる可能性がある。そのような状況に対応するために、オンラインによる授業アンケートの実施においても回収率を上げるとともに、学生の回答への負荷に配慮しつつ、教育改善に資するデータを適切に取得する方法を検討する必要がある。

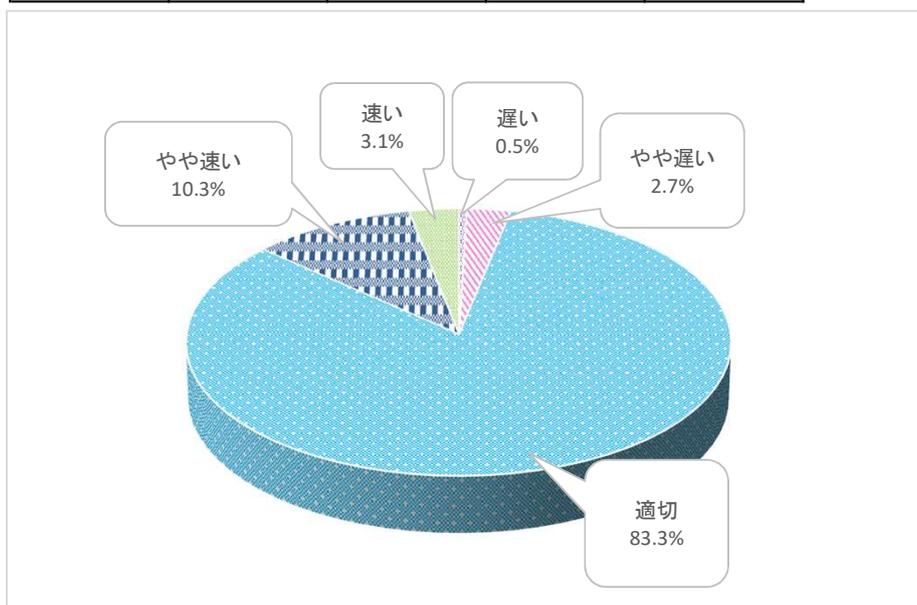
以上のような二つの課題以外にも、開講学部等や学年別の分析だけではなく、各項目間の関連性についても分析・検討する必要がある。

(7) 前期 授業アンケート集計結果

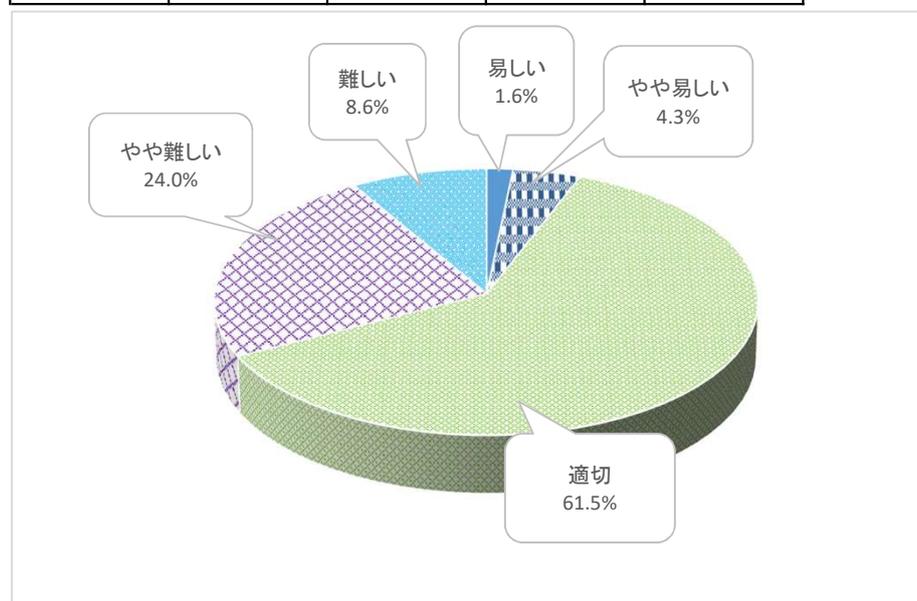
ア. (全学部)

総履修者数	総回収数	回収率
29,133	6,797	23.33%

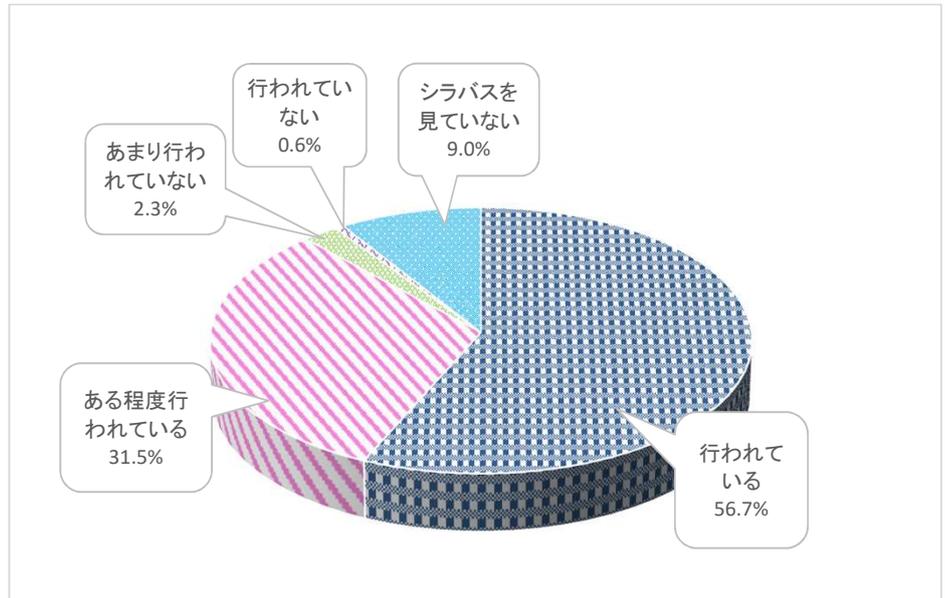
質問	回答				
1. あなたにとってこの授業の進度は適切ですか。	遅い	やや遅い	適切	やや速い	速い
	33	186	5663	702	213



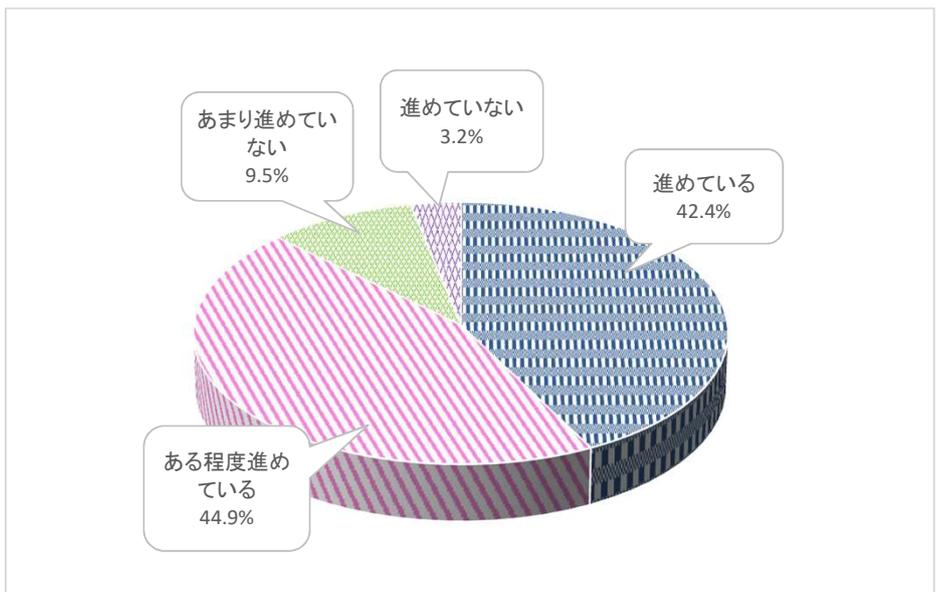
2. あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか。	易しい	やや易しい	適切	やや難しい	難しい
	112	290	4178	1634	583



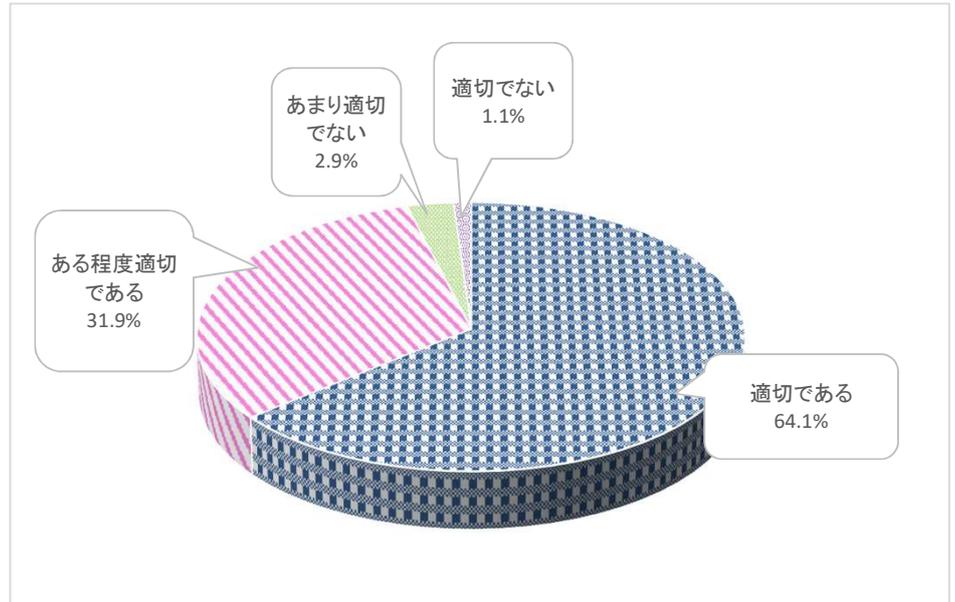
3. 授業はシラバス(授業概要、到達目標、授業計画)に沿って行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	シラバスを見ていない
	3853	2140	154	39	611



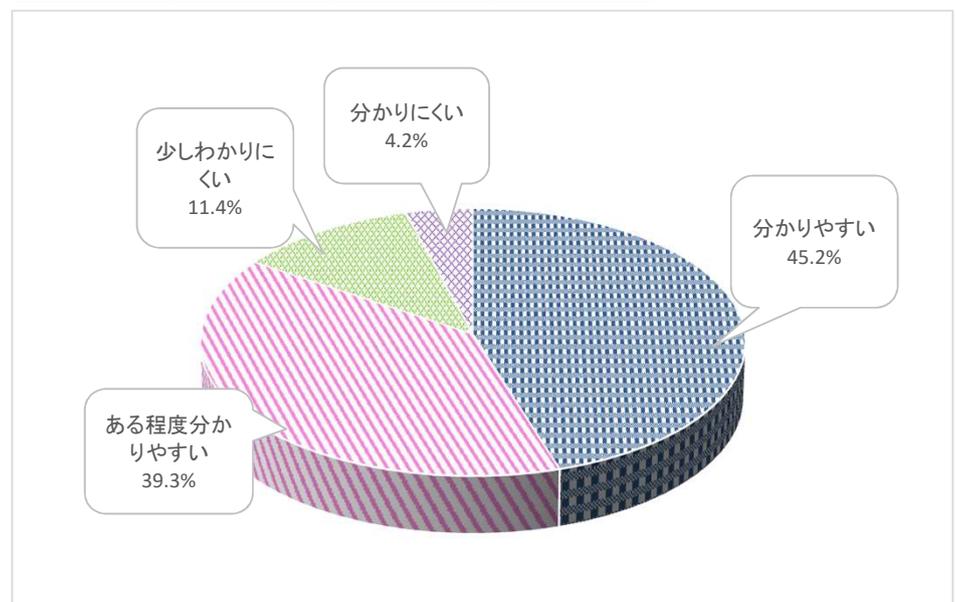
4. 講師は、受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない
	2883	3052	643	219



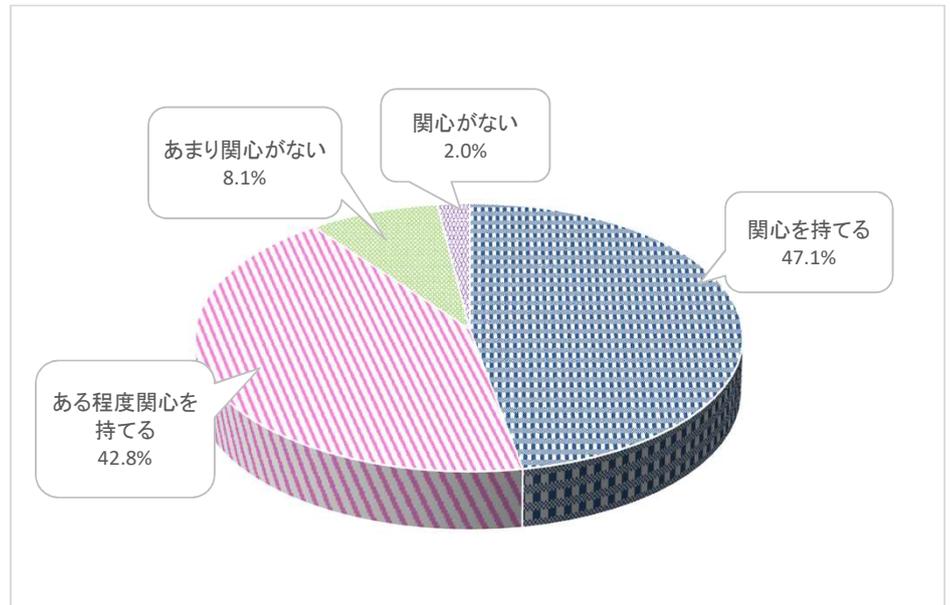
5. 授業内に配付あるいは提示される教材(教科書も含む)は授業内容に沿った適切なものですか。	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない
	4354	2171	197	75



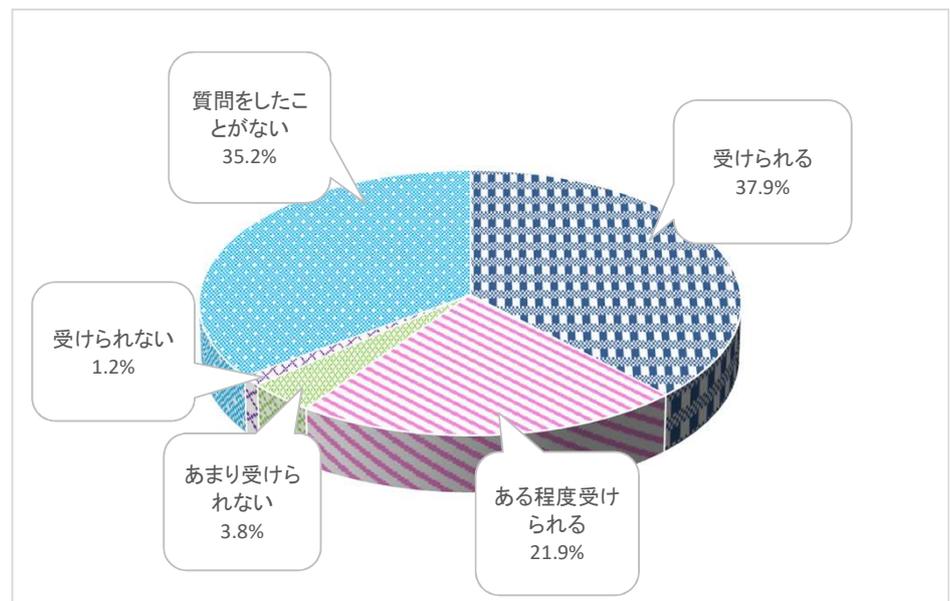
6. 講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。	分かりやすい	ある程度分かりやすい	少しわかりにくい	分かりにくい
	3069	2669	773	286



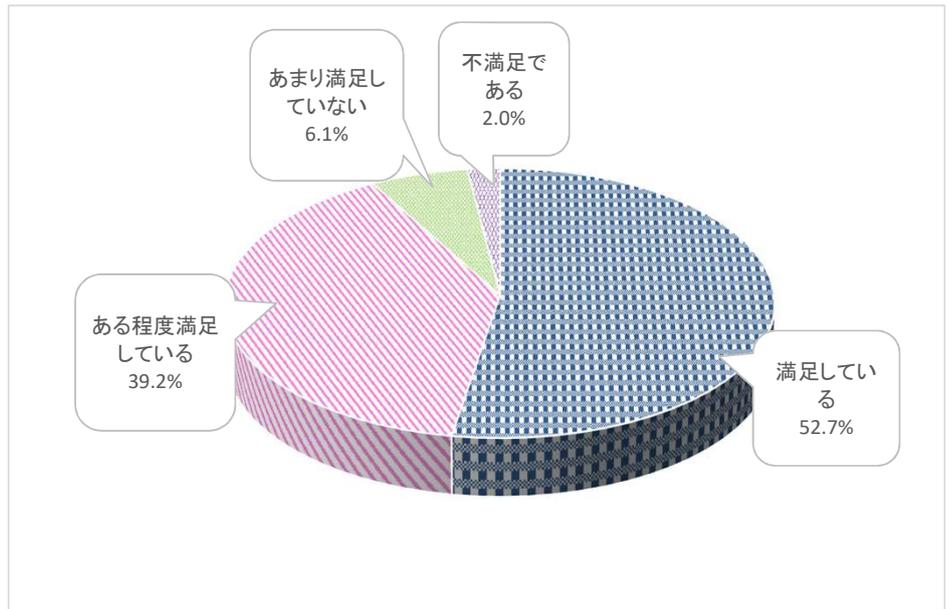
7. 授業内容はあなたにとって関心を持てるものですか。	関心を持てる	ある程度関心を持てる	あまり関心がない	関心がない
	3201	2906	553	137



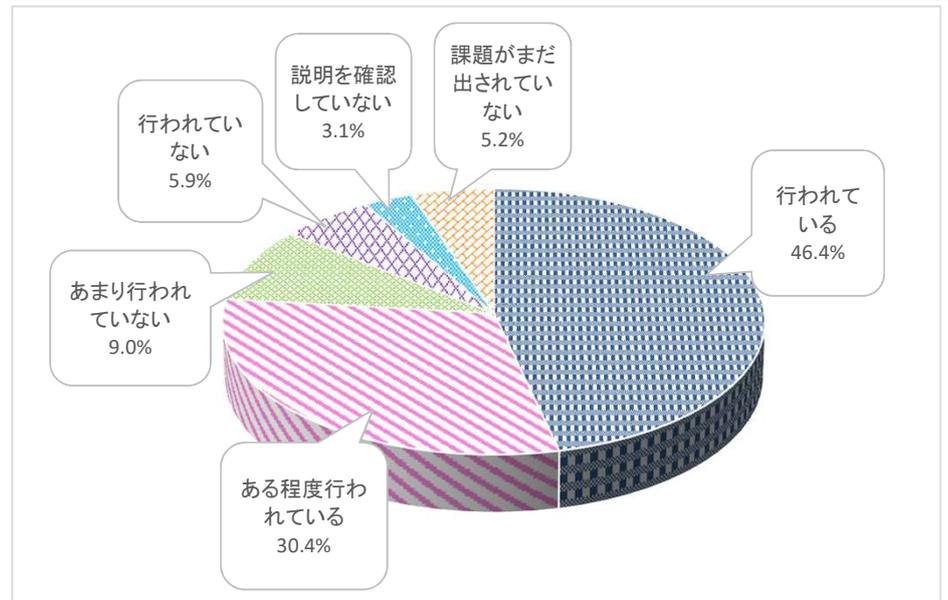
8. 講師から授業外での学習支援(質問をしたら返答があるなど)を受けることはできますか。	受けられる	ある程度受けられる	あまり受けられない	受けられない	質問をしたことがない
	2577	1486	259	83	2392



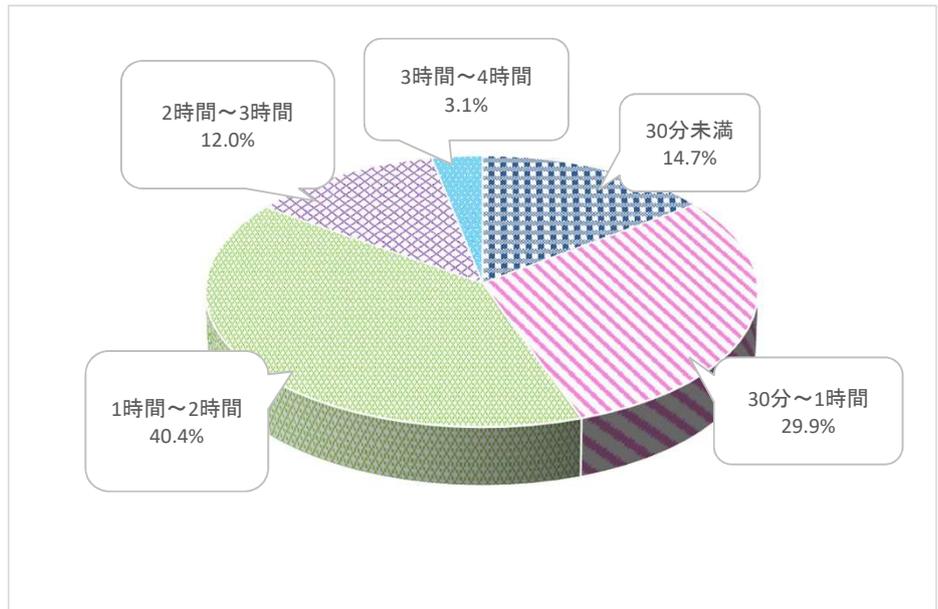
9. 講師の学生への接し方に満足していますか。	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	不満である
	3579	2667	414	137



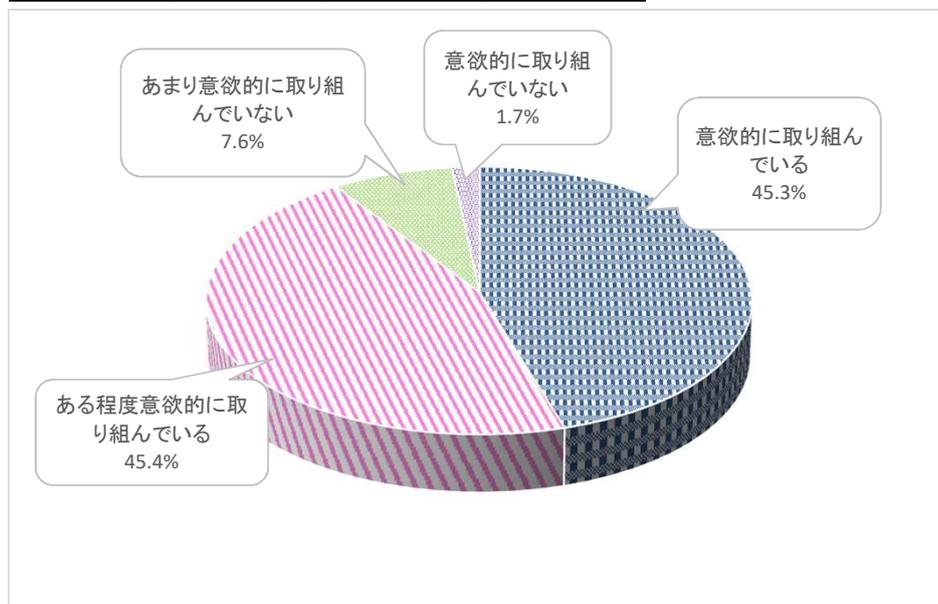
10. 課題の解答等に対する説明は行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	説明を確認していない	課題がまだ出されていない
	3152	2063	613	404	209	356



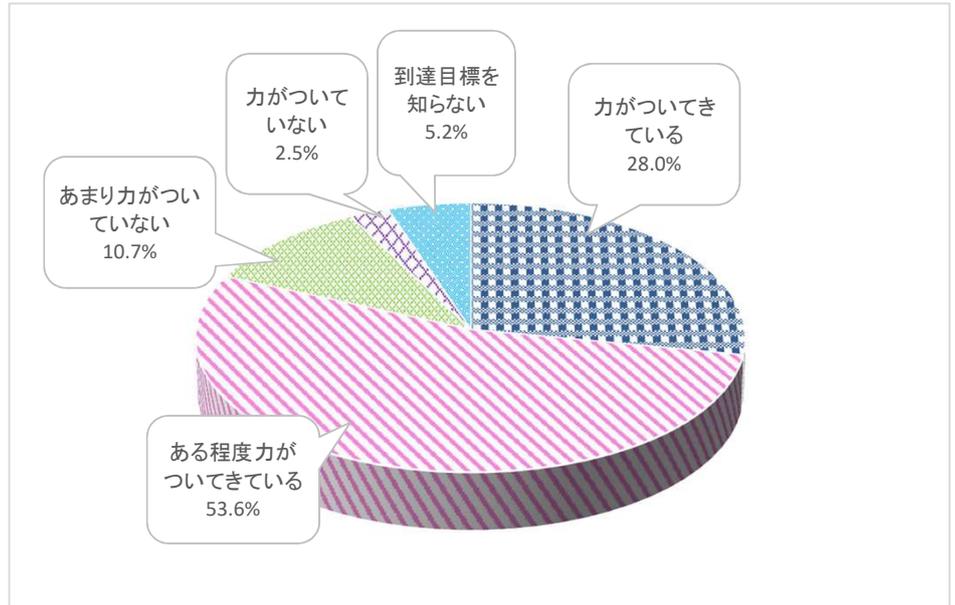
11. 予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業1回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか(授業時間も含める)。	30分未満	30分～1時間	1時間～2時間	2時間～3時間	3時間～4時間
	997	2029	2744	815	212



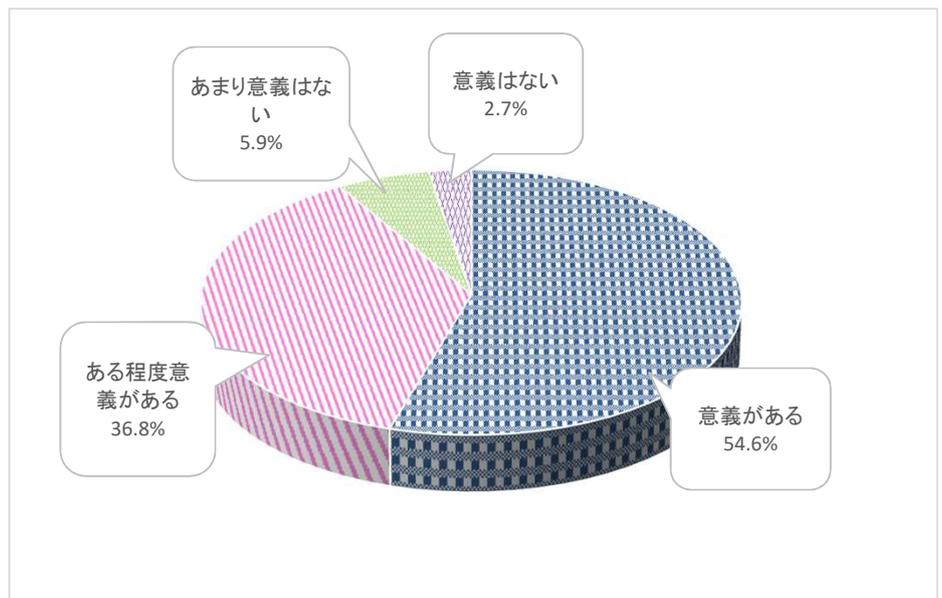
12. この授業に意欲的に取り組んでいますか。	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない
	3078	3086	515	118



13. あなたは、この授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。	力がついてきている	ある程度力がついてきている	あまり力がついていない	力がついていない	到達目標を知らない
	1903	3645	730	167	352



14. 総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか。	意義がある	ある程度意義がある	あまり意義はない	意義はない
	3711	2504	398	184



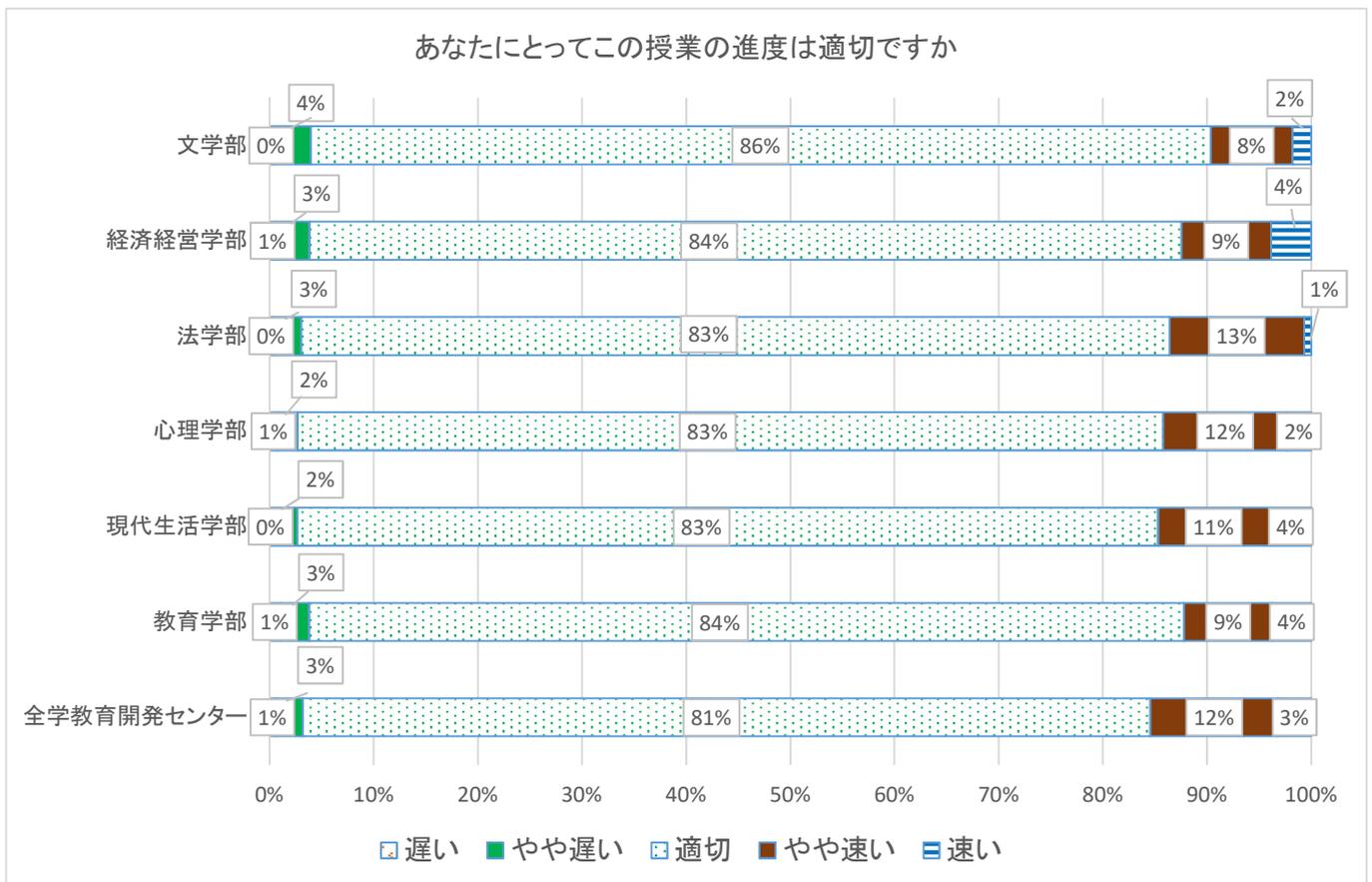
イ. (科目開講所属別)

総履修者数	総回収数	回収率
29,133	6,797	23.33%

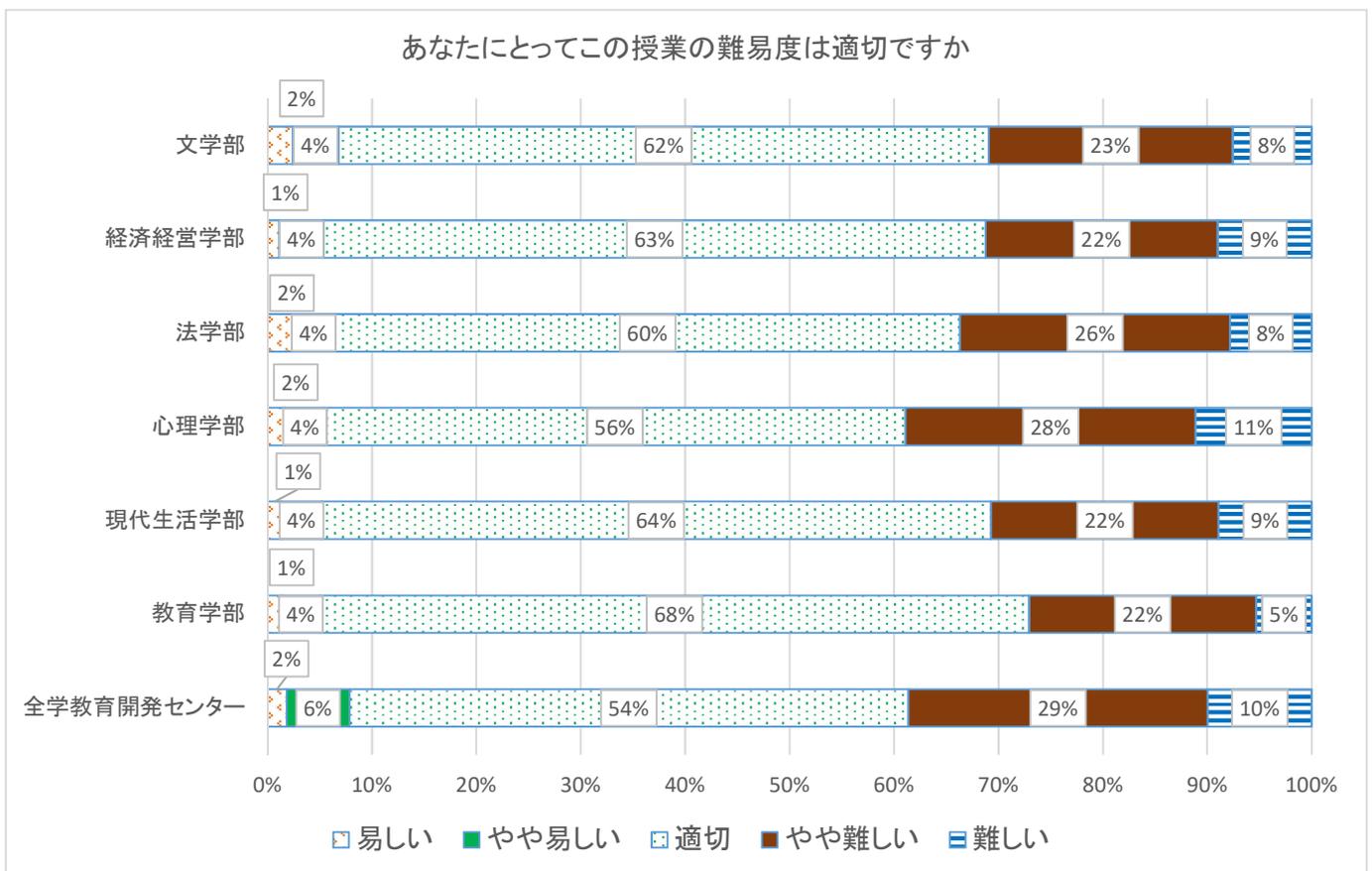
質問

回答

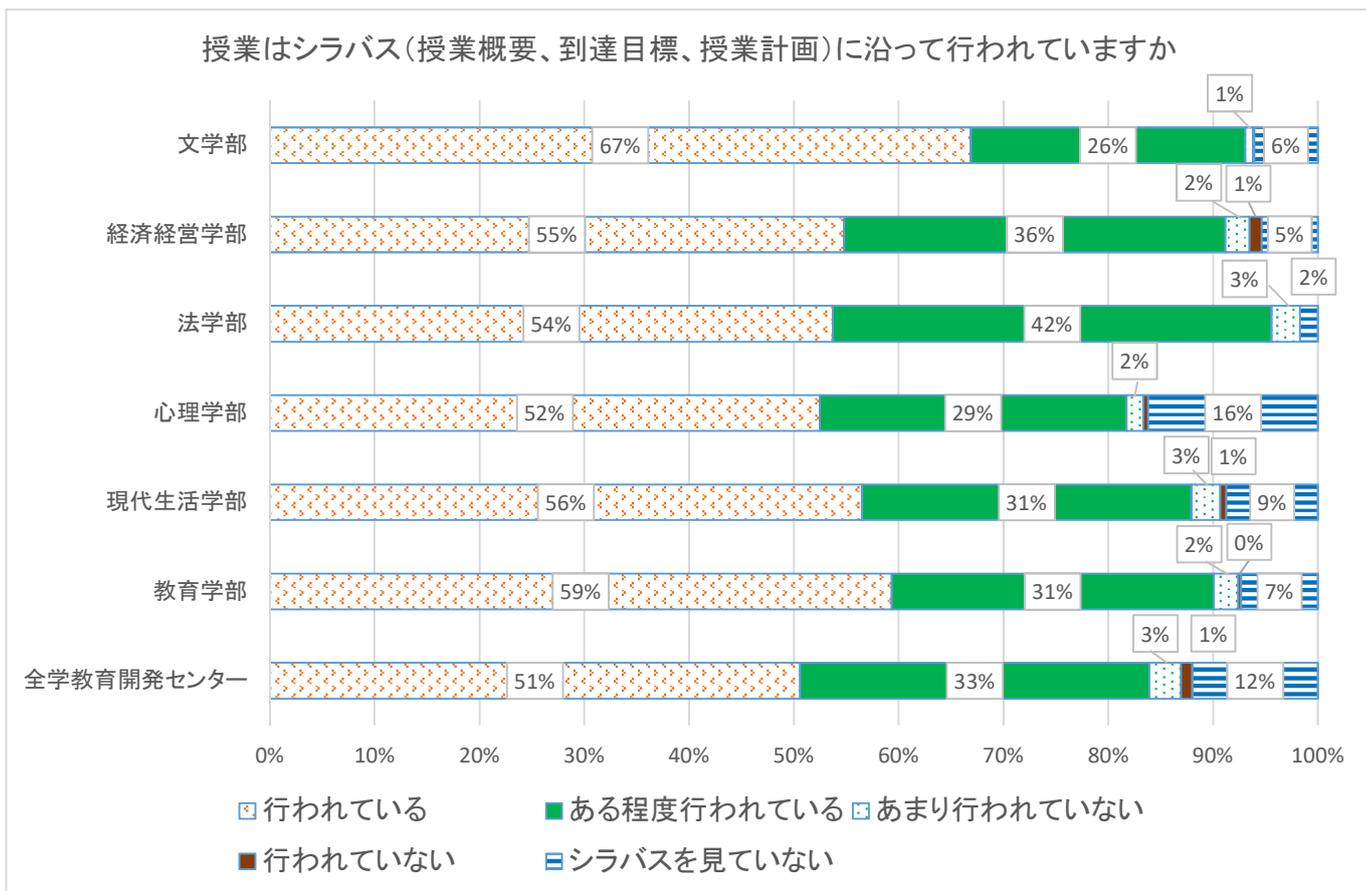
質問	回答					総回収数
	遅い	やや遅い	適切	やや速い	速い	
1. あなたにとってこの授業の進度は適切ですか。						
文学部	3 0%	35 4%	824 86%	75 8%	17 2%	954 100%
経済経営学部	3 1%	17 3%	437 84%	45 9%	20 4%	522 100%
法学部	1 0%	8 3%	245 83%	38 13%	2 1%	294 100%
心理学部	6 1%	16 2%	673 83%	96 12%	19 2%	810 100%
現代生活学部	4 0%	53 2%	1,755 83%	229 11%	83 4%	2,124 100%
教育学部	10 1%	28 3%	838 84%	85 9%	37 4%	998 100%
全学教育開発センター	6 1%	29 3%	891 81%	134 12%	35 3%	1,095 100%



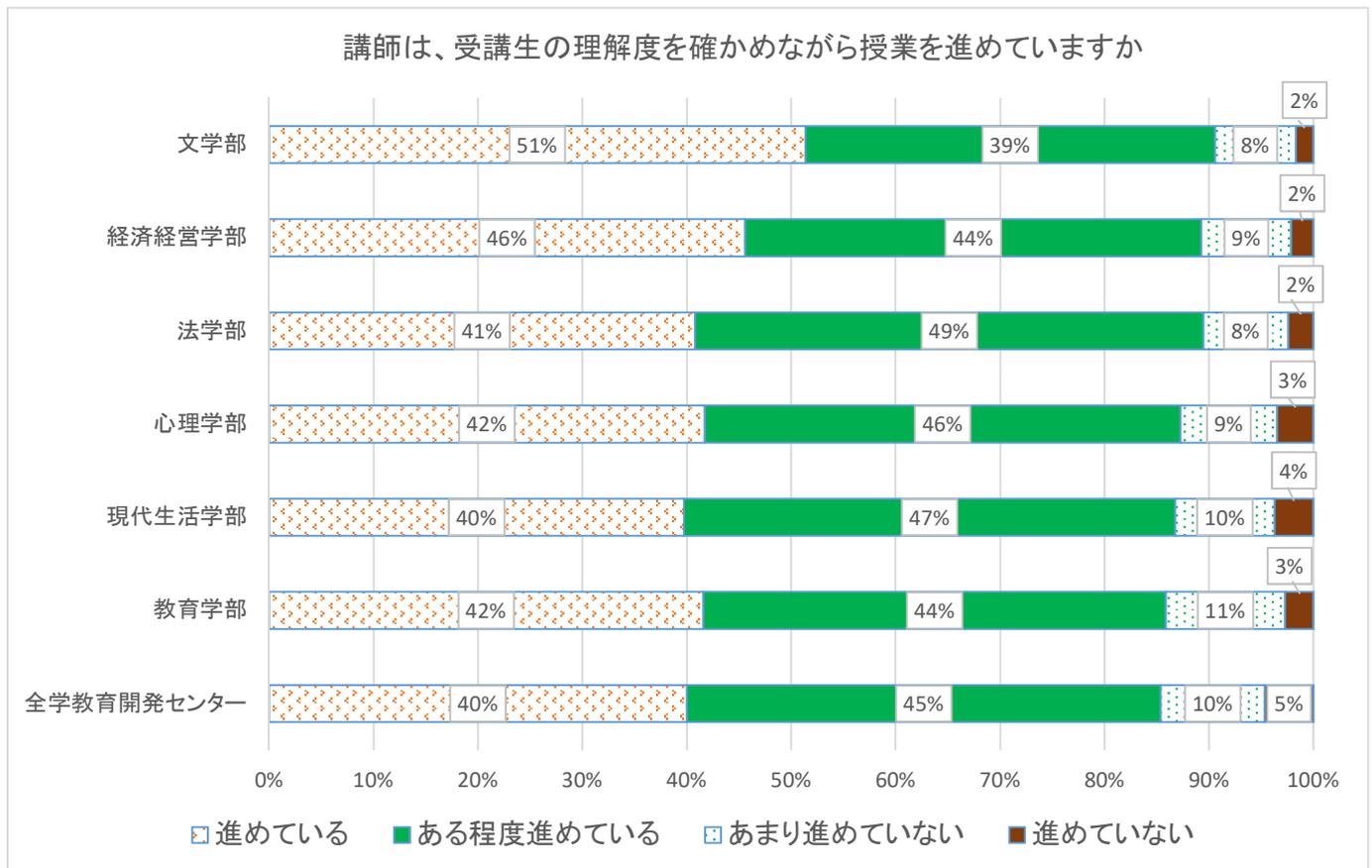
2. あなたにとってこの授業の難易度は適切ですか。	易しい	やや易しい	適切	やや難しい	難しい	総回収数
文学部	23	42	594	223	72	954
	2%	4%	62%	23%	8%	100%
経済経営学部	6	22	331	116	47	522
	1%	4%	63%	22%	9%	100%
法学部	7	12	176	76	23	294
	2%	4%	60%	26%	8%	100%
心理学部	14	30	451	225	90	810
	2%	4%	56%	28%	11%	100%
現代生活学部	28	82	1,362	463	189	2,124
	1%	4%	64%	22%	9%	100%
教育学部	14	36	678	217	53	998
	1%	4%	68%	22%	5%	100%
全学教育開発センター	20	66	586	314	109	1,095
	2%	6%	54%	29%	10%	100%



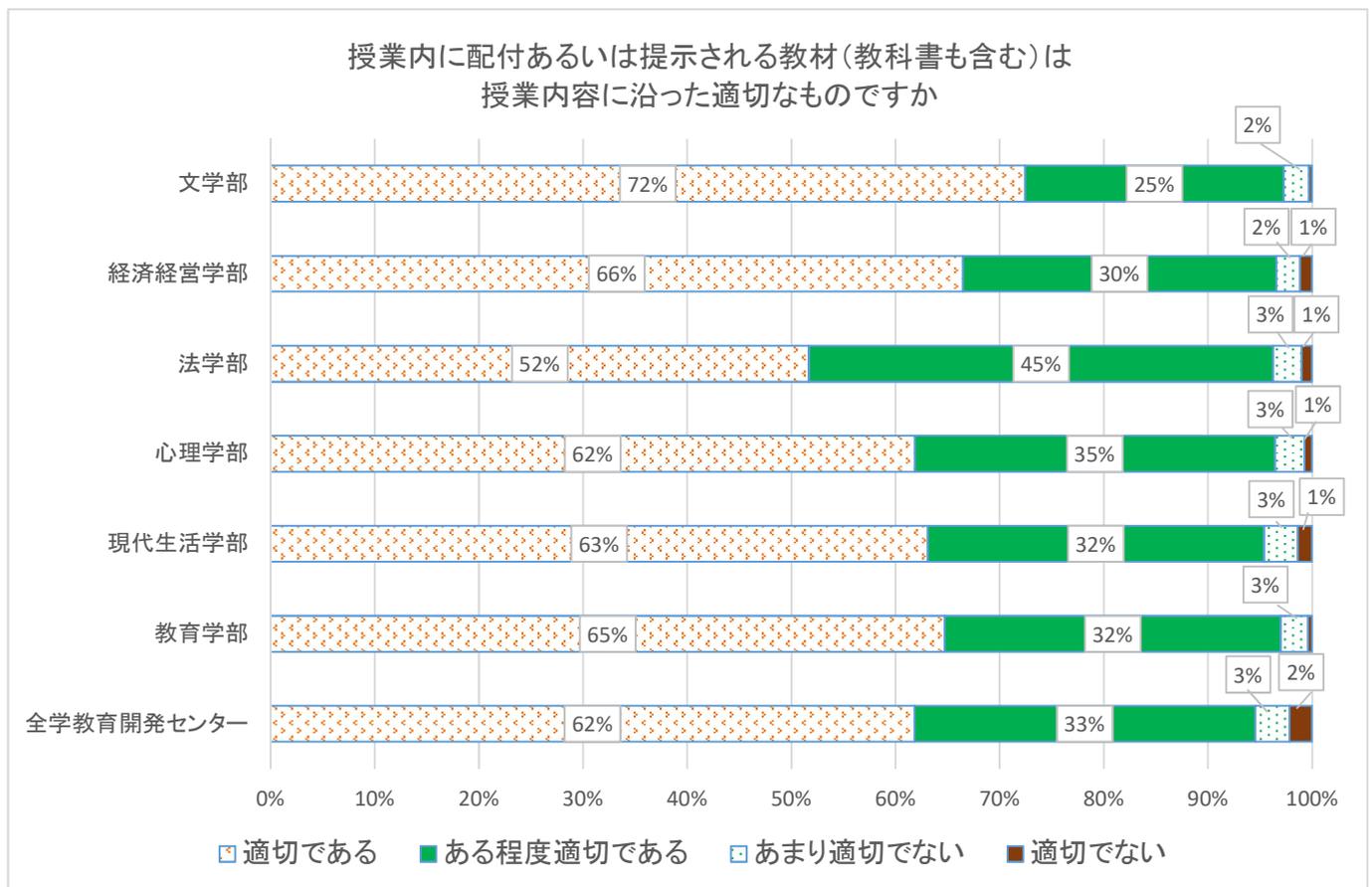
3. 授業はシラバス(授業概要、到達目標、授業計画)に沿って行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	シラバスを見ていない	総回収数
文学部	638	250	7	1	58	954
	67%	26%	1%	0%	6%	100%
経済経営学部	286	190	12	6	28	522
	55%	36%	2%	1%	5%	100%
法学部	158	123	8	0	5	294
	54%	42%	3%	0%	2%	100%
心理学部	425	237	13	4	131	810
	52%	29%	2%	0%	16%	100%
現代生活学部	1,200	668	58	13	185	2,124
	56%	31%	3%	1%	9%	100%
教育学部	592	307	23	3	73	998
	59%	31%	2%	0%	7%	100%
全学教育開発センター	554	365	33	12	131	1,095
	51%	33%	3%	1%	12%	100%



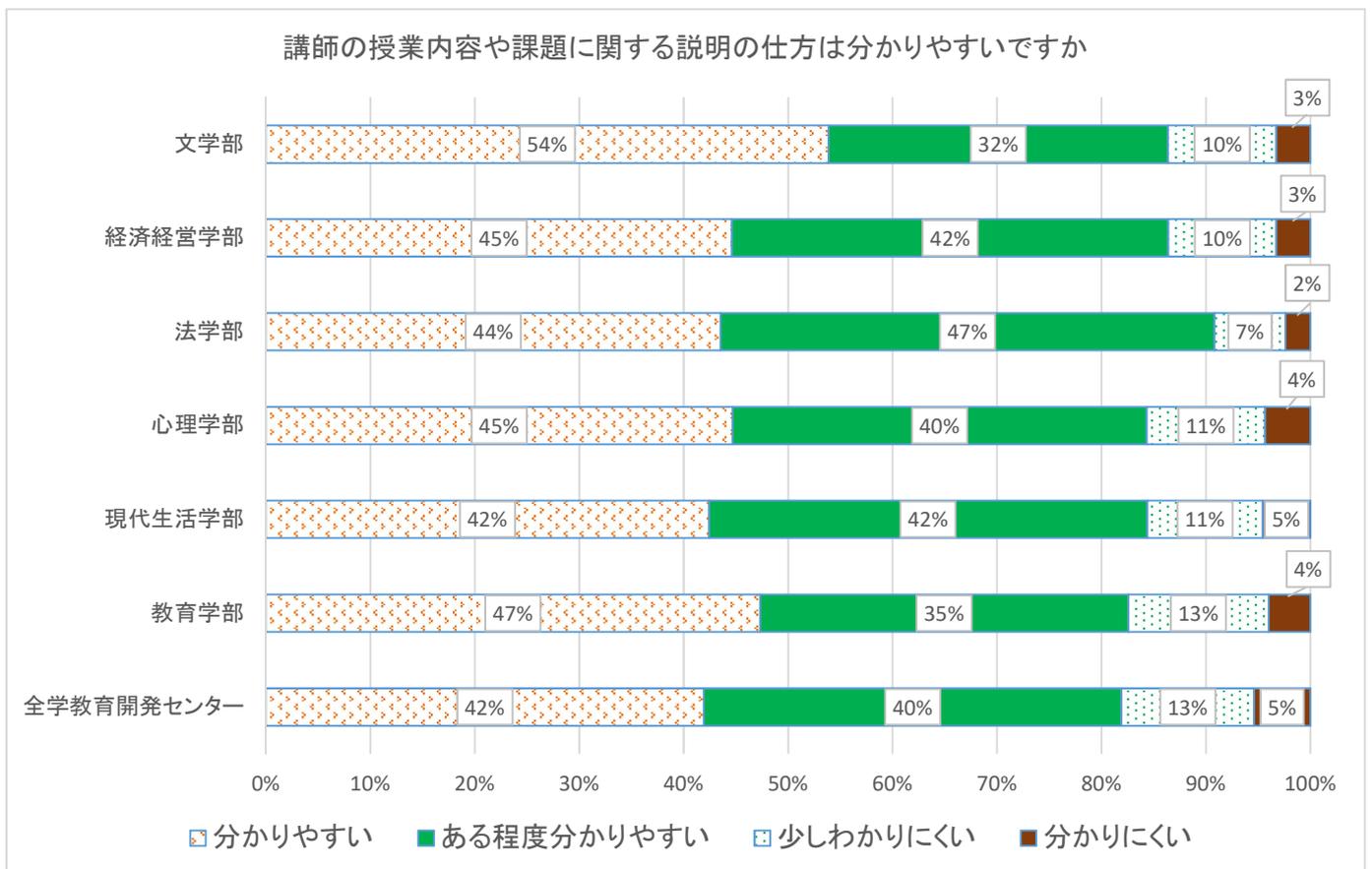
4. 講師は、受講生の理解度を確かめながら授業を進めていますか。	進めている	ある程度進めている	あまり進めていない	進めていない	総回収数
文学部	490	374	74	16	954
	51%	39%	8%	2%	100%
経済経営学部	238	228	45	11	522
	46%	44%	9%	2%	100%
法学部	120	143	24	7	294
	41%	49%	8%	2%	100%
心理学部	338	369	75	28	810
	42%	46%	9%	3%	100%
現代生活学部	844	999	202	79	2,124
	40%	47%	10%	4%	100%
教育学部	415	442	114	27	998
	42%	44%	11%	3%	100%
全学教育開発センター	438	497	109	51	1,095
	40%	45%	10%	5%	100%



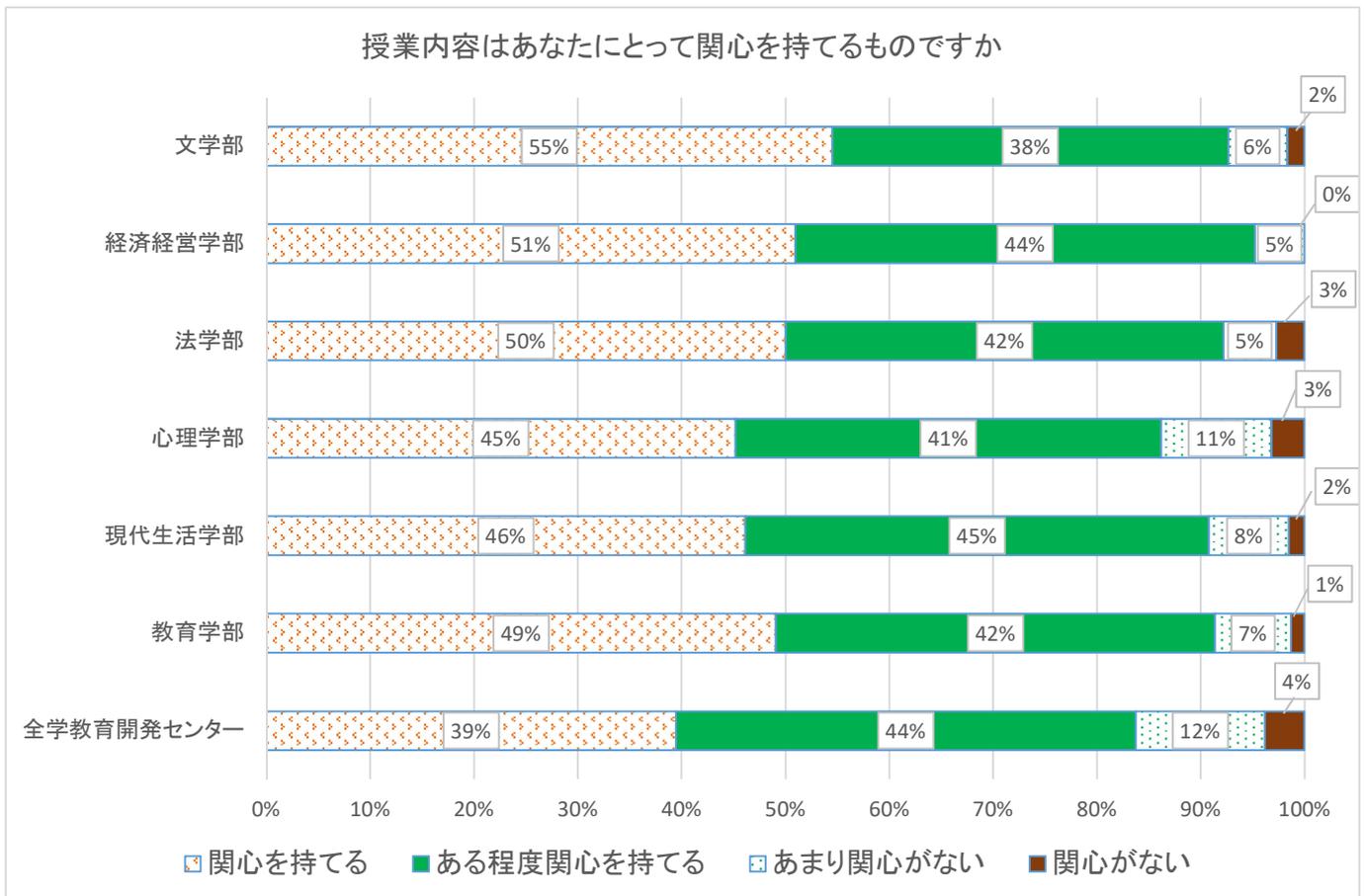
5. 授業内に配付あるいは提示される教材(教科書も含む)は授業内容に沿った適切なものですか。	適切である	ある程度適切である	あまり適切でない	適切でない	総回収数
	文学部	691 72%	237 25%	23 2%	3 0%
経済経営学部	347 66%	157 30%	12 2%	6 1%	522 100%
法学部	152 52%	131 45%	8 3%	3 1%	294 100%
心理学部	501 62%	280 35%	23 3%	6 1%	810 100%
現代生活学部	1,340 63%	686 32%	69 3%	29 1%	2,124 100%
教育学部	646 65%	322 32%	26 3%	4 0%	998 100%
全学教育開発センター	677 62%	358 33%	36 3%	24 2%	1,095 100%



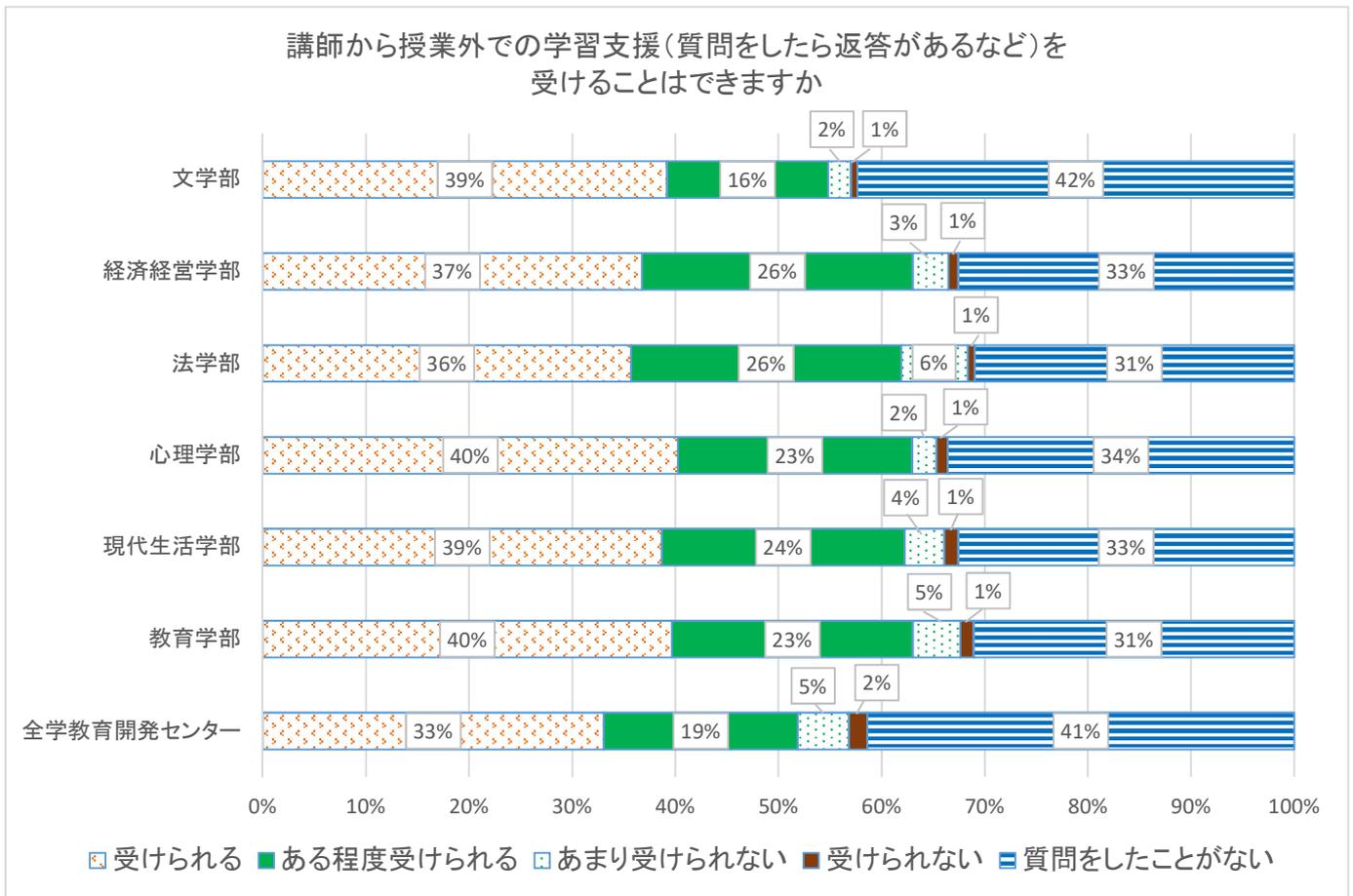
6. 講師の授業内容や課題に関する説明の仕方は分かりやすいですか。	分かりやすい	ある程度分かりやすい	少しわかりにくい	分かりにくい	総回収数
文学部	514	310	99	31	954
	54%	32%	10%	3%	100%
経済経営学部	233	218	54	17	522
	45%	42%	10%	3%	100%
法学部	128	139	20	7	294
	44%	47%	7%	2%	100%
心理学部	362	321	92	35	810
	45%	40%	11%	4%	100%
現代生活学部	901	891	235	97	2,124
	42%	42%	11%	5%	100%
教育学部	472	352	134	40	998
	47%	35%	13%	4%	100%
全学教育開発センター	459	438	139	59	1,095
	42%	40%	13%	5%	100%



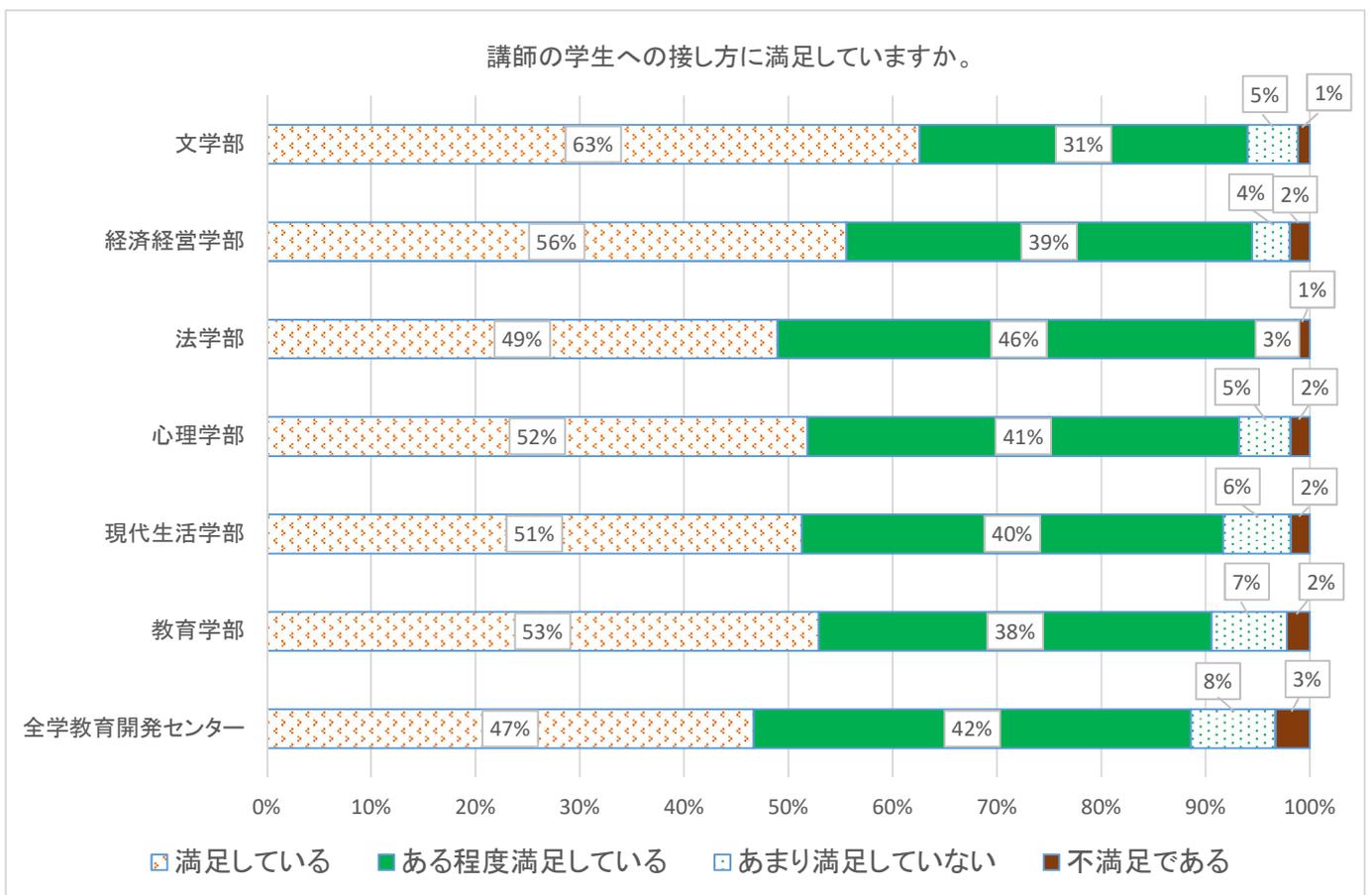
7. 授業内容はあなたにとって関 心を持てるものですか。	関心を持て る	ある程度関 心を持てる	あまり関心 がない	関心がない	総回収数
文学部	520	364	54	16	954
	55%	38%	6%	2%	100%
経済経営学部	266	231	25	0	522
	51%	44%	5%	0%	100%
法学部	147	124	15	8	294
	50%	42%	5%	3%	100%
心理学部	366	332	86	26	810
	45%	41%	11%	3%	100%
現代生活学部	980	948	164	32	2,124
	46%	45%	8%	2%	100%
教育学部	490	422	73	13	998
	49%	42%	7%	1%	100%
全学教育開発センター	432	485	136	42	1,095
	39%	44%	12%	4%	100%



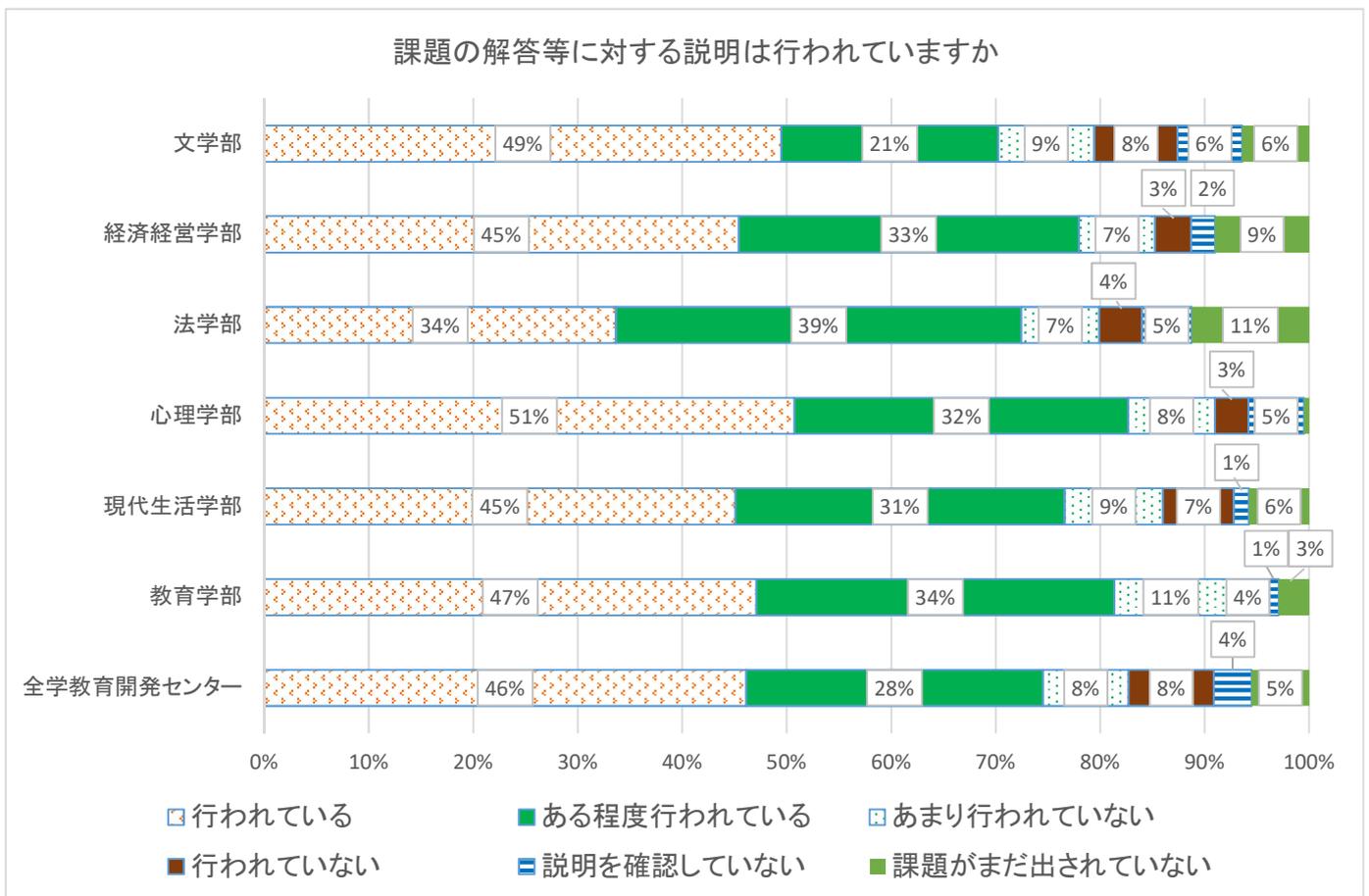
8. 講師から授業外での学習支援 (質問をしたら返答があるなど)を 受けることはできますか。	受けられる	ある程度受けられる	あまり受けられない	受けられない	質問をしたことがない	総回収数
文学部	374	149	21	6	404	954
	39%	16%	2%	1%	42%	100%
経済経営学部	192	137	18	5	170	522
	37%	26%	3%	1%	33%	100%
法学部	105	77	19	2	91	294
	36%	26%	6%	1%	31%	100%
心理学部	326	184	19	9	272	810
	40%	23%	2%	1%	34%	100%
現代生活学部	822	500	82	28	692	2,124
	39%	24%	4%	1%	33%	100%
教育学部	396	233	46	13	310	998
	40%	23%	5%	1%	31%	100%
全学教育開発センター	362	206	54	20	453	1,095
	33%	19%	5%	2%	41%	100%



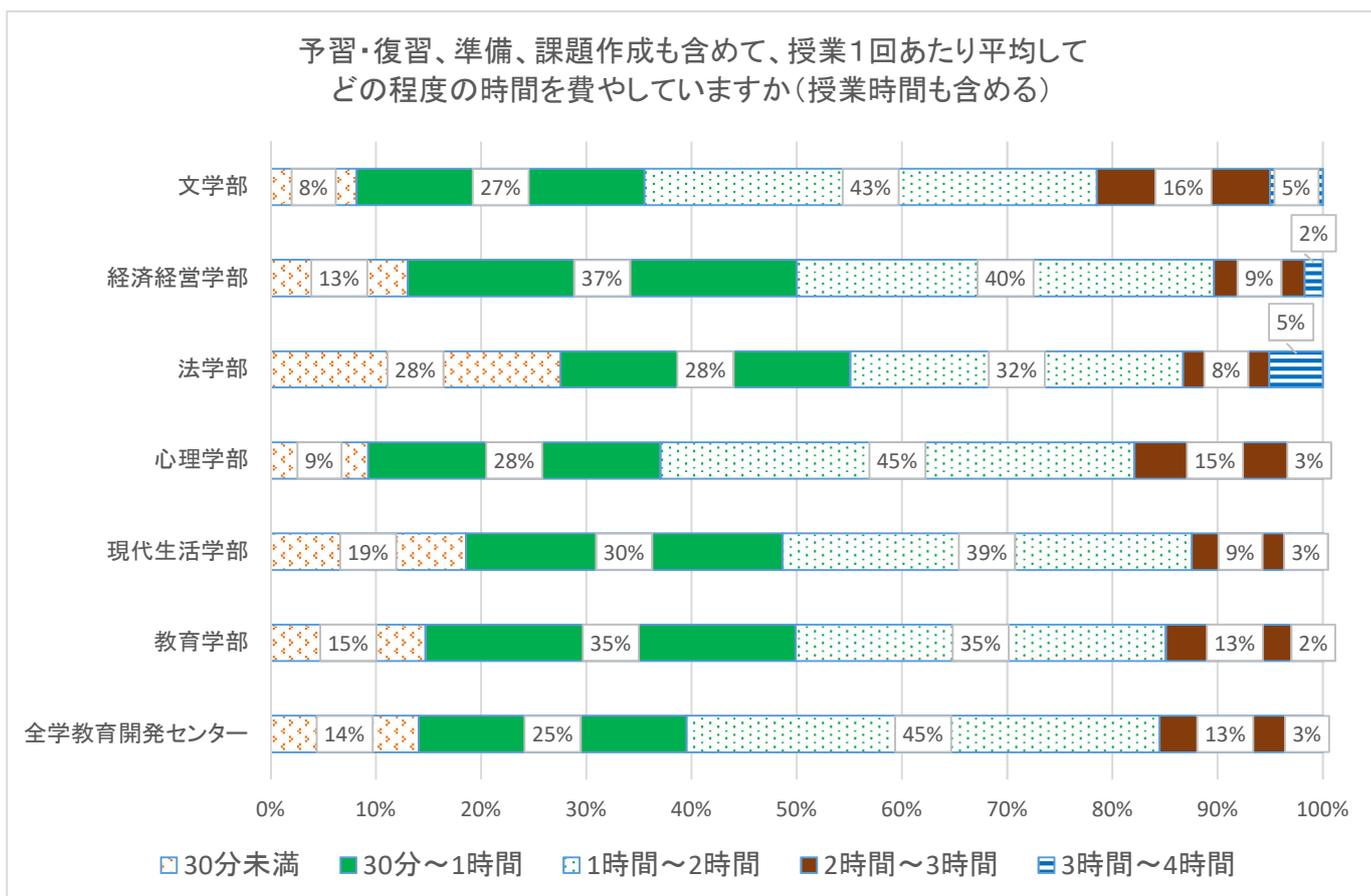
9. 講師の学生への接し方に満足していますか。	満足している	ある程度満足している	あまり満足していない	不満足である	総回収数
文学部	597	300	46	11	954
	63%	31%	5%	1%	100%
経済経営学部	290	203	19	10	522
	56%	39%	4%	2%	100%
法学部	144	136	10	4	294
	49%	46%	3%	1%	100%
心理学部	420	335	40	15	810
	52%	41%	5%	2%	100%
現代生活学部	1,089	858	138	39	2,124
	51%	40%	6%	2%	100%
教育学部	528	376	72	22	998
	53%	38%	7%	2%	100%
全学教育開発センター	511	459	89	36	1,095
	47%	42%	8%	3%	100%



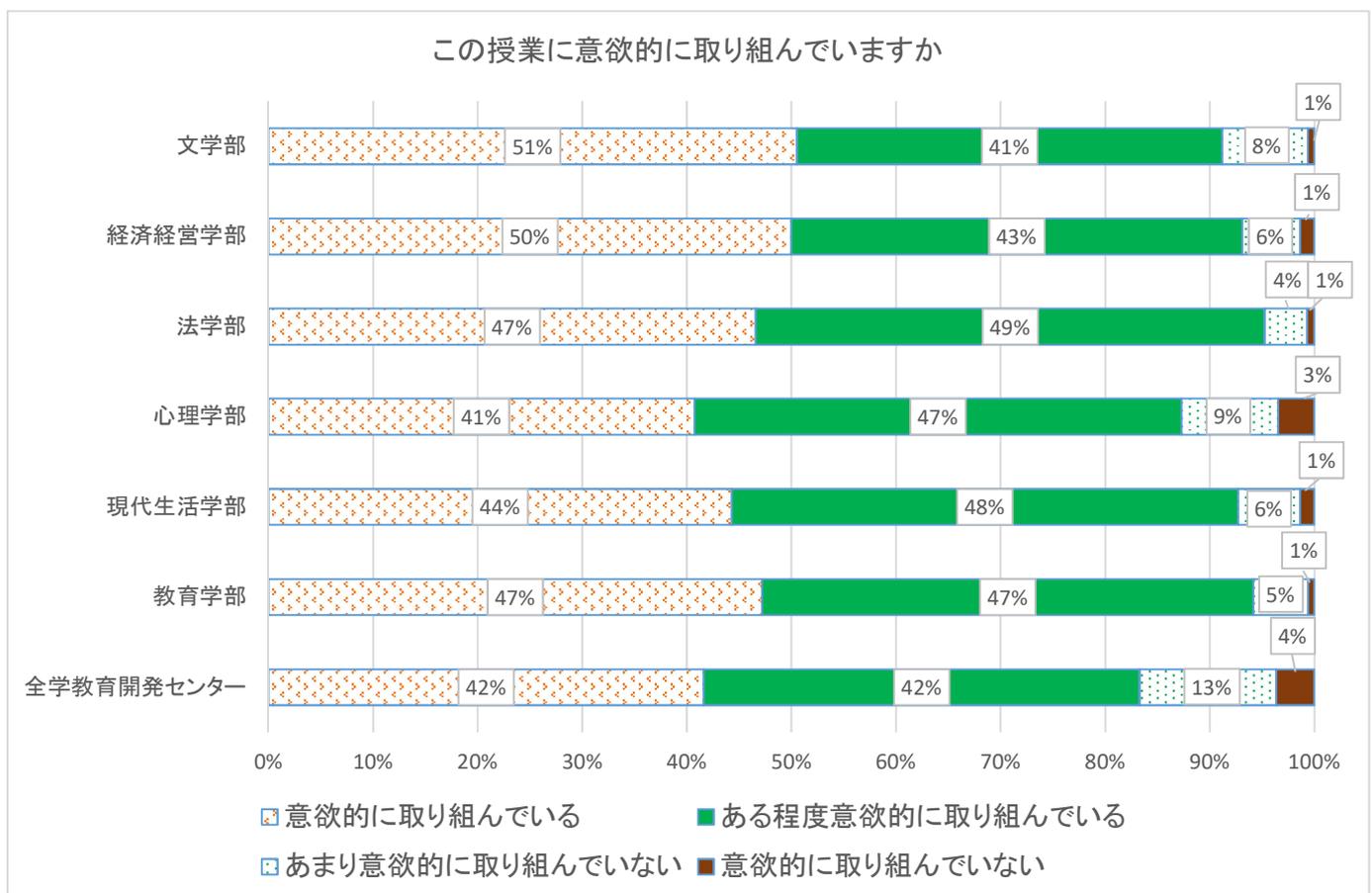
10. 課題の解答等に対する説明は行われていますか。	行われている	ある程度行われている	あまり行われていない	行われていない	説明を確認していない	課題がまだ出されていない	総回収数
文学部	472	198	88	76	59	61	954
	49%	21%	9%	8%	6%	6%	100%
経済経営学部	237	170	38	18	12	47	522
	45%	33%	7%	3%	2%	9%	100%
法学部	99	114	22	12	14	33	294
	34%	39%	7%	4%	5%	11%	100%
心理学部	411	259	67	26	43	4	810
	51%	32%	8%	3%	5%	0%	100%
現代生活学部	958	669	200	144	31	122	2,124
	45%	31%	9%	7%	1%	6%	100%
教育学部	470	342	108	39	10	29	998
	47%	34%	11%	4%	1%	3%	100%
全学教育開発センター	505	311	90	89	40	60	1,095
	46%	28%	8%	8%	4%	5%	100%



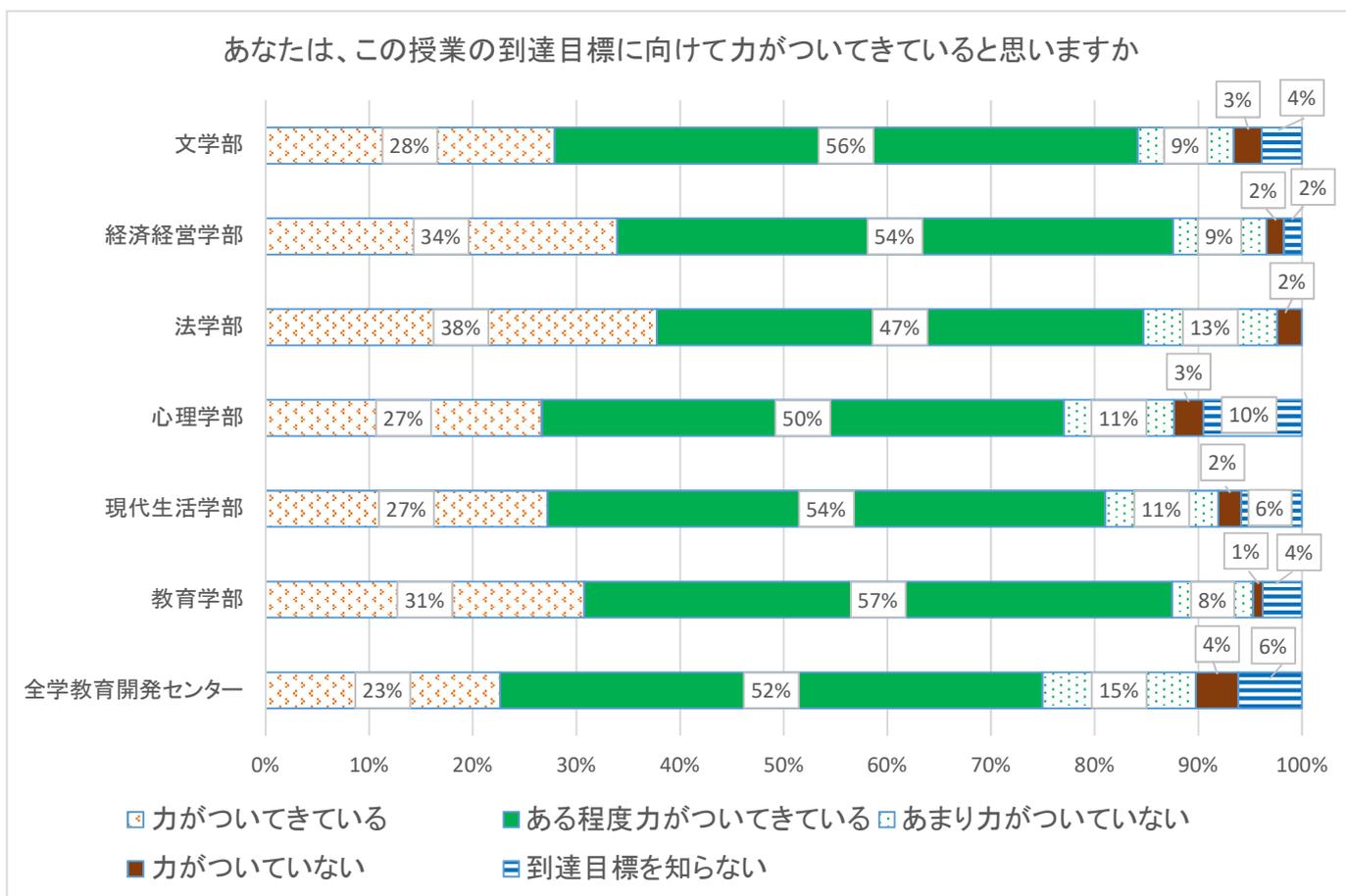
11. 予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業1回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか(授業時間も含める)。	30分未満	30分～1時間	1時間～2時間	2時間～3時間	3時間～4時間	総回収数
文学部	78	261	410	157	48	954
	8%	27%	43%	16%	5%	100%
経済経営学部	68	193	207	45	9	522
	13%	37%	40%	9%	2%	100%
法学部	81	81	93	24	15	294
	28%	28%	32%	8%	5%	100%
心理学部	75	225	365	124	21	810
	9%	28%	45%	15%	3%	100%
現代生活学部	394	639	826	197	68	2,124
	19%	30%	39%	9%	3%	100%
教育学部	147	351	351	131	18	998
	15%	35%	35%	13%	2%	100%
全学教育開発センター	154	279	492	137	33	1,095
	14%	25%	45%	13%	3%	100%



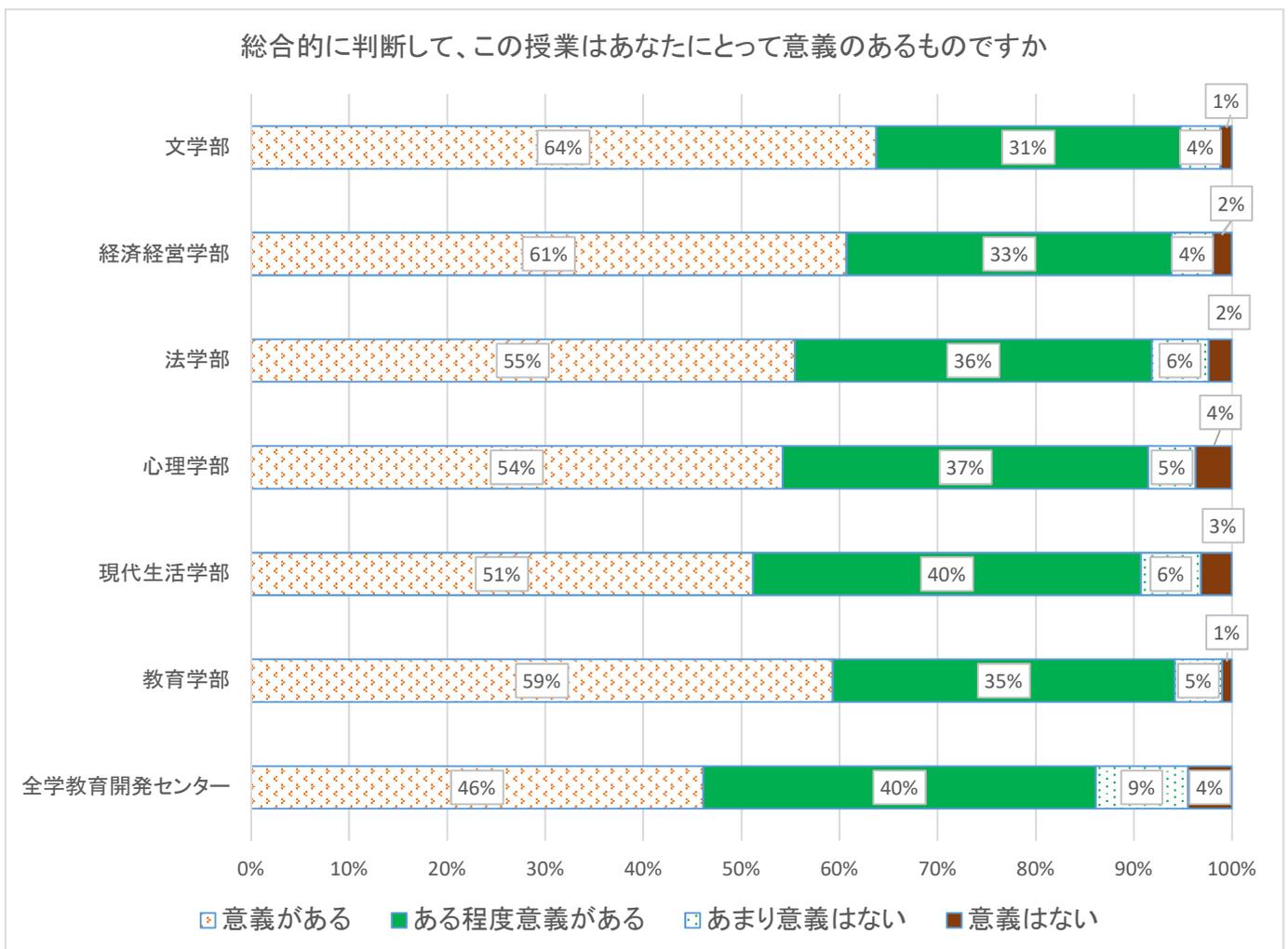
12. この授業に意欲的に取り組んでいますか。	意欲的に取り組んでいる	ある程度意欲的に取り組んでいる	あまり意欲的に取り組んでいない	意欲的に取り組んでいない	総回収数
文学部	482	388	78	6	954
	51%	41%	8%	1%	100%
経済経営学部	261	225	29	7	522
	50%	43%	6%	1%	100%
法学部	137	143	12	2	294
	47%	49%	4%	1%	100%
心理学部	330	377	75	28	810
	41%	47%	9%	3%	100%
現代生活学部	941	1,028	126	29	2,124
	44%	48%	6%	1%	100%
教育学部	471	469	52	6	998
	47%	47%	5%	1%	100%
全学教育開発センター	456	456	143	40	1,095
	42%	42%	13%	4%	100%



13. あなたは、この授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。	力がついてきている	ある程度力がついてきている	あまり力がついていない	力がついていない	到達目標を知らない	総回収数
文学部	266	537	88	26	37	954
	28%	56%	9%	3%	4%	100%
経済経営学部	177	280	47	9	9	522
	34%	54%	9%	2%	2%	100%
法学部	111	138	38	7	0	294
	38%	47%	13%	2%	0%	100%
心理学部	216	408	86	23	77	810
	27%	50%	11%	3%	10%	100%
現代生活学部	578	1,143	231	48	124	2,124
	27%	54%	11%	2%	6%	100%
教育学部	307	566	78	9	38	998
	31%	57%	8%	1%	4%	100%
全学教育開発センター	248	573	162	45	67	1,095
	23%	52%	15%	4%	6%	100%



14. 総合的に判断して、この授業はあなたにとって意義のあるものですか。	意義がある	ある程度意義がある	あまり意義はない	意義はない	総回収数
文学部	608	296	39	11	954
	64%	31%	4%	1%	100%
経済経営学部	317	173	22	10	522
	61%	33%	4%	2%	100%
法学部	163	107	17	7	294
	55%	36%	6%	2%	100%
心理学部	439	302	39	30	810
	54%	37%	5%	4%	100%
現代生活学部	1,087	840	130	67	2,124
	51%	40%	6%	3%	100%
教育学部	592	348	48	10	998
	59%	35%	5%	1%	100%
全学教育開発センター	505	438	103	49	1,095
	46%	40%	9%	4%	100%



(8) 後期授業アンケート集計結果

ア. 全学部

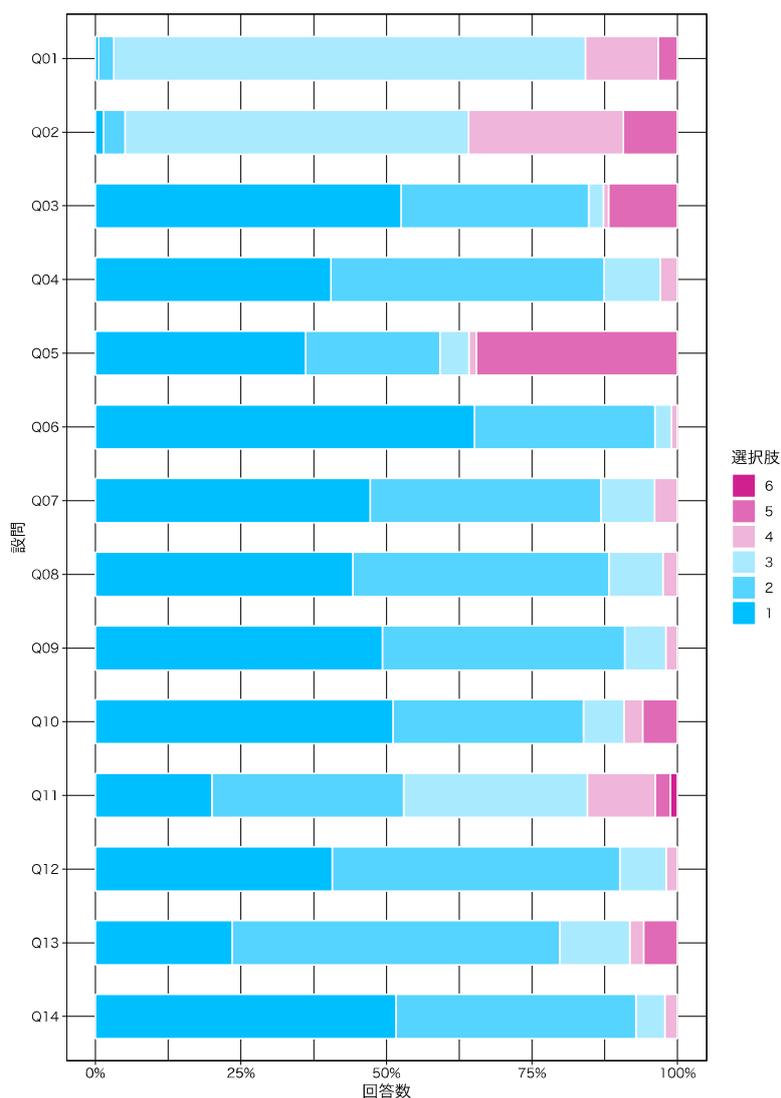
アンケート回答を全学部について集計した結果を表3及び図1に示す。

表3：全学部アンケート集計結果

質問	1	2	3	4	5	6
Q01	32	154	4,825	743	200	—
Q02	84	219	3,509	1,581	555	—
Q03	3,119	1,917	149	54	703	—
Q04	2,407	2,793	574	175	—	—
Q05	2,144	1,374	296	76	2,053	—
Q06	3,867	1,840	167	64	—	—
Q07	2,801	2,356	547	234	—	—
Q08	2,625	2,612	551	150	—	—
Q09	2,922	2,470	417	120	—	—
Q10	3,038	1,947	412	191	356	—
Q11	1,189	1,957	1,875	693	155	75
Q12	2,414	2,937	473	115	—	—
Q13	1,395	3,336	715	140	347	—
Q14	3,039	2,426	294	127	—	—

質問	1	2	3	4	5	6
Q01	0.5%	2.6%	81.0%	12.5%	3.4%	—
Q02	1.4%	3.7%	59.0%	26.6%	9.3%	—
Q03	52.5%	32.3%	2.5%	0.9%	11.8%	—
Q04	40.5%	46.9%	9.6%	2.9%	—	—
Q05	36.1%	23.1%	5.0%	1.3%	34.5%	—
Q06	65.1%	31.0%	2.8%	1.1%	—	—
Q07	47.2%	39.7%	9.2%	3.9%	—	—
Q08	44.2%	44.0%	9.3%	2.5%	—	—
Q09	49.3%	41.7%	7.0%	2.0%	—	—
Q10	51.1%	32.8%	6.9%	3.2%	6.0%	—
Q11	20.0%	32.9%	31.5%	11.7%	2.6%	1.3%
Q12	40.6%	49.5%	8.0%	1.9%	—	—
Q13	23.5%	56.2%	12.1%	2.4%	5.8%	—
Q14	51.6%	41.2%	5.0%	2.2%	—	—

図1：全学部アンケート集計結果



イ. 科目開講所属別

アンケート回答を開講学部毎に集計した結果を表4及び図2, 3に示す。

表4：科目開講所属別アンケート集計結果

文学部

質問	1	2	3	4	5	6
Q01	2	14	666	53	6	—
Q02	12	36	529	147	17	—
Q03	447	200	6	3	85	—
Q04	353	334	39	14	—	—
Q05	296	144	19	8	272	—
Q06	560	165	8	5	—	—
Q07	444	248	35	12	—	—
Q08	375	314	39	11	—	—
Q09	451	258	23	5	—	—
Q10	420	188	39	29	62	—
Q11	143	285	247	53	7	6
Q12	319	376	36	9	—	—
Q13	191	430	63	4	51	—
Q14	430	276	19	10	—	—

1	2	3	4	5	6
0.3%	1.9%	89.9%	7.2%	0.8%	—
1.6%	4.9%	71.4%	19.8%	2.3%	—
60.3%	27.0%	0.8%	0.4%	11.5%	—
47.7%	45.1%	5.3%	1.9%	—	—
40.1%	19.5%	2.6%	1.1%	36.8%	—
75.9%	22.4%	1.1%	0.7%	—	—
60.1%	33.6%	4.7%	1.6%	—	—
50.7%	42.5%	5.3%	1.5%	—	—
61.2%	35.0%	3.1%	0.7%	—	—
56.9%	25.5%	5.3%	3.9%	8.4%	—
19.3%	38.5%	33.3%	7.2%	0.9%	0.8%
43.1%	50.8%	4.9%	1.2%	—	—
25.8%	58.2%	8.5%	0.5%	6.9%	—
58.5%	37.6%	2.6%	1.4%	—	—

経済経営学部

質問	1	2	3	4	5	6
Q01	6	29	667	100	24	—
Q02	20	29	468	236	73	—
Q03	409	318	29	6	63	—
Q04	356	381	70	19	—	—
Q05	259	216	40	7	301	—
Q06	527	276	20	2	—	—
Q07	377	345	81	20	—	—
Q08	376	364	70	13	—	—
Q09	384	376	55	9	—	—
Q10	424	280	49	19	53	—
Q11	190	298	246	72	10	7
Q12	362	407	46	11	—	—
Q13	231	463	84	18	28	—
Q14	407	345	44	16	—	—

1	2	3	4	5	6
0.7%	3.5%	80.8%	12.1%	2.9%	—
2.4%	3.5%	56.7%	28.6%	8.8%	—
49.6%	38.5%	3.5%	0.7%	7.6%	—
43.1%	46.1%	8.5%	2.3%	—	—
31.5%	26.2%	4.9%	0.9%	36.6%	—
63.9%	33.5%	2.4%	0.2%	—	—
45.8%	41.9%	9.8%	2.4%	—	—
45.7%	44.2%	8.5%	1.6%	—	—
46.6%	45.6%	6.7%	1.1%	—	—
51.4%	33.9%	5.9%	2.3%	6.4%	—
23.1%	36.2%	29.9%	8.7%	1.2%	0.9%
43.8%	49.3%	5.6%	1.3%	—	—
28.0%	56.2%	10.2%	2.2%	3.4%	—
50.1%	42.5%	5.4%	2.0%	—	—

法学部

質問	1	2	3	4	5	6
Q01	6	20	347	75	18	—
Q02	7	17	245	135	62	—
Q03	198	188	24	8	46	—
Q04	183	223	44	15	—	—
Q05	154	108	27	5	172	—
Q06	250	187	18	10	—	—
Q07	200	182	58	26	—	—
Q08	200	197	51	18	—	—
Q09	220	192	36	16	—	—
Q10	205	167	32	20	42	—
Q11	107	129	155	56	9	10
Q12	176	231	50	7	—	—
Q13	105	247	67	20	26	—
Q14	234	187	33	9	—	—

1	2	3	4	5	6
1.3%	4.3%	74.5%	16.1%	3.9%	—
1.5%	3.6%	52.6%	29.0%	13.3%	—
42.7%	40.5%	5.2%	1.7%	9.9%	—
39.4%	48.0%	9.5%	3.2%	—	—
33.0%	23.2%	5.8%	1.1%	36.9%	—
53.8%	40.2%	3.9%	2.2%	—	—
42.9%	39.1%	12.4%	5.6%	—	—
42.9%	42.3%	10.9%	3.9%	—	—
47.4%	41.4%	7.8%	3.4%	—	—
44.0%	35.8%	6.9%	4.3%	9.0%	—
23.0%	27.7%	33.3%	12.0%	1.9%	2.1%
37.9%	49.8%	10.8%	1.5%	—	—
22.6%	53.1%	14.4%	4.3%	5.6%	—
50.5%	40.4%	7.1%	1.9%	—	—

心理学部

質問	1	2	3	4	5	6
Q01	4	30	878	120	53	—
Q02	9	35	642	271	128	—
Q03	589	314	19	12	150	—
Q04	478	470	103	33	—	—
Q05	467	230	48	6	334	—

1	2	3	4	5	6
0.4%	2.8%	80.9%	11.1%	4.9%	—
0.8%	3.2%	59.2%	25.0%	11.8%	—
54.3%	29.0%	1.8%	1.1%	13.8%	—
44.1%	43.4%	9.5%	3.0%	—	—
43.0%	21.2%	4.4%	0.6%	30.8%	—

心理学部続き

Q06	737	292	38	14	—	—
Q07	572	378	87	46	—	—
Q08	546	409	102	26	—	—
Q09	615	379	67	19	—	—
Q10	631	329	50	17	58	—
Q11	230	336	318	160	26	14
Q12	448	489	112	35	—	—
Q13	290	548	131	30	86	—
Q14	623	376	52	27	—	—

68.2%	27.0%	3.5%	1.3%	—	—
52.8%	34.9%	8.0%	4.2%	—	—
50.4%	37.8%	9.4%	2.4%	—	—
56.9%	35.1%	6.2%	1.8%	—	—
58.2%	30.3%	4.6%	1.6%	5.3%	—
21.2%	31.0%	29.3%	14.8%	2.4%	1.3%
41.3%	45.1%	10.3%	3.2%	—	—
26.7%	50.5%	12.1%	2.8%	7.9%	—
57.8%	34.9%	4.8%	2.5%	—	—

現代生活学部

質問	1	2	3	4	5	6
Q01	8	32	1174	195	58	—
Q02	22	44	834	404	159	—
Q03	811	399	41	17	196	—
Q04	552	720	138	56	—	—
Q05	557	348	86	27	447	—
Q06	952	452	40	20	—	—
Q07	657	599	132	73	—	—
Q08	596	686	138	41	—	—
Q09	677	625	118	40	—	—
Q10	747	476	120	58	62	—
Q11	312	499	444	135	45	28
Q12	574	733	122	29	—	—
Q13	306	825	206	43	77	—
Q14	697	635	77	35	—	—

1	2	3	4	5	6
0.5%	2.2%	80.0%	13.3%	4.0%	—
1.5%	3.0%	57.0%	27.6%	10.9%	—
55.4%	27.3%	2.8%	1.2%	13.4%	—
37.7%	49.1%	9.4%	3.8%	—	—
38.0%	23.8%	5.9%	1.8%	30.5%	—
65.0%	30.9%	2.7%	1.4%	—	—
45.0%	41.0%	9.0%	5.0%	—	—
40.8%	47.0%	9.4%	2.8%	—	—
46.4%	42.8%	8.1%	2.7%	—	—
51.1%	32.5%	8.2%	4.0%	4.2%	—
21.3%	34.1%	30.3%	9.2%	3.1%	1.9%
39.4%	50.3%	8.4%	2.0%	—	—
21.0%	56.6%	14.1%	3.0%	5.3%	—
48.3%	44.0%	5.3%	2.4%	—	—

教育学部

質問	1	2	3	4	5	6
Q01	1	13	436	91	16	—
Q02	5	15	330	163	44	—
Q03	247	209	15	1	83	—
Q04	166	287	88	16	—	—
Q05	136	144	28	7	240	—
Q06	320	212	19	5	—	—
Q07	212	249	74	21	—	—
Q08	208	278	60	9	—	—
Q09	211	278	58	8	—	—
Q10	235	219	68	18	17	—
Q11	55	131	181	141	41	8
Q12	218	302	34	2	—	—
Q13	99	376	42	7	31	—
Q14	271	243	27	7	—	—

1	2	3	4	5	6
0.2%	2.3%	78.3%	16.3%	2.9%	—
0.9%	2.7%	59.2%	29.3%	7.9%	—
44.5%	37.7%	2.7%	0.2%	15.0%	—
29.8%	51.5%	15.8%	2.9%	—	—
24.5%	25.9%	5.0%	1.3%	43.2%	—
57.6%	38.1%	3.4%	0.9%	—	—
38.1%	44.8%	13.3%	3.8%	—	—
37.5%	50.1%	10.8%	1.6%	—	—
38.0%	50.1%	10.5%	1.4%	—	—
42.2%	39.3%	12.2%	3.2%	3.1%	—
9.9%	23.5%	32.5%	25.3%	7.4%	1.4%
39.2%	54.3%	6.1%	0.4%	—	—
17.8%	67.7%	7.6%	1.3%	5.6%	—
49.5%	44.3%	4.9%	1.3%	—	—

大学共通

質問	1	2	3	4	5	6
Q01	5	16	657	109	25	—
Q02	9	43	461	225	72	—
Q03	418	289	15	7	80	—
Q04	319	378	92	22	—	—
Q05	275	184	48	16	287	—
Q06	521	256	24	8	—	—
Q07	339	355	80	36	—	—
Q08	324	364	91	32	—	—
Q09	364	362	60	23	—	—
Q10	376	288	54	30	62	—
Q11	152	279	284	76	17	2
Q12	317	399	73	22	—	—
Q13	173	447	122	18	48	—
Q14	377	364	42	23	—	—

1	2	3	4	5	6
0.6%	2.0%	80.9%	13.4%	3.1%	—
1.1%	5.3%	56.9%	27.8%	8.9%	—
51.7%	35.7%	1.9%	0.9%	9.9%	—
39.3%	46.6%	11.3%	2.7%	—	—
34.0%	22.7%	5.9%	2.0%	35.4%	—
64.4%	31.6%	3.0%	1.0%	—	—
41.9%	43.8%	9.9%	4.4%	—	—
40.0%	44.9%	11.2%	3.9%	—	—
45.0%	44.7%	7.4%	2.8%	—	—
46.4%	35.6%	6.7%	3.7%	7.7%	—
18.8%	34.4%	35.1%	9.4%	2.1%	0.2%
39.1%	49.2%	9.0%	2.7%	—	—
21.4%	55.3%	15.1%	2.2%	5.9%	—
46.8%	45.2%	5.2%	2.9%	—	—

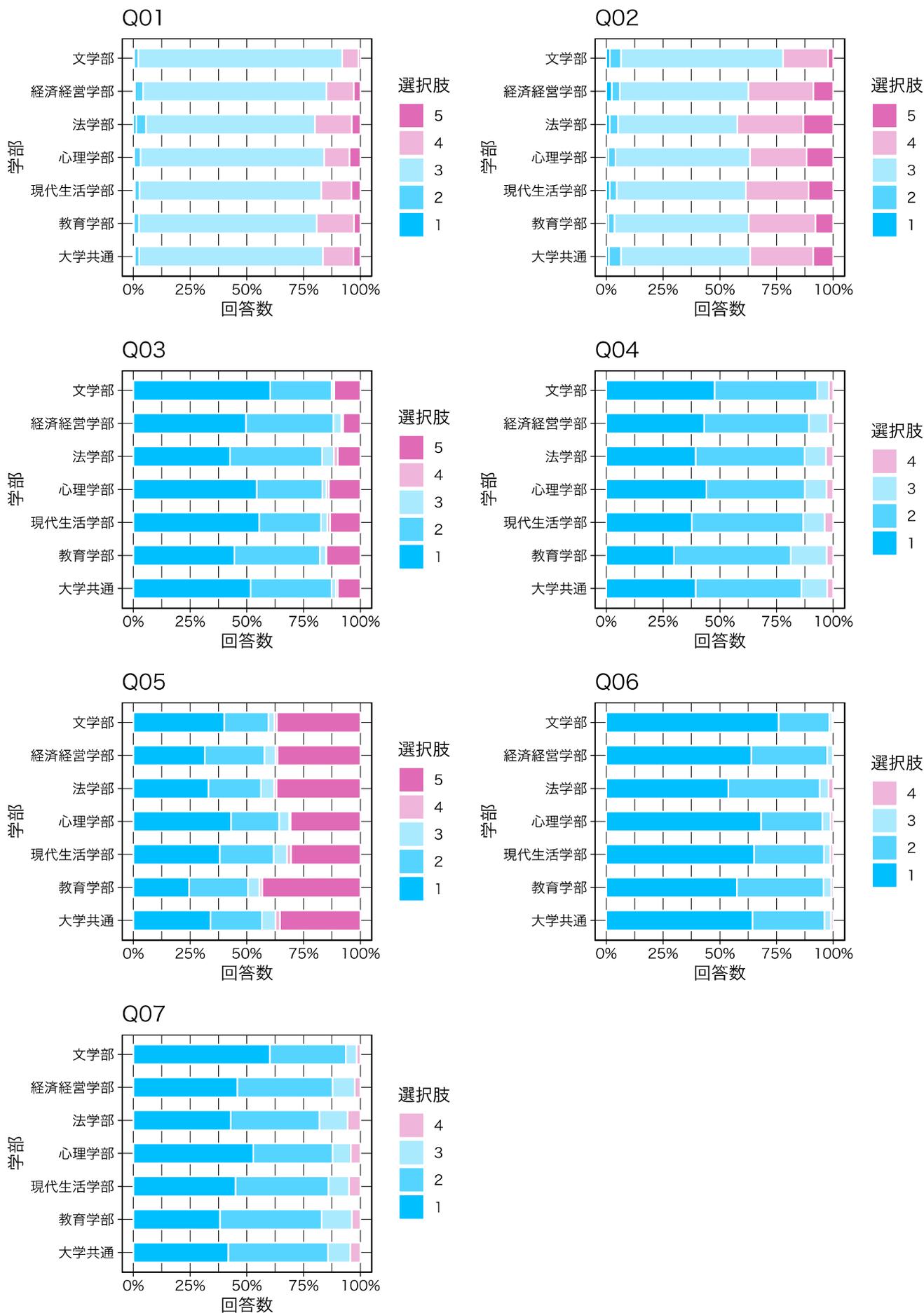


図 2 : 科目開講所属別アンケート集計結果 (質問 1~7)

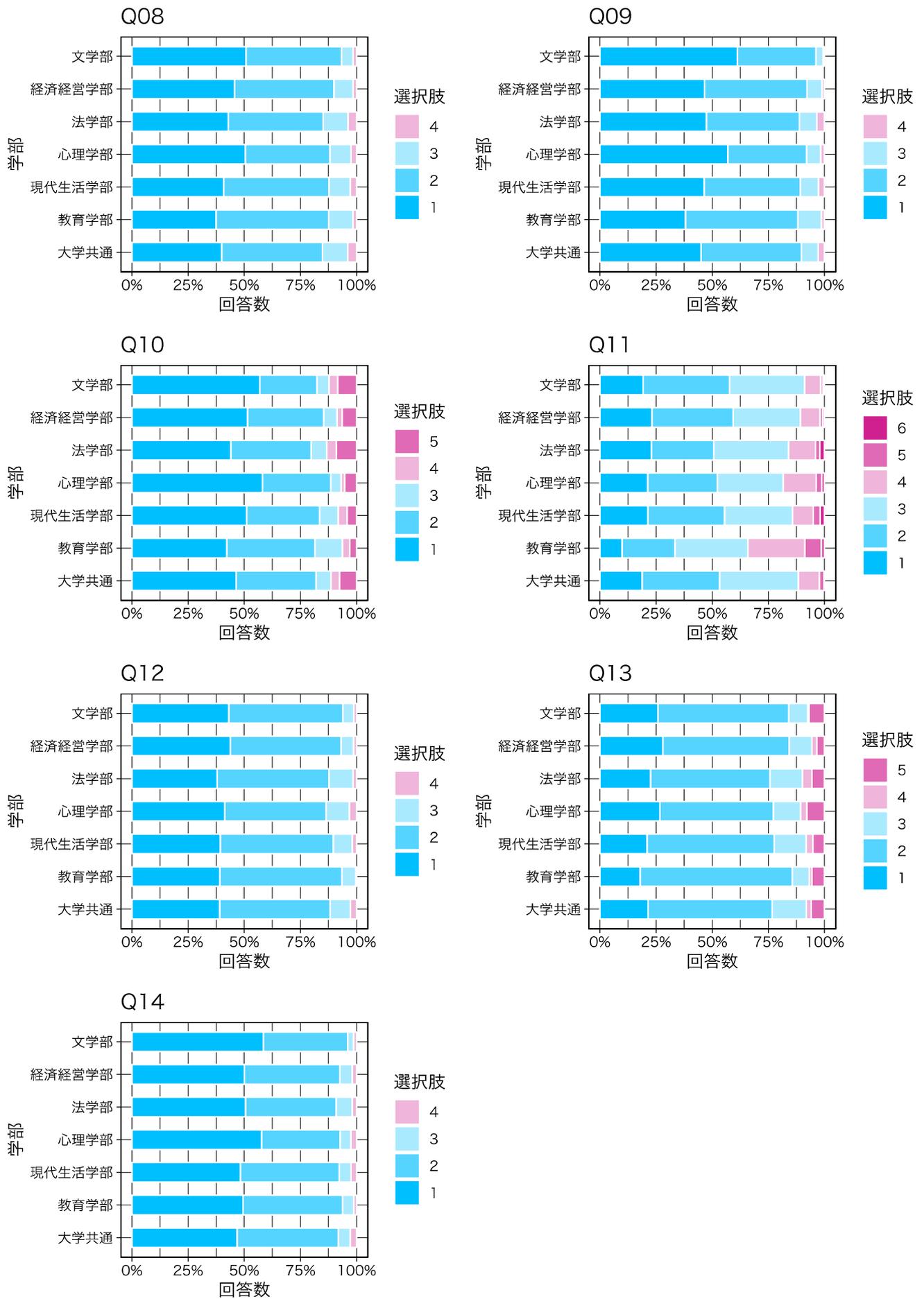


図 3 : 科目開講所属別アンケート集計結果 (質問 8~14)

2. 授業改善アンケートの結果のフィードバックについて

(1). 担当教員へのフィードバック

アンケート結果は、TALES 上で自動集計されたものを各自確認いただくこととし、以下の依頼をした。なお、意見聴取シートの提出率は、前期 63%（専任教員 100%）・後期 60%（専任教員 98%）であった。

- 集計結果および学生からの意見に対して、できるだけ講義中に説明等を行うとともに、今後の授業改善の一助とすること。
- 意見聴取シート（「結果の予想と実際の比較」「結果を踏まえての授業改善方法」「先生方が授業で工夫されている点」「授業運営で困っている点」）を提出すること。
⇒「結果を踏まえての授業改善方法」は、原文のまま学内サーバーにて教職員及び学生に公開する。
⇒「先生方が授業で工夫されている点」については、全学教育開発センターで検討の上、「ティーチングティップス集」として学内サーバーにて全教員に公開する。
- アンケート結果をティーチング・ポートフォリオに掲載すること。

(2). 学長、副学長、各学部長、全学教育開発センター長へのフィードバック

①アンケート対象科目全体の集計結果、②アンケート対象科目の開講所属別集計結果、③専任教員担当科目についての教員所属別集計結果を、学長、副学長、各学部長および全学教育開発センター長に通知した。（①・②については、専任教職員が参照できる学内サーバーに収納した。）また、各学部長および全学教育開発センター長に対しては、本アンケートの実効性を高めるために以下の依頼をした。

- 本アンケートの結果を基に、学部の専任教員（任期制を含む）による意見交換会（学部内FD）を行い、取りまとめた結果を全学教育開発センターに報告すること。

(3). 学生へのフィードバック

担当教員が提出した意見聴取シートのうち、「結果を踏まえての授業改善方法」の一覧を、学生が参照できる学内サーバーに収納した。

(4). FD 推進委員会での報告・検討

FD 推進委員会にて以下の報告・検討をおこなった。

- 遠隔授業実施下におけるアンケート実施についての検討
- アンケート質問項目、意見聴取シート記載項目変更の報告
- アンケート実施状況、意見聴取シート提出状況の報告
- 「ティーチング・ティップス集」の検討

2021年度 前期

帝塚山大学

ティーチング・ティップス集



(1) 2021年度前期の授業改善アンケートの結果を受けて先生方から提出いただいた意見聴取シートの「授業において工夫している点」の中から、多くの先生方に参考になるとと思われるものをピックアップしました。

(2) 同類の工夫が複数の項目に入っている場合がありますが、いずれにも該当するとの判断から、敢えてそのようにしております。

(3) なお、本ティーチング・ティップス集は、2021年度前期を対象としております（一部2020年度後期の内容も含む）。よって、コロナ禍におけるオンラインおよびハイブリット授業の例が多くなっております。通常の対面授業における工夫については、ひきつづき、2019年度までのティップス集をご覧ください。

1. 授業で心がけていること

- ・1年生は大学に慣れておらず、顔をあわせる機会も少ないことから、学生との距離については十分に配慮する。
- ・可能な限り学生の声を聞いて講義に反映させる。
- ・授業を聞く前と後とでは知識量や興味が変わるようにしている。
- ・教科内容をできるだけわかりやすく説明すると同時に教科の意義を考察できるような問いかけをしている。
- ・クラスメイトがどのような考えを持ち課題を進めているのか？ということクラス全体で共有（可視化）しながら、時にそれらをピアで（仲間同士で）評価し、課題（授業）全体を進めていくよう工夫する。すなわち、縦（教員）だけでなく、横（仲間）からの刺激を受けられるように授業構成する。
- ・出来るだけ多くの学生に発表の機会を与えようとする。こまめにテストをしたり、意見を言ってもらうようにする。
- ・何のための実験操作か？その操作でどんなことが起こるのか？などといったことを、限られた時間の中ではあるが、学生一人ひとりがイメージできるような授業を実践する。
- ・作業の繰り返しを行い何度も体験ができるように工夫する。
- ・最新の研究を紹介する。

2. 講義方法

- ・数学を用いた式の展開などでは、スライドショーは用いず、ペンパッドを用いたホワイトボードで講義を行う。これは、数学を用いた講義は対面ニーズが高い印象があるため、極力、対面での黒板を用いた講義に似せている。
- ・予習、復習、学習効果などの効率性を考え、各項目についての取り組みを行っている。例えば、予習－録画配信、復習－毎回小テスト、学習効果－マインドマップの作成などを行っている。
- ・説明時は、PCのマイクやスピーカーを通しての説明となることを念頭におき、滑舌よく話すよう努力している。教員の顔の表情を乏しく見せないために、画面の学生に向かってなるべく親しみを込めて笑いかけるよう気をつけている。
- ・毎週、配信動画の前半は、前回の授業の振り返りを行う。
- ・TALESに掲載した動画や資料と、書画カメラとの切り替えによる範書及び資料提示を併用する。
- ・遠隔オンデマンド型とはいえ、なるべくライブ感を出すように授業冒頭では時事的な問題や話題のニュースに言及し、自分なりに思うところを率直に話すようにしている。また、淡々と説明するのではなく、笑ってみせたり、画面越しに呼びかけたりして、学生が視聴していても退屈しないようにふるまうことを心がけている。

3. 教材作成

- ・動画資料とテキスト資料の両方を用意する。
- ・講義資料は、なるべく図表、写真など視覚に訴える資料を多くし文章を少なくする。
- ・オンデマンド教材はできるだけわかりやすく、かつ、過度の負担にならない質量を考え、作成する。
- ・受講生がビジュアル的にも獲得できるように画像ファイルを毎回配付する。
- ・国が運営しているデジタルミュージアムや公的なYouTube番組へのリンクを提示し、受講生が良質な情報にアクセスできるようにする。
- ・1回分の授業を4～5章程度に分け、各章毎に動画教材を作成する。
- ・パワーポイントの文字を大きめにし、図の解説を記載する。
- ・文章をできるだけ、口語体で記述する。
- ・1回の授業で作成する動画の長さは、長過ぎても学生の学習意欲に影響するし、短過ぎても情報量が落ちてしまう。情報の取捨選択は行っている。
- ・WEB上で直接聞き取り・発音練習ができる教材を作成し使用する。
- ・学生に提示する資料は、穴埋め式にしている。動画を視聴して、そのポイントを学生自身が記入することができる。

4. 授業時間等の配分

- ・授業時間を、講義資料（パワーポイント動画）を見る時間、参考資料を見る時間、課題を行なう時間に三等分し90分で収まるようにする。
- ・講義資料を読んで、小論文をまとめる時間が1 – 2時間程度となる分量に調整する。
- ・90分を教科書の予習・リアルタイム講義・小テストによる確認（無制限受験可）の三分割で行っている。
- ・遠隔の場合、休憩をはさむ、録画動画はコンパクト（ポイントを絞った解説）にする、途中段階での得点状況（成績状況）を開示するなど、受講生が息切れしないような工夫を取り入れている。
- ・20分以上動画を閲覧すると集中力がなくなることが多いため、毎回、一部の例題を動画で説明する。
- ・学生個々のオンライン環境に差があることを考慮し、出席登録は当日の23：59まで、課題提出は原則1週間後の23：59までとして、未提出者が多い場合は次の回にTALES上でリマインドするようにしている。
- ・遠隔授業なので、受講生が課題を溜めてしまわないように、授業の前半に遠隔リアルタイム授業で説明を行うなど、受講生ができるだけ本来の授業時間内に課題に取り組んで提出する形にしている。

5. 課題の出し方

- ・問題演習の時間制限を設けてTALES上に提出させ、解答をアップして、Zoomで解説・質疑応答等を行うなど、対面授業で行っているのと同じような形式を遠隔でも取り入れる。
- ・課題の種類を2つに分け、授業の日に、必ずアクセスして取り組んでもらう問題と数日かけて取り組む問題を用意する。問題の種類も、ファイルで提出するものだけでなく、様々な小テスト形式のものを用意し、学生が飽きないように工夫する。
- ・難しい課題内容を頑張って勉強して報告してほしい反面、難しすぎて質問が出にくかったり、意見交換がそもそもできないなどといった事態は回避しなければならないので、参加者全員が課題内容を理解しつつ、意見交換（議論）が成立するような、身近な事例等を扱う。
- ・授業後に、授業内容をふりかえるだけでなく、授業の中で分からなかったことや難しいと感じた点についても記入してもらい、それらを教員側で把握した上で、次回の授業課題をつくる。

6. フィードバック

- ・前回の課題に対するフィードバックを必ず実施する。特に優れた回答はクラス内で取り上げ、受講生の参加意欲向上に努める。
- ・毎回、授業内容に対する受講生のコメントを読み、フィードバックの文書を作成しているが、それをできるだけ早く行い、TALES上に提示する。課題内容を忘れないうちに、他の受講生の意見等を知ること、様々な角度から、当該テーマをより深く検討できるようにする。
- ・完成度の高い課題提出物に関しては、学生本人の了解を取った上で、他の受講生の参考になるようにサンプルとして学籍番号や氏名を削除した上でTALESにアップロードする。
- ・発音練習の成果を毎回吹き込んで提出させ、フィードバックしている。
- ・学生が提出した課題をTALESのルーブリック機能を用いて評価を行い、それを学生にフィードバックする。
- ・フィードバックを受けるタイミングにおいて、受講者の間で違いが生じないように、いつ、どのようなタイミングで、どのような方法でフィードバックを行うかについて、あらかじめ周知する。

7. 復習と小テスト

【復習】

- ・前回の復習分をいくつかのパートに分けて動画配信する。
- ・データダイエットのために音声付き電子ブックを使用し、何回でも講義を聞けるようにした。

【小テスト】

- ・受講後、毎回小テストを実施して学習状況を確認し、かつ、何度でも再受験可能とすることで充実した復習を促す。
- ・毎回の小テストで授業内容の理解を確認したり授業で扱った問題の演習をしたりしているが、択一式問題は4～5題にとどめ、学生の課題の負担が大きくなりすぎないように注意している。
- ・小テストは期限内なら無制限受験を可能とし、最高点を採用する。
- ・小テスト（確認テスト）をクイズ感覚でできるようにし、復習がしやすいようにする。
- ・問題の正解と解説は小テスト終了後にアップし、問題を難しいと思う人も、それを参照すれば理解できるようにしている。

8. 学生参加を促す

- ・Zoomの投票機能やgoogle formによるアンケートを用いることで、講義で扱う内容に直接参加できる体験型の講義を行う。
- ・TALESでは掲示板も設定できるので、視聴覚教材の感想や質問をそこに投稿するよう設定し、教員と学生との二者間ではなく多者間で知識を共有する。
- ・ディスカッションが円滑に進むために、発表者には必ず「ディスカッションの種」を用意してもらおう。ゼミ生同士が積極的に意見交換を行い、最後には参加者がそれぞれコメントシート（1. おもしろかったこと、2. もっと知りたいこと、3. その他応援のメッセージ）を作成する。後日、教員がチェックし、発表者に返却する。
- ・ゼミにおいて、全員が発言できるような課題を設定している。
- ・時間内に可能な限り全ての学生が口頭発表、チャット、発言、質問など何らかの形で参加できるように工夫する。Zoom授業では、画面共有を用いて一人一人に簡単な発表をしてもらう。

9. 学修レベルのアップ

- ・ゼミ生各自が自分なりに少し難しめの教科書をまとめて報告することに取り組んでおり、こちらの予想以上に頑張っているとの印象を受けることが多い。ハードルは上がるが、今のスタイルだけではなく、一緒に論文等を輪読し、内容を互いに議論しながら検討するというスタイルも考えている。
- ・意欲的な学びの項目で「ある程度意欲的に取り組んでいる」が7割、「意欲的に取り組んでいる」が3割であったことなどから、学修時間も考慮して、授業外の学修につながるグループワークを導入することにした。
- ・毎週の課題と並行して個人で設定しているテーマによる探究レポートの作成について、個別に情報提供等のサポートを行う。

10. 学生対応と質疑応答と学習支援

【学生対応】

- ・難しい話を極限まで簡単に、ほめて伸ばす、ときに厳しく。
- ・リアルタイムで参加している学生には、できるだけ声をかけて質問する。
- ・緊張や不安をできるだけ早い段階でなくすような雰囲気（話し方等）と内容（一方的な講義ではなく学生同士のかかわりを多くとる）にする。

【質疑応答】

- ・遠隔授業で最も大切なことは受講者との個別のやり取りを迅速に行うことと思われるので、質問やメールのしやすい環境の整備と、迅速な対応を心掛けている。
- ・オンデマンド型であるが、Zoomで質問できる時間を設定している。

【学習支援】

- ・授業外でも質問しやすくなるように、Zoomでの質問時間（自由参加）を設定する。
- ・毎週同じ時間にZoom質問コーナーを設ける。動画の視聴と課題への取り組みの後に質疑応答を行うことで、学生の理解度を深める。
- ・感想や質問を書いてもらう機会を増やし、そこでのコメントから学生が行き詰っている個所を見つけるようにして、それに対応する。

1 1. その他

【感染対策】

- ・クラスを「課題」「実技」のグループに分け時間で入れ替えを行った。
- ・教室で学生に発言を求める際に、マイクの消毒を発言者自らが行うよう指示する。

【大学への要望・提案】

- ・受講者数が多いオンライン授業だと丁寧な指導を行うのが難しいので、受講者数の上限などを設ける措置を講じることが望ましい。

2021年度 後期

帝塚山大学

ティーチング・ティップス集



（１） 2021年度後期の授業改善アンケートの結果を受けて先生方から提出いただいた意見聴取シートの「授業において工夫している点」の中から、多くの先生方に参考になるとと思われるものをピックアップしました。

（２） 同類の工夫が複数の項目に入っている場合がありますが、いずれにも該当するとの判断から、敢えてそのようにしております。

（３） なお、本ティーチング・ティップス集は、2021年度後期を対象としております（一部2020年度後期～2021年度前期の内容も含む）。よって、コロナ禍における対面授業およびオンライン/ハイブリッド授業が対象となっております。通常の対面授業における工夫については、ひきつづき、2019年度までのティップス集をご覧ください。

1. 授業で心がけていること

- ・学生が、課題へどのように取り組んでいるのかを確認しつつ、次の授業の構想を立てるようにする。
- ・受講人数が多く一人一人の様子がつかみづらい場合、コメントシートに毎回記入させたり、質問しやすい環境（TALES上の質問フォームからいつでもできる）を整えるなどして、補完するようにしている。
- ・学期の初日に授業に関するアンケートを実施し、学生の希望にできるだけ沿った指導方法で授業をし、学生のストレスを減らすようにしている。
- ・常に最新の情報を収集するとともに、授業の構造が具体的に理解できるように授業構成の見える化を心がけている。
- ・理論と実践の融合を図ることを大事にしている。
- ・可能な限り学生の声を聞いて講義に反映させる。
- ・授業を聞く前と後とでは知識量や興味が変わるようにしている。
- ・教科内容をできるだけわかりやすく説明すると同時に教科の意義を考察できるような問いかけをしている。
- ・出来るだけ多くの学生に発表の機会を与えようとする。こまめにテストをしたり、意見を言ってもらおうようにする。
- ・作業の繰り返しを行い、何度も体験ができるように工夫する。
- ・最新の研究を紹介する。

2. 講義方法

- ・授業形態（対面・遠隔）にかかわらず、毎回の授業で学生に授業の振り返り等を提出してもらい、その内容を次回に的確にフィードバックする。
- ・授業内容に入る前に、自分自身の体験を振り返ってそれらを書き出してもらうようにしている。自分の体験や考えたことをもとに授業を聞くことで、理論と具体的な場面が関連づき、理解が深まるように工夫している。
- ・テーマごとにその授業の概要を示し、何を学んでほしいのかを解説する。
- ・数学を用いた式の展開などでは、スライドショーは用いず、ペンパッドを用いたホワイトボードで講義を行う。これは、数学を用いた講義は対面ニーズが高い印象があるため、極力、対面での黒板を用いた講義に似せている。
- ・経営学で歴史の講義をする際に、なぜ歴史を学ぶ必要があるのか、その意義を考えてもらえるようにしている。過去と現代との接点に触れ、身近で具体的な事例を用いる等、現代的な意義を意識した内容を心掛ける。
- ・聞き逃しがないように、TALESに毎回授業や課題の概要をアップしている。
- ・予習、復習、学習効果などの効率性を考え、各項目についての取り組みを行っている。例えば、予習－録画配信、復習－毎回小テスト、学習効果－マインドマップの作成などを行っている。
- ・遠隔オンデマンド型講義では、講義が一方的になりやすいのでTALESの「課題」機能を使い、講義の感想・要望・質問などを自由に記入送信できるようにしている。（内容の質によって加点はすることはあっても、何を書いても成績評価を悪くすることはないことを周知している。）

3. 教材作成

- ・キャラクターとの対話形式を用いた講義資料と、受講生一人ひとりのコメントを基に作成したフィードバックを心掛けることで、一人で受講していても不安や孤独を感じないように配慮する。
- ・講義資料は、なるべく図表、写真など視覚に訴える資料を多くし文章を少なくする。
- ・発音練習や聞き取り練習を含め、自学自習ができるよう、WEB教材を用意している。また、Zoomによるリアルタイム授業では、自学自習では十分にできない発音の矯正に時間をかけている。
- ・オンデマンド教材はできるだけわかりやすく、かつ、過度の負担にならない質量を考え、作成する。
- ・受講生がビジュアル的にも獲得できるように画像ファイルを毎回配付する。
- ・国が運営しているデジタルミュージアムや公的なYouTube番組へのリンクを提示し、受講生が良質な情報にアクセスできるようにする。
- ・1回分の授業を4～5章程度に分け、各章毎に動画教材を作成する。
- ・1回の授業で作成する動画の長さは、長過ぎても学生の学習意欲に影響するし、短過ぎても情報量が落ちてしまう。情報の取捨選択は行っている。
- ・学生に提示する資料は、穴埋め式にしている。動画を視聴して、そのポイントを学生自身が記入することができる。

4. 授業時間等の配分

- ・授業時間を、講義資料（パワーポイント動画）を見る時間、参考資料を見る時間、課題を行なう時間に三等分し、90分で収まるようにする。
- ・講義資料を読んで、小論文をまとめる時間が1 – 2時間程度となる分量に調整する。
- ・90分を教科書の予習・リアルタイム講義・小テストによる確認（無制限受験可）の三分割で行っている。
- ・遠隔の場合、休憩をはさむ、録画動画はコンパクト（ポイントを絞った解説）にする、途中段階での得点状況（成績状況）を開示するなど、受講生が息切れしないような工夫を取り入れている。
- ・20分以上動画を閲覧すると集中力がなくなることが多いため、毎回、一部の例題を動画で説明する。
- ・学生個々のオンライン環境に差があることを考慮し、出席登録は当日の23：59まで、課題提出は原則1週間後の23：59までとして、未提出者が多い場合は次の回にTALES上でリマインドするようにしている。
- ・遠隔授業なので、受講生が課題を溜めてしまわないように、授業の前半に遠隔リアルタイム授業で説明を行うなど、受講生ができるだけ本来の授業時間内に課題に取り組んで提出する形にしている。

5. 課題の出し方

- ・対面に移行してからも、TALESを使って、資料の掲示やレポート作成をしてもらっている。授業中の質問に加えて、TALESからも質問を受け付けるようにしている。
- ・問題演習の時間制限を設けてTALES上に提出させ、解答をアップして、Zoomで解説・質疑応答等を行うなど、対面授業で行っているのと同じような形式を遠隔でも取り入れる。
- ・課題の種類を2つに分け、授業の日に、必ずアクセスして取り組んでもらう問題と数日かけて取り組む問題を用意する。問題の種類も、ファイルで提出するものだけでなく、様々な小テスト形式のものを用意し、学生が飽きないように工夫する。
- ・難しい課題内容を頑張って勉強して報告してほしい反面、難しすぎて質問が出にくかったり、意見交換がそもそもできないなどといった事態は回避しなければならないので、参加者全員が課題内容を理解しつつ、意見交換（議論）が成立するような、身近な事例等を扱う。
- ・授業後に、授業内容をふりかえるだけでなく、授業の中で分からなかったことや難しいと感じた点についても記入してもらい、それらを教員側で把握した上で、次回の授業課題をつくる。

6. フィードバック

- ・前回の課題に対するフィードバックを必ず実施する。特に優れた回答はクラス内で取り上げ、受講生の参加意欲向上に努める。
- ・毎回、授業内容に対する受講生のコメントを読み、フィードバックの文書を作成しているが、それをできるだけ早く行い、TALES上に提示する。課題内容を忘れないうちに、他の受講生の意見等を知ること、様々な角度から、当該テーマをより深く検討できるようにする。
- ・完成度の高い課題提出物に関しては、学生本人の了解を取った上で、他の受講生の参考になるようにサンプルとして学籍番号や氏名を削除した上でTALESにアップロードする。
- ・発音練習の成果を毎回吹き込んで提出させ、フィードバックしている。
- ・学生が提出した課題をTALESのループバック機能を用いて評価を行い、それを学生にフィードバックする。
- ・フィードバックを受けるタイミングにおいて、受講者の間で違いが生じないように、いつ、どのようなタイミングで、どのような方法でフィードバックを行うかについて、あらかじめ周知する。

7. 復習と小テスト

【復習】

- ・前回の復習分をいくつかのパートに分けて動画配信する。
- ・データダイエットのために音声付き電子ブックを使用し、何回でも講義を聞けるようにした。

【小テスト】

- ・受講後、毎回小テストを実施して学習状況を確認し、かつ、何度でも再受験可能とすることで充実した復習を促す。
- ・毎回の小テストで授業内容の理解を確認したり、授業で扱った問題の演習をしたりしているが、択一式問題は4～5題にとどめ、学生の課題の負担が大きくなりすぎないように注意している。
- ・小テストは期限内なら無制限受験を可能とし、最高点を採用する。
- ・小テスト（確認テスト）をクイズ感覚でできるようにし、復習がしやすいようにする。
- ・問題の正解と解説は小テスト終了後にアップし、問題を難しいと思う人も、それを参照すれば理解できるようにしている。

8. 学生参加を促す

- ・チームで作業をさせて、学生一人ひとりに責任を持たせるようにしている。
- ・Zoomの投票機能やgoogle formによるアンケートを用いることで、講義で扱う内容に直接参加できる体験型の講義を行う。
- ・TALESでは掲示板も設定できるので、視聴覚教材の感想や質問をそこに投稿するよう設定し、教員と学生との二者間ではなく多者間で知識を共有する。
- ・ディスカッションが円滑に進むために、発表者には必ず「ディスカッションの種」を用意してもらおう。ゼミ生同士が積極的に意見交換を行い、最後には参加者がそれぞれコメントシート（1. おもしろかったこと、2. もっと知りたいこと、3. その他応援のメッセージ）を作成する。後日、教員がチェックし、発表者に返却する。
- ・ゼミにおいて、全員が発言できるような課題を設定している。
- ・時間内に可能な限り全ての学生が口頭発表、チャット、発言、質問など何らかの形で参加できるように工夫する。Zoom授業では、画面共有を用いて一人一人に簡単な発表をしてもらう。

9. 学修レベルのアップ

- ・理解度を確認するために、キーワードを提示して、それらをつなげて文章を作るワークを実施している。
- ・ゼミ生各自が自分なりに少し難しめの教科書をまとめて報告することに取り組んでおり、こちらの予想以上に頑張っているとの印象を受けることが多い。ハードルは上がるが、今のスタイルだけではなく、一緒に論文等を輪読し、内容を互いに議論しながら検討するというスタイルも考えている。
- ・意欲的な学びの項目で「ある程度意欲的に取り組んでいる」が7割、「意欲的に取り組んでいる」が3割であったことなどから、学修時間も考慮して、授業外の学修につながるグループワークを導入することにした。
- ・毎週の課題と並行して個人で設定しているテーマによる探究レポートの作成について、個別に情報提供等のサポートを行う。

10. 学生対応と質疑応答と学習支援

【学生対応】

- ・難しい話を極限まで簡単に、ほめて伸ばす、ときに厳しく。
- ・リアルタイムで参加している学生には、できるだけ声をかけて質問する。
- ・緊張や不安をできるだけ早い段階でなくすような雰囲気（話し方等）と内容（一方的な講義ではなく学生同士のかかわりを多くとる）にする。

【質疑応答】

- ・遠隔授業で最も大切なことは受講者との個別のやり取りを迅速に行うことだと思われるので、質問やメールのしやすい環境の整備と、迅速な対応を心掛けている。
- ・オンデマンド型であるが、Zoomで質問ができる時間を設定している。

【学習支援】

- ・授業外でも質問がしやすくなるように、Zoomでの質問時間（自由参加）を設定する。
- ・毎週同じ時間にZoom質問コーナーを設ける。動画の視聴と課題への取り組みの後に質疑応答を行うことで、学生の理解度を深める。
- ・感想や質問を書いてもらう機会を増やし、そこでのコメントから学生が行き詰っている箇所を見つけるようにして、それに対応する。

3. 授業改善アンケート結果を踏まえた各学部内FDについて

授業改善アンケートの実効性を高めるため、各学部および全学教育開発センターにおいて以下の意見交換が行われた。

(1). 【前期】

文学部

9月15日（水）の文学部定例教授会内で、前期授業アンケートの集計結果をもとにFD検討会が実施された。アンケート結果に関しては以下のような発言があった。

- ・すべての授業を対象とするのは、学生にとって大きな負担であり、無理がある。
- ・「講師から授業外での学習支援（質問をしたら返答があるなど）を受けることはできますか」という質問に関してネガティブな回答が多かったのが気になった。今後改善したい。
- ・「学修時間」が例年より長くなっていた。

また、前期授業を振り返って、以下のような意見（授業運営上の課題とそれに対する改善案）が出された。

- ・授業評価の「公平性」に関する問題（ハイブリッド型の場合、対面で受講する学生とオンラインで授業する学生の評価をどのようにすれば公平か？）

（改善案）

対面で受講する学生に対しては、オンライン受講に比べて、課題（出席確認用）を軽めに設定するようにしている。

- ・オンライン授業では教員に質問や相談をしにくいと感じている学生が多い。

（改善案）

TALES上にいつでもコメントや質問を書き込める箱を設ける。

TALESのフィードバック機能（出席確認用、コメントを書ける設定にする）を活用する。

- ・TALESにアップされる動画や音声を文字起こしし、そのままレポートにする学生が少なからずいる。

（改善案）検討中

- ・オンライン授業にまったく対応できない学生（原因は主にメンタル面）へのケアが必要である。

（改善案）検討中

経済経営学部

令和3年7月21日の教授会において、前期授業アンケートの結果に関する学部教員による意見交換を行い、以下のようなものが出された。

- ・授業アンケートは本来、大人数の科目で、学生の理解度や興味関心が判断しづらいものを対象に、その状況を知るのに適している。そのため演習系や人数の少ない授業のアンケートは、ある程度、教員側で判断できるので必要ない。
- ・演習では人数が限られていたり、今後も継続して授業があることを考慮すれば、匿名性が担保されているとはいえ、本音で答えづらい可能性もなくはない。
- ・毎回、記入していることだが、シラバスどおりの授業を行っていてもその点数が低いということがある。また、シラバスどおりに行うことが必ずしもいいとはいえずこの質問項目の妥当性に疑問を感じる。質問項目の設計をあらためてすべきかもしれない。
- ・記入欄を設けるのがよい。数値化されたものだけでは、何がよく何が悪いのかといった具体的内容が見えない。記入する学生は少ないかもしれないが、それでも有益だと思う。
- ・アンケートの結果に関しては、おおむね良好な結果と判断する。「あまり力がついていない」学生もいるため、各学生の理解度に応じた適切な指導を目指したい。「授業が難しい」と感じる学生には、その学生にも分かるような説明を心掛けたい。
- ・「質問をしたことがない」学生がいるので、質問をしやすい環境を作りたい。このような対応を心がけて授業に取り組むことにより、すべてにおいて最高評価が得られるよう、様々な観点において学生目線の授業に取り組んでいきたい。
- ・学生の授業への取り組みに関して、以前に比べれば学生が積極的に取り組んでいるように感じる。以前であれば学習に興味がでない学生をいかにして前を向かせるか、が、最大の困りごとであったが、現在では、様々な意味で多様な学生にそれぞれの理解度に応じた授業をいかにして提供できるのかについて（困っているというよりも）日々悩みつつ試行錯誤を繰り返している。いまだに正解にはたどり着いておりません。
- ・今回アンケートの回答率が低かったのは我々教員側からのアナウンスが十分できていなかったことにも原因があると思う。今から振り返ってみると、教授会等での呼びかけもしていなかったと反省する。今後は学部全体で回答率向上に取り組むべきであると思う。
- ・アンケートの結果が出た後、学生から「今回はアンケートの負担が大きかった」、「すべてには回答できなかった」という話を聞きました。
- ・「学生は回答しなければならない科目が多かったからなのか、必ず取り組まないといけないものだと思わなかったのかわかりませんが、対面紙ベースよりも回答率が低かったと思います。にもかかわらず回答してくれる学生というのは、真面目か、とても強い意見を持っている学生と考えられるのでちょっと回答に偏りが出ないか心配になりました。

- ・今回のアンケートにおいて、「返答ゼロ」あるいは「統計上有意味な返答数がなかった」アンケートケースは何件あるのかを開示してほしい。
- ・返答なしのケースの場合、意見聴取シートの作成を課さないか、あるいは、シートの質問項目を変更する必要があるのではないか。
- ・今回のアンケート結果から少し特徴的であったのは、講義の内容については割と講師の計画通り進んでいたの
で評価が高かったが、互いのやり取りの難しさがアンケート結果から読み取れた。
- ・今回は様々な要因が影響し、各講義アンケートの回答数が少なく、回答が受講者全体の意見を反映したもの
になっていない可能性が高くなった可能性が指摘されます。特に、演習科目は受講者がもともと少ないので、回
答数が極めて少なく、サンプルセクションバイアスが深刻だと感じました。
- ・質問1～10については、それぞれの項目の満足度に対して講義の進め方で改善が必要な点が明確化され、有
意義なデータだと感じます。一方で、11以降の項目、特に14については、講義の運営方法というよりも、
科目の特性などがアンケート結果に強く影響しそうな質問項目です。これらの項目のアンケート結果をどのよ
うに講義運営に活かすべきかという解釈が難しく、せっかくの結果をうまく活かすことが難しいように感じま
した。
- ・4年生ゼミのアンケートについて
授業時間外の学習時間にばらつきが生じた。現在論文の作成に取り組んでおり、授業時間以外で論文に取り組
む姿勢に差が出たものと思われる。就職活動中の学生が多く、論文に意識を向けるのが難しいところもあつた
かと思う。就職活動が終了した後期には前期の分も授業時間外にも学習に取り組むように指導していく予定で
ある。
- ・講義科目について
アンケート時点ではオンデマンド型の授業であったが、全体に満足しているようである。
オンデマンド型の授業に加えて、毎回リアルタイムの zoom 質問会も設けていたが、参加者が少なかった。
アンケートでも質問をしたことがないと回答している学生が見受けられた。
質問がなくても参加しやすいよう、質問会のテーマを設定するなどして、質問会の参加者を増やせるよう工夫
するつもりである。
- ・コロナ後においても専門知とオンライン授業に必要な ICT 関係のスキルとの融合をはかることの必要性を感
じた。ICT 関係のスキルは機材やソフトが手元にないと習熟せず、さらに通信環境が十分に整備されている必
要があると痛感した。さっそく教育環境を整えたい。
- ・全授業でアンケートをとったことについて
オンラインで一斉に実施してしまうと、量が多くて、学生は大変と感じてしまうかもしれない。
- ・授業改善等について（講義科目）
分量は概ね適切だったようである。今後、遠隔授業を行う必要がある場合、参考にする。
毎回、講義内容に関する感想等を提出してもらった。対面授業でも、授業の最後に時間をとり、手書きしたも

のを提出してもらっていたが、記入量は今回のオンライン提出のほうが多かった。対面授業でもオンライン提出を併用すると、学生が考えていることをより詳しく知ることができそうである。

- ・授業改善等について（演習科目）

個人またはグループでの研究を指導する形式で進めている。この形式で問題ないようである。

授業の最初に、エクセルの課題を出している。継続して取り組むことで、基礎的な分析力の定着に役立っているようである

- ・授業動画について、無音部分をカットするといった簡単な動画編集を行うことで学生の離脱率を低める努力をした。

- ・TALES 以外の Web サービスも使い、スマホでも簡単にアクセスできる授業資料を作成した。

- ・演習系科目において、より気軽なコミュニケーションが可能になるように、メッセージが中心のコミュニケーションツールを導入した。

- ・ゼミも含めたアンケート結果は今までになかったことで有益であった。

- ・授業改善の上では学生の書いた意見からの気づきも大きい。自由記述欄がなくなっていたが、あってもよかったのでは。

- ・遠隔授業に対する学生の反応や他の教員の苦勞・工夫している点などが一番気になるところだ。

- ・学生は対面授業やリアルタイムの遠隔授業には真剣に期待を持って取り組んでくれていると感じる。

- ・学生の期待に応えられるよう、後期以降一層の授業改善に取り組みたい。

- ・ネットを通じた提出物について、学生がシステム障害やネット障害を理由に期限後の受け取りを求めてくるケースが頻繁に見られ、対応に苦慮している。すでに遠隔授業も二年目を迎え、そろそろシステム環境やネット環境に関する配慮をやめるべきであり、また、教員の個別対応に任せるのではなく、全学的な対応を検討し大学として見解を表明すべきである。

法学部

①実施日時 9月8日教授会

②参加者 法学部専任教員12 / 13名（1名は他会議出席のため）

実施概要

法学部では、今年度から授業運営の教員自己点検制度を試行している。成績入力後に授業の運営や学修成果を各教員が自己点検し、改善案等を記した報告書を教員間で共有する制度である。今回のFDは、学部のこの報告書の共有を行うFDも兼ねて実施した。

主に下記の点について、事前の報告書共有と当日の口頭意見交換で、情報共有・意見交換・説明等が行われた。

①授業改善アンケートの問題

- ・回答数が少な過ぎる ⇒全学FD委員会でも課題として検討中であることを説明
- ・自由記述欄がない ⇒全学FD委員会の見解を説明

②学生の主体性を引き出す授業運営手法

- ・講義内での工夫 説明の仕方、課題の内容、双方向性の確保等
- ・演習内での工夫 グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、報告テーマ決定や準備の指導方法等

③学習意欲の低い学生への学習の促し

- ・予習動画や復習教材として授業録画の提供、その提供方法の工夫等
- ・振り返りを促す授業内アンケートや中間テストの実施等
- ・TALES のデータを利用した指導等

④遠隔授業の課題と対策

- ・各種事情による授業進度の遅れ ⇒予復習教材の工夫等の課外自習の促し等

全体を通しては、アクティブラーニングの重要性とその具体的実施方法、遠隔授業の課題点、遠隔授業で普及した TALES や授業動画の今後の利用方法といった点で意見交換、情報共有が行われた。

心理学部

実施日：2021年7月21日（水）教授会前に学部内FDとして開催

今回の結果に基づき、今後の授業改善方法について意見交換を行った。

授業運営について

- ・TALES の活用により、例えば授業資料を事前に提示することができ、事前学習を実施することが可能となった。
- ・心理学実験などの実習では、コロナ関係の欠席者のために授業を Zoom を用いて録画し、TALES にアップロードし、欠席による遅れを生じないように配慮した。
- ・パワーポイントなどの録画する際に、音声のみよりも Zoomなどで教員の顔が出ている方が授業への集中が高まるのではという声があった。
- ・授業資料に動画ファイルがあると、容量が重すぎる場合があるので、PDF と音声ファイルの組み合わせだと容量が比較的軽くなるので配信しやすいとの声があった。
- ・オンライン授業用に様々な WEB アプリを小テストや確認テストに活用した。
- ・対面授業において、座席の配置によって、私語が減少した。
- ・対面授業において、教室の大きさ等によって、私語の増減が生じる。

TALES について

- ・感想や質問などを提出する際に、投稿の無制限設定にすると、データが上書きされてしまうことがあった。
- ・昨年度に比べると、教員も学生も利用方法に慣れ、TALES を円滑に活用できるようになった。

アンケートについて

- ・WEB アンケートに回答している学生は、比較的意識の高い学生に限られているのではという意見があった。
- ・質問項目に対する理解が学生によって異なっているのではないかという意見があった。
- ・WEB アンケートは回答率が低くなってしまうので、結果がどの程度信頼できるのかが難しいという意見があった。

現代生活学部

日時：2021年9月15日（水）15:00～16:00（定例教授会前）

場所：16903 教室

出席者：辻川学部長（司会）、新宅学科長、矢部学科長 以下五十音順、敬称略

（食物栄養学科）阿部、伊藤、岩橋、上島、木村祐子（記録）、佐伯、中、西田、藤村、藤原

（居住空間デザイン学科）大里、金谷、北澤、木村均、小菅、間瀬

欠席者（安井＝代理コメント有）

1. 全学の授業評価アンケート結果の報告（辻川学部長）

今年度は、全専任教員の全担当科目に関して、受講生が Google によるアンケート調査という方式のため、これまでと比較すると回答率が 20～60%と科目間に差が生じていた。回答率も低値であった。すべての科目に回答するため熱心な学生の回答のみで、未回答の学生の回答が得られず、信ぴょう性に欠ける点が懸念材料であった。授業の説明や資料の満足度は、良好な回答が得られていたが、自宅学習の時間が少ないところが反省点であった。

2. 各教員からの報告（抜粋）

- ・アンケート回答率が低値であったが、理解度や確認や説明の仕方、授業内容は概ね良好な結果が得られたとの発言が多数を占めていた。
- ・担当科目のすべてのアンケート調査の実施がありがたかった。
- ・回答率が低いので、熱心な学生の回答により内容にバイアスが生じていたと感じられた。オンデマンドの授業形態で実施したが、提出課題に関して丁寧な FD はできたと思っている。
- ・オンデマンド形式であるが、課題の量が多いと FD との兼ね合わせに苦慮した。
- ・遠隔の場合の自己学習時間と内容を今後の検討としたい。
- ・専任教員で担当科目がすべてリレー形式で実施された関係で、授業評価アンケート対象外の教員が生じており、この点は次年度の検討課題であった。
- ・今年度は自由記述欄が未設定であった。ここに書かれた内容をこれまで授業の運営の改善点として取り組んでいたため、今後この項目の設定を検討していただきたい。
- ・遠隔方式での理解度や知識の定着度の確認に小テストの活用が良好であると感じている。

- ・遠隔授業は、制作物の演習等のFDが難しくアンケート結果が思わしくなかった。

3. まとめ

- ・1年生は、今回の授業評価アンケートが初めてで、回答率は2年生以上よりも高値であったが、Google等の取扱いにも慣れず、アンケート回答期間も短期であったので、全学生に対しての説明が必要と感じられた。
- ・このアンケート項目の特にコメント欄の記述をこれまで重視していたので、設問の説明文を工夫し、自由記述欄は設けてほしい。
- ・アンケート調査の実施方法の大幅な変更点や実施方法の説明等ひと工夫を行い、回答率を高める方策が必要と考えられる。

教育学部

2021年7月21日に実施したこども教育学科会議内で、前期授業改善アンケートの実施状況及びFD活動の内容について報告した。その後、8月上旬までの期間を設け、TALESを使用し、教育学部の全専任教員から、授業改善に資する意見を集約した。意見は教育学部全専任教員にメールで送信し、意見の共有を行った。本FD活動の代表的な意見として、以下のようなものがあった。

- ・次の内容を意識して授業を展開した。
- ① 液晶タブレットを使う：ZOOMの講義では、学生はパワポの画面を見て、教員の声を聞くことになる。図と声だけによる説明だと、どうしてもわかりづらい。そこで、私は「液晶タブレット」を導入している。共有画面にリアルタイムで書き込むことができる。図を描きながら説明できたり、学生の意見をまとめたり、効果は非常に大きい。（数学の）授業には必須のアイテム。
 - ② Zoomのスライドの枚数を多くする。：同じスライドを長時間見ていると、学生の集中が途切れてしまう。そこで、1枚のスライドを長時間出しっぱなしということがないように、スライドの枚数を増やしている。さらに、液晶タブレットを使って、どんどん書き込む。
 - ③ Zoomの「ブレイクアウトルーム」を使用する。：1回の授業の中で数度、「ブレイクアウトルーム」を使用し、学生同士が少人数で話し合う時間を設けている。グループをランダムに設定しているので、恥ずかしさからか意見をなかなか言わない学生も多いが、続けていくつもりである。
 - ④ 特別な理由がない限り、「ビデオオン」にさせた。：「顔」を見ることで、反応がわかる。Zoomにつながっているだけの状態の学生の防止にもなる。
 - ⑤ 受講者にどんどん話しかける。：対面での授業以上に、話しかけるように心がけた。

- ・【遠隔オンデマンド型授業で工夫した点等】

毎回、T A L E Sの小テスト機能で、小テストを実施することで受講生の学習を促すとともに、授業の理解度をこまめに確認した。これは、対面授業時にも取り入れることができると考えられる（実際に、遠隔オンデマンド型の授業になる前の4月の対面授業でも小テストは取り入れていた）。毎回、T A L E Sのフィードバック機能で受講生の意見を収集し、次の授業時にコメントをするなどのフィードバックを行った。

・【遠隔オンデマンド型授業での授業参加の促し】

各回の課題等が未提出の学生にはこまめに連絡することで授業への参加を促した。また、発展学習のための課題や補助教材をT A L E Sに掲載することで授業外の学習も促した。

- ・毎時間 Zoom を用いての授業となったが、授業最初の5分間でフィードバック機能を用いての小テストを実施した。授業開始とともに行うため効果的であった。また毎時間「授業振り返り」をフィードバックに回答させ、それを毎時間「授業での学び」として共有を行った。教員と学生とのクラス交換日記のような感じになり、学生の授業への考えや反応をつかむことができた。模擬授業や個人プレゼンテーション、デジタルテキストを流しての個人発表と様々な取組を Zoom 内でも行うことができた。語学のため、音声のズレ等で「音読活動」は取り組みにくかったが、リスニング CD も流しての授業も行うことができた。

全学教育開発センター

実施日：2021年6月16日、15:00～

実施場所：6号館6201教室 参加教員数：12名

【工夫した点】

- ・全てのクラスにおいて、学生からのメールには即日返信し、質問し易い雰囲気を作るよう、どんなに些細なことでも丁寧に回答するようにした。
- ・小テストの受験期間、受験可能回数については、学生から変更の要望があればそれに応じ、学生の気持ちに寄り添った授業をするよう心掛けた。
- ・毎回、全員の出席状況を、氏名は伏せて授業欄にアップしている。学生はこれまでの出席状況が分かるので、欠席が5回を超えないよう自ら気を付けることができる。
- ・毎回、クラス全員の小テストの得点をヒストグラムにして授業欄にアップしている。これにより、教師はテストの難易度を知ることができ、学生はクラスでの自分の位置を確認することができる。
- ・授業への難易度や学習への関心度に違いが見られるため、(1)授業全体の課題を意識できるよう毎回の授業で確認を行う、(2)個人の課題を明確にして意欲的に取り組めるよう、授業内の声かけや授業後の振り返りを行なっていく、(3)課題の達成度合いを見ながら、学生と意見交換をし、練習内容やペースの調整を行なっていく、などを心掛けた。
- ・授業後の振り返りで良かった内容や、質問内容について、次回の授業の冒頭で話をする。
- ・授業課題で求めた意見や感想を次回の授業の冒頭で紹介しながら、授業内容の復習を行なっている。
- ・課題については、毎回、解説用の動画をつくり、丁寧にフィードバックしている。

- ・毎回のふりかえりシートには、個別にコメントを書いている。
- ・授業は「音声」ガイドによって、比較的受け身の学生も自然な形で演習が行えるような教材作りを心掛けた。
- ・語学の授業における発音学習について、一人一人が発音する機会を増やし、丁寧に矯正するように心がけた。
- ・授業においては学生一人一人が主役であるという認識を持たせ、自ら積極的に意見やアイデアを述べ、クラスメイトからも意見をもらい、それを次の意見やアイデアに反映させていく、という形式を実施した。

【今後の改善点】

- ・オンドマンド型の遠隔授業のため、学生の質問に答えることができなかった。TALES にフォーラムを設け質問に答える体制は取っていたが、ほとんど活用されていなかった。次回からは、毎回の授業ごとにフォーラムを設け、こちらから質問を促すなどの措置を取ろうと考えている。
- ・理解度の確認があまり行われていないと感じている学生が数名いたため、小テスト形式の確認テストや理解度についてのアンケート等を取り入れる予定である。
- ・到達目標にむけて意欲的に取り組んでくれている学生が多いが、学習時間については、「2～3時間」かけて取り組む学生がいる一方で、「30分未満・1～2時間」の学生も存在するため、課題量については検討したい。
- ・学生から他の学生のプレゼンを見たいという提案があったので、今後は、TALES のワークショップ機能を使用し、クラスメイトのプレゼンテーションビデオを見た上で、お互いにフィードバックを行うようにする。

【学生からの声や学生の様子】

- ・対面から遠隔授業に変わった際に、対面授業に比べるとパワーポイントの再生を止めることができるため、ノートやメモをとる際に自分のペースで学習することができるので、遠隔の方が良いという感想があった。
- ・TALES 等で時間をかけて問題を作成しても、考えることなくワンクリックで解答をし、数秒で終了・提出をしてしまう学生がいることや、一つずつ課題を確認してフィードバックを書いている際に、友人のファイルをそのまま名前だけ変更して提出している学生がいることに気が付くこともあり、とても残念だった。

(2). 【後期】

文学部

1月19日（水）の文学部定例教授会内で、今年度後期授業アンケートの集計結果をもとにFD検討会が実施された。

アンケート結果に関しては以下のような発言があった。

- ・アンケート実施時期がオンラインから対面への移行期の実施であり、タイミングが悪かったと感じる（オンライン授業の評価を受けて対面授業で改善するのは難しい）。
- ・前期同様、例年より授業外の学修時間が増えていた。
- ・「講師の学生への接し方」に関する質問に違和感を覚える。何を聞きたいのかが漠然としている。主観（個人的な好き嫌い）に左右されるのではないか。

また、前期授業を振り返って、以下のような意見（授業運営上の課題と対策）が出された。

- ・オンライン授業では教員に質問や相談をしにくいと感じている学生が多い。

（対策）

TALES 上にいつでもコメントや質問を書き込める箱を設ける（一定の効果あり）。

- ・TALES にアップされる動画や音声を文字起こしし、そのままレポートにする学生が少なからずいる。

（対策）定期試験期間に入る前に授業動画の閲覧期間を終了する。

- ・全面对面移行後、少しだけ残った遠隔（オンデマンド型）授業が負担になっているとの意見が一部の学生からあった。

（対策）検討中

- ・遠隔（Zoom）授業に学内の自習室で参加する場合、周囲が気になって発言しにくいので、Zoom 受講用の自習室を設けてほしいとの意見が一部の学生からあった。

（対策）検討中

経済経営学部

2021 年 12 月 15 日の教授会において標記の件に関する意見交流会を開き、以下のような意見が出された。

アンケートの結果から自身の強みと弱みを把握し、授業改善に努める取り組みが必要と感じた

- ・アンケートの結果からより一層わかりやすい講義を目指すよう気持ちを新たにできた。
- ・学生の回答はある程度、想定できるものだったが、「内容が難しい」という回答に対してそれは教員の教え方の問題なのか、学生の能力や努力の有無が原因なのかが、わからない。そこが知りたい。
- ・アンケート結果から改善努力を続ければ学生に通じるのだということがわかり、心が熱くなると同時により一層改善に向けてのモチベーションが高まった。
- ・アンケート結果で評価していただいた点を伸ばして、今後も個々の学生の理解度や進度に応じた授業運営をこころがけたい。
- ・授業改善アンケートにつきましては、学生の生の声を聴く貴重な機会と認識しています。マクロ経済学入門という科目の性格も踏まえて、できる限り、時事ネタや具体的事例を取り上げるよう心がけております。それでも学生の意見が分かれる時(当該説明方法に、肯定的あるいは否定的な声が存在するなど)は悩ましいのですが、(それも含めて理解の糧として)学生の意見を講義に反映させたいと考えております。
- ・授業 1 回あたりに費やす時間について、2 時間を超える時間を費やしていた学生がいなかったため、授業時間を踏まえると、ほとんど予習・復習をしていないと判断せざるを得ない結果となりました。この結果を受けて、シラバスで掲げている予習・復習の目安時間に近づくよう、課題量を調整しようと思います。

・シラバスの前に講義の前に事前学習をすることになっていると思いますが、できていないのが現状のようです。そこで、たとえ5分でも前の回の解説をしています。理論でしたら長めに前回解説をします。学生をみていると授業に対する集中度と理解度が違うように思われます。経済理論を理解するには時間がかかるものなので、効果的と考えています。

・遠隔授業から対面授業への移行に伴い、授業内での前回の復習の時間を増やした。

・遠隔授業では前回の理解が足りない場合は授業資料や授業動画を各自が好きなタイミングで見返すことができたが、対面授業の場合はそれが難しいため、その欠点を補うための工夫として前回授業の復習の時間を増やした。

・遠隔授業における分量は概ね適切だったようである。今後、遠隔授業を行う必要がある場合、参考にする。

・毎回、講義内容に関する感想等を提出してもらい、学生が考えていること等を把握し、それを残りの授業や次年度以降の授業内容に役立てている。今後もそうした方法により、授業の改善を続ける。

・小テストの実施後、学生の理解度を把握した上で全体内容について解説を行い、特に正答率が低い内容については、より丁寧に解説を行う。

・2021年度後期授業アンケート集計結果」の「11. 予習・復習、準備、課題作成も含めて、授業1回あたり平均してどの程度の時間を費やしていますか（授業時間も含める）。」について、全体と比較すると、わずかではありますが、経済経営学部生の時間は短いようです。

・私自身、日頃、どのくらいの量の予習・復習、準備、課を設定するのが適切なかを考えています。科目によって事情は異なりますが、先生方のご意見を伺いたいと思いました。

・遠隔授業の期間を経験したことで、対面授業の重要性が大きく変わってきていると感じます。対面再開直後は遠隔の環境に慣れた学生たちは教室で90分間授業を聞くのが大変つらそうに見えました。逆に問題を解かせたり学生に前に出て黒板に書かせたりといった形で手を動かさせると以前より意欲的に取り組んでくれ、対面ならではの授業内容を楽しんでいる面もあるようです。私自身なかなかそこまでできていませんが、反転授業型の取り組みなど、遠隔授業を経験した学生たちには対面でないといけない経験を提供することがますます重要になっているようです。

・アンケート対象科目は毎年同じ科目であり、資格取得を目標とした小規模クラスでした。毎回、小テストなどを行っていて学生の状況を把握しているため、想定内の結果であり、特に真新しい情報を得るといことは残念ながらありませんでした。

・学生が自学自習できるように工夫していきたい

・質問ができる環境があるかという問いに、質問をしたことがないという回答が多く見られました。遠隔授業時にも質問コーナーとしてzoomを設置しましたが利用メンバーは固定的でした。小テストに自由記述の質問欄をつくるなど、より質問しやすくなるよう工夫したいと思います。

・回答者の回答を見ると、比較的授業にはついてきてくれているようですが少し難しい、という意見も多いので、来年度以降も課題やクイズのフィードバックをしっかりと行って、知識の定着を促したいと思います。

・4年生ゼミクラスの改善としては、なかなか研究テーマが絞れず、本人がどこに興味があるのかわからない状態が続く学生も多く、最近の雑誌や新聞、メディアを通して、教員による最近のビジネス環境に影響される要因などを幅広く話すことで、何となく気になるキーワードをたくさん並べるようにし、なぜそのキーワードが気になったのかを考えさせ、そこからテーマ絞りに入ります。卒論は興味があることから深く調べることに重点をおいて指導をしています。

法学部

実施日時：1月19日（水）教授会

参加教員：13 / 13名

テーマ「対面授業に向けた TALES の活用事例共有」

概要

①趣旨

今回のFDは、約2年間のコロナ禍での遠隔授業の経験を今後の対面授業にどう活用していくかをテーマとした。既に2年間の遠隔授業で各教員が多様な工夫をしていることから、具体的な使用事例の情報共有を図った。

②実施方法

事前に各教員にTALESの使用方法について資料の提出を求め、それらをまとめた資料「対面授業に向けたTALESの活用事例集」を配布した。FD当日はこの資料を前提として意見交換をおこなった。

配布資料：「対面授業に向けたTALESの活用事例集」

③意見交換概要

- ・TALESによる事前予習課題の学生負担と学生の課題学習状況の実態
- ・反転学習的なTALESの使用方法と学生の学習状況の実態
- ・授業録画の方法とTALESでの予復習への活用方法

その他TALES活用方法について、いくつかの細かな点でも意見交換も行われた。

④結果

今後も共有資料や当日の意見交換をもとに、各教員がTALES活用法を相互に情報交換するようFD委員から依頼をおこなった。

心理学部

実施日：2022年1月19日（水）教授会前に学部内FDとして開催

今回の結果に基づき、今後の授業改善方法について意見交換を行った。

授業運営について

・多くの講義科目が途中から対面授業に変更したことで、学生の出席率が高くなり、（コロナ対策の影響のため）受講中の態度も改善したように感じられた（私語などが少なくなったなど）。

やはり学生は対面授業の方が満足度が高い傾向がある（ただし、なかには遠隔授業の方が好ましいと考えている学生もいるようである）。

・心理学実験などの実習では、コロナ関係の欠席者のために授業をZoomを用いて録画し、TALESにアップロードし、欠席による遅れが生じないように配慮した。

・対面授業に変更後も、TALESに授業資料をアップロードしたり、一斉アナウンスしたりと非常にTALESの活用度が高かった。

・授業内の確認テストをTALESで実施したり、予習・復習の課題としてもTALESを有意義に活用することができた（今後完全に対面授業に移行しても、TALESは非常に活用したいとのことが多かった）。

・対面授業と遠隔授業が同日にある場合、学生の遠隔授業への対応が難しくなることがあったようである。

・1週間のうちに、対面授業と遠隔授業が混在している場合、学生の遠隔授業の課題等の提出期限の管理が緩くなってしまいう傾向があった。

アンケートについて

・TALESを用いた授業アンケートは、今回授業内でその場でアンケートに回答してもらう形式で実施すると、回答率が高くなったので、今後もTALESを用いる場合は同様の方法で実施することを推奨したいとの意見があった。

・TALESによる授業アンケートでも自由記述回答を設けても良いのではという意見があった。

・今回授業期間の途中から遠隔授業から対面授業に変更されたため、学生が遠隔授業に対する回答なのか対面授業に対する回答なのか迷ったのではないかという指摘があった（教員によっては、一度対面授業を行ってからアンケートを実施するなどの工夫をしたようである）。

現代生活学部

1. 令和3年度後期授業における学生アンケート調査結果について

学部長が現代生活学部専任教員の後期授業における学生アンケート調査結果について、講評を行なった。また、それらについて教員間での話し合いを含めた検討をおこなった。内容は以下の通りである。

- ① 学部内での14の質問項目に関する学生評価点
- ② 学生の自習時間を促すための改善工夫
- ③ 評価点の低い内容に対する改善
- ④ アンケート調査回収率を高めるための工夫

結果、14質問項目は、全体としては概ね良好な結果で、特に総合的な授業の意義に関しては、「意義がある」、「ある程度意義がある」合計92.3%と高評価であった。個々にみると平均値よりも低い評価があり、振り返り改善をお願いしたい。今回の結果が学部内での集計のため他学部との比較が容易に可能であれば、さらに充実した教育内容が期待できる。Webを活用したアンケート実施のため非常勤講師を含めて回収率を高める実践を施していきたい。

2. 個別の教員に対する対応

要配慮学生に対する配慮の内容と対応方法に関する今後の課題に関して、両学科長より事例報告がなされ、意見交換を行った。配慮できる内容と成績評価等配慮できない内容を本人と保護者からの理解を得、真摯に対応していくといった報告がなされた。さらに、今後も入学の時点でミスマッチが生じないようにオープンキャンパスでの教育内容の説明を丁寧に実施することで、入学希望者の理解を高めたい。

また、配慮の必要な学生の対応について、学生および保護者から過剰な配慮願が出された場合は、早期の段階から大学としての配慮の基本方針などを示していただきたい、といった意見も出された。

教育学部

2021年12月15日に実施したこども教育学科会議内で、後期授業改善アンケートの結果状況について報告を行った。その後、1月上旬までの期間を設け、TALESを使用し教育学部の全専任教員から、授業改善に資する意見を集約した。集約した意見は、教育学部全専任教員にメール送信し、共有を行った。以下に述べるように、授業運営上、参考になる意見交換が行われた。

・後期授業アンケートについては大半の項目の評価はよかった（授業中に回答時間を設けたので回答率も高かった）。「シラバスを見ていない」の回答が多かったのでシラバスについて初回授業での説明の仕方を今後検討する必要がある。また、授業外の学習時間について約半数が「1時間未満」となっているため、授業外の学習について促していく必要がある。今期からは、予習課題やプラスアルファの学習課題などを提示するなどしたため、例年より若干、授業外の学習時間が増えているように思うが、今後も検討していく必要がある。

・奈良地方裁判所での法廷見学や東大阪市防災学習センター、神戸の人と未来防災センターの見学、語り部への聞き取りなど学外授業を積極的に取り入れ現地での体験的な学習を通し、より実践的な指導力が身に付くよう授業改善を図った。

また、国立教育政策研究所や全国小学校社会科、生活科研究協議会における最も先進的に実践研究している学校の資料を効果的に活用し、授業づくりや評価に関する内容について具体的に分かりやすく指導するように努めた。

今後も理論と実践の統合を図るよう授業の工夫・改善を図っていきたいと考える。

・回答については概ね良好であり、特に顕著であったのが授業外の学習時間の多さである。従来、教育学部生の授業外での学習時間の少なさが全体として指摘されてきたところであった。しかし、今回のアンケートで3～4時間が最多、次いで2～3時間、4時間以上と、授業外での学習時間の多さが目立った。ただ同時に、授業進度についても過半数が適切であると答えているものの、やや速い、速いと答えている学生もいた。進度は例年よりも遅いぐらいであり、年々学生の質が変化し、本教科に対する苦手意識、大学入学以前の学習習熟度や取り組みスピードについて個々の差が大きくなっているのではないかと、そして、それが表れたものであろうと思われる。きめ細やかな指導を行おうとすれば、今後のカリキュラムの在り方として習熟度別のクラス展開の必要性を感じた。

・授業進度や難易度において、適切であるという評価を多く得た。また、教材や説明のわかりやすさ等についても、わかりやすい、ある程度わかりやすいが、大半をしめていた。今後も、わかりやすさを維持しつつ、内容的に充実させていく工夫を行いたい。

・対面授業においてもTALESの様々な機能を使用することによって、小テストによる学習状況の確認や、学生の課題のフィードバックをスムーズに行うことができた。とくに、データベースアイコンを用いて学生が自分たちの課題をスマホで集約的に閲覧できるようにすることで、他者の意見や考えを取り入れて自らの意見を再構成できる機会を増やすことができた。

・どの質問項目においても、おおむね好評とする回答が多いが、質問について、「質問したことがない」という回答が高かった。グループワーク形式の授業になると、質問が活発になる傾向があるが、講義形式では質問が少ないことも事実である。グループワークを前半期から取り入れる、もしくはグループワークと講義形式を交互に行うなど工夫を試みてみようと考えている。

全学教育開発センター

2021年度後期授業改善アンケート結果を受けての授業改善ならびに工夫点について

(令和3年度第9回全学教育開発センター教員会議)

【工夫した点】

- ・理解度を確認するために、キーワードを提示して、それをつなげて文章を作るワークを実施している。
- ・学期の初日に授業に関するアンケートを実施し、学生の希望に出来るだけ沿った指導方法で授業を行い、学生のストレスを減らすようにしている。
- ・授業内容は、文字だけでなく図や絵を用いたり、事例を紹介したりして、イメージがしやすくなるよう工夫している。
- ・オンデマンド型であっても双方向的な授業となるように、TALESのフィードバック機能やGoogle Formsを活用して、履修生の考えや意見等を共有できる機会を設けている。

- ・多様な視点や考え方を身に付けてもらうために、履修生が提出した課題や授業の感想を次の授業時に全体に向けてフィードバックしている。また、データ分析も意識したフィードバックも行っている。（提出された課題をテキストマイニングした結果や共起分析した結果の共有等）
- ・動画配信型で授業を運営しているが、受け身の視聴とならないように、動画内に質問やクイズ等を取り入れ、視聴する履修生が参加できる授業動画づくりを心掛けている。
- ・授業の概要をトピックごとに示し何を学んでほしいのかを解説するようにした。また、課題の回答への感想や考えを記載するようにした。
- ・発音練習や聞き取り練習を含め、自学自習ができるよう、WEB教材を用意している。また、Zoomによるリアルタイム授業では、自学自習では十分にできない発音の矯正に時間をかけている。
- ・クラスメイトが授業の課題テーマに対しどのような考えでいるのか、一人一人の思考の仕方や個性をクラス内で毎回共有し、学生自らの関心の幅を広げたり深めたりする工夫を心掛けている。また、それらを共有する際、ペンネームでやりとりを行うことにしている。

【今後の改善点】

- ・75%の学生が進度は適切と回答している一方、難易度は易しいと難しいで回答が2分されていた。リスニング中心の授業なので得手不得手の差が大きいのと思われる。今後はリスニングが苦手な学生にも分かり易い解説を心掛けたい。
- ・授業内容についての質問は、毎回提出してもらった感想文で記入欄を設けており、質問への解答は次回授業の冒頭や、TALESのメッセージ機能を用いて行っている。学生がより質問をしやすくなるよう、質問の受け付け方・解答の仕方等を説明するように心がける。
- ・本授業の目的や目標は、授業のはじめにしっかりと説明したつもりだが、授業の回が進んでいく中でも、その時々思い出してもらえよう或いは意識してもらえよう、説明を繰り返すことを心掛けたい。

【困っている点】

- ・今学期に限った問題であるが、全員がマスクをしているため、会話練習や発音指導ができない。
- ・前回の授業アンケート結果を踏まえ、今期から毎時間授業の理解度を確認するフォームを設け、翌週は結果のフィードバックも行いながら授業を実施しているが、それでも「問4：講師は受講生の理解度確かめながら授業を進めていますか」には否定的な回答が寄せられている。オンデマンド型授業のため、対面授業のような授業の前後に気軽に声をかける場が無く、その場の反応にあわせたライブ型の授業ができないことがこの結果であるのであれば対処のしようがない。但し、それ以外の理由があるのであれば、オンデマンド型の授業を担当されている他の先生方がどうされているのか、その対応方法を教えてほしい。
- ・オンデマンド型授業のため、所定の期間中に授業動画を視聴できないままに脱落していく学生が増えている。

II. 学生ヒアリング

II. 学生ヒアリングについて

1. 学生ヒアリングの実施

学生から授業改善アンケートを中心に、授業、大学で学ぶ環境に関する意見を聞く機会として、後期授業改善アンケート（11/8～20）の実施後に各学部または学科のFD推進委員が学生に対するヒアリングをおこなった。

1. 概要

- (1)実施時期：後期授業改善アンケート実施後（～12月下旬までに）
- (2)実施主体：学部または学科
- (3)対象者：各学部・学科の学生（10名ぐらいまで）
- (4)謝礼：図書カード500円分（※）
- (5)会議への報告：任意様式（A4：1枚程度）でFD推進委員会に報告

※監査時に問われる場合があるため、図書カードの配付リスト（学籍番号・学生氏名）が必要です。

2. 学生に聞いてもらいたいこと

【授業改善アンケートについて】

- (1)実施時期について
- (2)回数について
- (3)設問項目数について
- (4)その他運営方法についてのご意見はありますか？

【シラバスについて】

- (1)記載されている内容についてご意見はありますか？

【その他授業、学習環境について】

- (1)日頃受講している授業、あるいは学習する環境に対する意見、要望等がありますか？
- (2)今学期提供している、対面授業、Zoomによるリアルタイム授業、動画配信型授業、課題配布型授業の4タイプのうち、一番集中して（充実感を持って）学習できるのはどの授業ですか。
- (3)対面授業とオンライン授業を合わせたハイブリッド型授業で、一番困っていることは何ですか？

2. 学生ヒアリングの結果への対応

学生ヒアリングの集計結果については、FD推進委員会で報告し、情報共有をおこなった。その上で各学部長に報告し、学部または学科で必要と思われる事項については、学部長の判断で対応いただくよう依頼した。また、単学部・単学科に留まらない事項については、全学教育開発センターFD推進検討チームで対応案を作成し、FD推進委員会にて検討をおこなった。

3. 2021年度 学生ヒアリング結果

(1) 授業アンケートについて

ア. 実施時期について (→現状のままが妥当)

(文学部) ・適切な時期である。

(経済経営学部) ・もっと早い時期がよい 33%
・これでよい 67%

(法学部) ・早過ぎる0 ・やや早過ぎる1 ・現状でよい8名 ・やや遅い1名 ・遅過ぎる0
※現状でよいとの意見が多数であった。

(心理学部) ・適切である(4名)
・少し早い(3名)

(食物栄養学科) ・6月(前期)と11月(後期)の2回がふさわしい(全員)

(居住空間デザイン学科) ・自分に障害があるので1~2回目の授業と5回目くらいにしてほしい。
・授業が見渡せる7~8回目くらいにしてほしい。
・今は早すぎる。5回目くらいにしてほしい。
・1回目と4回目と8回目と15回目にしてほしい。
・1回目と4回目にしてほしい。
・7~8回目と最終回にしてほしい。
・特に問題ありません。(4人)

(こども学科・こども教育学科) 意見なし

イ. 回数について (→現状のままが妥当)

(文学部) ・適切である。
・前半と後半に2回やってほしい。

(経済経営学部) 意見なし

(法学部) 適切な実施回数 ・年1回1名 ・現状半期1回9名 ・半期2回0 ・その他0
※現状でよいとの意見が多数であった。

(心理学部) ・適切である(6名)
・少ない(1名)

(食物栄養学科) 6月(前期)と11月(後期)の2回がふさわしい(全員)

(居住空間デザイン学科) ・前期・後期ともに2回ずつしてほしい。1~2回目と5回目くらいに。(1人)
・前期・後期ともに4回ずつしてほしい。(1人)
・前期・後期それぞれ2回にしてほしい。(2人)
・特に問題ありません。(6人)

(こども学科・こども教育学科) 意見なし

ウ. 設問項目数について (→現状のままが妥当)

(文学部) ・適切である。
・やや多い。7つぐらいが妥当。

(経済経営学部) 意見なし

(法学部) ・多過ぎる1名・やや多い2名 ・現状でよい7名 ・やや少ない/少な過ぎる0名
※多数は現状でよいとの回答だが、質問項目が多いとの回答も3割に上った。

(心理学部) ・適切である(6名)
・もう少し多い(1名)

(食物栄養学科) 設問項目が多いという意見が半数であった。

(居住空間デザイン学科) ・多いと思います。10項目くらいにしてほしい。(1人)
・1回目はこうしてほしいという内容で2回目は改善されているかどうかの内容で。(1人)
・多いと思います。もっと少なくしてほしい。(3人)
・特に問題ありません。(5人)

(こども学科・こども教育学科) 意見なし

エ. その他運営方法についての意見

(文学部) ・一言申したい授業に限ってアンケートがない。(→前期は全科目対象。ただし、自由記述欄なし)
・最初に設問項目がいくつあるかをわかるようにしてほしい。何問中何番目の質問であるかがわかるようにしてほしい。(→FD推進検討チーム)

(経済経営学部) ・アンケート内容について このままでよい 83%、変えた方がよい 17%
変えた方がよい理由：ある授業のやり方について意見を言いたかったのだが、設問が選択肢しかなく、意見を自由に言う場が無かった。生徒の主張も考慮してほしい。(→FD推進委員会)
・授業アンケート自体についてはこのまま継続でよい 67% なくてもよい 33%
・(特に上級生)授業アンケートを受けて授業が改善されたか。
大幅に改善された 17% 少し改善された 17%、よくわからない 33%
改善されなかった 33%
・授業改善アンケートの結果を生徒と振り返る先生と振り返らない先生がいる。授業に不満がある先生に限って振り返りを行わないため改善されない。(→教学支援課：改善方法を必ず受講生にフィードバックするよう強調する)
・また授業形態に関して、講義内容によっては対面である必要性を感じないものもあるので、自由度の高いオンライン授業と比較した際に不満に思う生徒が多いと思う。
・正直必要性がよく分からない。授業改善アンケートに答えたからと言って改善された様子もないし、生徒も適当に答えてる風に見受けられる。またTalesで実施するより、対面授業で行ったほうがアンケートの回収率はあがるのでは、とも思った。(→教学支援課：対面授業時にTALESで回答の徹底)
・私自身はなくても良いかと思ったこともありますが、アンケートを取ることで改善されることもありましたのでこのままの状態が良いと思います。
・授業改善アンケートに書いて改善される点があり効果を感じるものもありましたが、全く改善されないものもあるので回答率は低いのだろうと感じました。
・実施期間が長いので、任意のものを忘れがちな私でも思い出したタイミングで回答出来るので、とてもいいと思います。

Ⅰ. その他運営方法についての意見<つづき>

(法学部) ・自由記述欄が欲しい。(2名) (→FD推進委員会)
・授業内フィードバックの有無が先生によって異なる。
・忘れてしまうので授業内で実施して欲しい。

(心理学部) ・特になし。(7名)

(食物栄養学科) グーグルの活用は、自由な時間に回答できるが回答率が低いのではという意見が出ていた。3・4年生はマークシート方式で受けているのでその場での回答なので回収率は高くなる。両者半々の意見であった。

食物栄養学科は、対応するクラスに限られるので全員の意見を聞いてほしい。難しければ複数クラスで回数の調整をしてほしいという意見が出された。(→後期の原則1科目対象の場合も、対象クラスの追加可)

(居住空間デザイン学科) ・もっと伝わるように大々的にしてほしい。(1人)
・わかりにくいことが多い。(1人)
・特に問題ありません。(8人)

(こども学科・こども教育学科) 意見なし。

(2) シラバスについて(記載内容についての意見)

(文学部) ・スマホでは見にくいので、見やすい設定にしてほしい。(→教学支援課)
・CSの時間割表からシラバスに飛べるようにしてほしい。
・TALESの各コースにシラバスへのリンクをつけてほしい。(→TALES活用委員会)
・集中講義科目が検索しにくい。

(経済経営学部) 意見なし。

(法学部)
・スマホで見ると文字が小さく見づらい。

(心理学部) ・授業が始まってから、シラバスをどのように活用するのかわからない。

(食物栄養学科) ・限られた科目であるが、内容と実際が異なっている科目があった。コロナ禍でしかたがないかもしれないが、変更事項が見にくいので、変更時点でアナウンスしてほしいという意見が出された(特に評価について)。シラバス上に担当教員の連絡先(g-mailのアドレス)があるとありがたい。(→教学支援課:変更点のアナウンスを徹底するよう強調。)

(居住空間デザイン学科) ・探しづらい。検索ワードが複雑。(1人)
・訂正があったときにどこが訂正になったかわかりづらい。(1人) (→教学支援課)
・特に問題ありません。(8人)

(こども学科・こども教育学科) ・教科書や評価方法などを最初に確認するために用いている。
・期末テストを実施するかなど重要なところで齟齬が無いようにしてほしい。

(3) その他 授業、学習環境について

ア.【日頃受講している授業、あるいは学習する環境に対しての意見、要望等】

(文学部) ・各教員のTALESの使い方についてある程度情報共有、統一化してほしい。

・メールを送っても一切返信をしてこない教員がいる。

・Zoomを使ったオンライン授業に自習室で参加する場合、周囲が気になって、発言しにくい。
Zoom受講用の自習室と設けてほしい。発言可の自習室と発言不可の自習室に分けてほしい。
(→教学支援課)

・CSの「休講・補講・教室変更」(時間割形式)において集中講義科目の情報が反映されていないので不便。(→教学支援課)

(経済経営学部) 意見なし。

(法学部) ・P Cの学内レンタルがとても便利。

(心理学部) ・後期の教室の温度が座席によって大きく異なるので、一定にして欲しい。(→総務課)

・後期は途中から対面授業に変更するものが多く、その調整が大変だったので、途中からの変更はしない方が良かった。

・理由がわからず単位不可になった科目があった。

(食物栄養学科) ・自習室を固定化してほしい。グループワークやPCを活用した演習室の解放、栄養君が使用できる環境の整備、ネットワークの安定化。和式トイレを洋式にしてほしい。14・16号館は学生に人数に対してトイレの数が少ないと感じる。16901教室のマイクがよく途切れて授業が受けにくい。(→教学支援課、情報センター、総務課)

(居住空間デザイン学科) ・コンピューターのある自習室が使えないことが多い。(1人) (→教学支援課、情報センター)

・寒い。(2人)

・パソコン室で自習できないことが多い。(2人) (→教学支援課、情報センター)

・住文化史の部屋が暑い。(3人) (→教学支援課、総務課)

・特に問題ありません。(2人)

(こども学科・こども教育学科) ・対面授業時に窓を開けていて寒くなることがあるので、何とかしてほしい。

・対面とZoomを混ぜるのではなく、どちらかで統一して行った方が良い。

・TALESでの課題が以前より増えて、大変だと感じる。

・教員がZoomの使い方に熟達してもらいたい。

・昼食をとれる場所をきちんと確保してほしい。(→学長、次長)

・休講の連絡がキャンパススクエアの情報だけだった時があり、混乱したので、TALESでのアナウンスなどでも伝えた方が良い。

・18号館のカフェを充実してほしい。(→学長、次長)

イ.【今期提供している4タイプの授業（※）のうち、一番集中して（充実感をもって）学習できる授業は？】

※対面授業、Zoomによるリアルタイム授業、動画配信型授業、課題配付型授業（→教務委員長）

（文学部） ・どれが良いとは一概に言えない。
・ケースバイケースだ。

（経済経営学部） 意見なし。

（法学部） ・対面9名 ・リアルタイム配信1名 ・オンデマンド配信0 ・課題配布型0
※画面越しは緊張感・集中感が維持できないとの意見が多い。

（心理学部） ・対面授業（3名）
・動画配信型授業（1名）
・課題配布型授業（3名）

（食物栄養学科） ・対面授業が望ましいという意見が多数で、周囲からの刺激や一緒に勉強ができていく連帯感、勉学に対する集中力、授業後の質問のしやすさなどの意見が出された。
動画配信型授業が最も不人気で、ひとりで動画を見ていると切り替えが難しく、集中力が保てない、質問の回答がその場では難しい。いつでもできるから期限ぎりぎりになり提出忘れが多々生じていた。先生により動画の音が小さく聞き取りにくい科目があった。

（居住空間デザイン学科） ・対面。（7人）
・実習は対面、座学は動画が資料にしてほしい。（2人）
・実習は対面、座学はリアルタイムZoomにしてほしい。（1人）

（こども学科・こども教育学科） 意見なし。

ウ.【ハイブリッド型授業（※）で一番困っていること】

※対面授業とオンライン授業を合わせた授業（→教務委員長）

（文学部） 特になし。

（経済経営学部） 意見なし。

（法学部） ・オンデマンド方式でリアルタイムのC S 出欠登録をするのはやめて欲しい。
・今後遠隔化する場合、遠隔・対面選択型の授業を大学で全面的に採用して欲しい。

（心理学部） ・途中で授業形態が変更されること。
・zoomの授業と対面の授業が連続してある場合、zoomの授業を学校で受けたいといけないう点で非常に困った。（→教学支援課）
・対面授業に力を入れ込んでしまってオンライン授業の課題を忘れてしまったことがあり、複数の授業形態があると、混乱することがあった。

（食物栄養学科） ・対面授業とzoomのリアルタイム授業の時間の関係で、学校でzoom授業を受ける時に周りが静かで発言しても迷惑が掛からない場所を見つけるのが大変だった。
オンライン授業での電波環境の不具合で入室、退室が頻繁に生じる学生もいた。一日の間でハイブリッドの予定が組まれると学習環境の確保が難しい。（→教学支援課、情報センター）

（居住空間デザイン学科） ・なし（ハイブリッドを受けていない）。（10人）

（こども学科・こども教育学科） 意見なし。

4. 学生ヒアリング集計結果の検討

(令和4年2月3日開催第10回FD推進委員会議事録より)

各学部・学科で実施いただいた学生ヒアリングの集計結果は、別紙1のとおりである。

今後、全学教育開発センターFD推進検討チームにて内容を精査する。その結果、本委員会での検討が必要と考えられる事項については、次回以降に提示し、検討いただく予定である。システム関係など単学部・単学会に留まらない事項については、全学教育開発センターより関係部署に検討・応答いただくよう働きかける。

また、別紙1は各学部長にも配布し、各学部・学科にて直接対応いただくのがふさわしい事項については、学部長の判断で対応いただくよう依頼する。

■各学部・学科にて直接対応いただくのがふさわしい事項

↓

3月8日に各学部長に資料を送付して、対応を依頼。

■全学教育開発センターFD推進検討チームでの検討結果等

↓

1. 授業アンケートについて

(1)実施時期について

・「もっと早い時期がよい」(授業開始後2~4週後)、「最終回でよい」等、様々な意見が出ている。

→ 現行のアンケートが学期内の改善を目的としていることから、期中に行う必要がある。

当該授業内で改善するには、アンケートは早く実施するに越したことはないが、早すぎた場合は授業が必ずしも軌道に乗っておらず、受講生は当該授業の全体像をつかみにくいと考えるため、現行の中間期に行うのが妥当だと考える。

また、一昨年までのアンケート用紙による方法では、外部業者による集計におよそ一か月を要していたが、昨年度から学内で集計を行うようになり、15回の授業のうち、最後の3~4回は改善に充てることができるようになったことから、この方法を踏襲する方向で良いと考える。

(2)回数について

・現行通りでよいという意見が多かった。

→ 来年度も前後期1回ずつが妥当だと考える。(FD推進委員会で決定済)

(3)設問項目数について

・妥当だとする意見が多かった。

→ 来年度もほぼ同数の設問項目とする。

(4)その他運営方法についての意見

・「最初に設問項目がいくつあるかわかるようにしてほしい。何問中何番目の質問であるかがわかるようにしてほしい。

→質問がどこまで進んでいるのかが分かる表示（例：2/14、6/14）を記載する方向で進める。

・「ある授業のやり方について意見を言いたかったのだが、設問が選択肢しかなく、意見を自由にいう場が無かった。生徒の主張も考慮してほしい。」「自由記述欄が欲しい。」

→自由記述欄を設けた場合、中傷する内容が書かれても事前にチェックをすることが難しく、かつ、そのような内容の書き込みが増えることも予想されるので、現状のままとする。ただし、アンケートには反映されず、授業担当教員にも直接言いづらいこと等がある場合は、例えば、「アドバイザーの先生との面談時や教学支援課に相談できる」といった内容をアンケートの最後には書き添える、といった対策方法を今後検討していく。

・「授業改善アンケートの結果を生徒と振り返る先生と振り返らない先生がいる。授業に不満がある先生に限って振り返りを行わないため改善されない。」

→各教員に改善方法を必ず受講生にフィードバックするように、教学支援から依頼する。

・「TALES で実施するより、対面授業時に行った方がアンケートの回収率は上がるのでは。」

→教学支援課で、対面授業時に TALES で回答することを徹底する。

2. シラバスについて（記載内容についての意見）

・「スマホでは見にくいので、見やすい設定にしてほしい。」

→教学支援課で要検討。

・「TALES の各コースにシラバスのリンクを付けてほしい。」

→TALES 活用委員会で要検討。

・「限られた科目であるが、内容と実際が異なっている科目があった。コロナ禍でしかたないのかもしれないが、変更事項が見にくいので、変更時点でアナウンスをしてほしい。（特に評価について）シラバス上に担当教員の連絡先（g-mail のアドレス）があるとありがたい。」

→教学支援課で、変更点のアナウンスを徹底する。

3. その他 授業、学習環境について

【日頃受講している授業、あるいは学習する環境に対しての意見、要望等】

・「Zoom を使ったオンライン授業に自習室で参加する場合、周囲が気になって発言しにくい。Zoom 受講用の自習室を設けてほしい。発言可の自習室と発言不可の自習室に分けてほしい。」

→教学支援課で要検討。

・CS の「休講・補講・教室変更」（時間割形式）において集中講義科目の情報が反映されていないので不便。」

→教学支援課で要検討。

以上

III. F D フォーラム

Ⅲ. FDフォーラムについて

2021年度、全学教育開発センターでは計2回のオンラインでのFDフォーラムを開催した。また、外部のFDフォーラムについても積極的な参加を呼びかけた。詳細は以下の通りである。

1. 第1回 (2021年9月15日)

日 時：令和3年9月15日(水) 10:30~12:00
演 題：「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)教育の取組」
講 師：越後 富夫 大阪電気通信大学教授(情報通信工学部長)
形 式：Zoomによるオンライン講演形式
対象者：本学教職員、非常勤講師、学外関係者
参加者：理事3名、教員79名、非常勤講師4名、事務職員24名、大阪電気通信大5名、その他25名

9月15日、令和3年度の第1回FDフォーラムは大阪電気通信大学と帝塚山大学との学術交流に関する包括連携協定に基づき、共同開催することとなり、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)教育の取組み」と題して、大阪電気通信大学情報通信工学部長の越後富夫教授にご講演いただいた。本講演は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「Zoom」で実施し、140人の教職員が参加した。

政府がうたう「AI戦略2019」「第6期科学技術・イノベーション基本計画」では、「Society5.0」社会の実現を目指し、データサイエンスやAIの知識を持つ人材育成が急務であるとしている。大学においては2021年度より、大学生・高専生がリテラシーレベルの数理・データサイエンス・AIを習得することを目標に、優良な教育プログラムを認定する制度が創設され、それらの受講生を50万人とする目標が掲げられている。

越後先生から、データサイエンス教育が求められるようになった社会的背景を踏まえつつ、政府の方針について詳しく説明。また、大学業界でのデータサイエンス教育の方向性や各大学の動向に触れながら、今後の展開への指針を示された。講演の最後には、同大のデータサイエンス教育への取組みの一端として、同大が開講するデータサイエンスの授業を紹介。リテラシーレベルの認定を目指して全学開講する「コンピュータと情報活用術」は、講義と実習を組み合わせた構成で、本学では「データサイエンス初級」としてLIVE配信やオンデマンドで同じ授業を受講できる。

2. 第2回 (2022年2月16日)

日 時：令和4年2月16日(水) 10:30~12:10
演 題：「数理・データサイエンス・AI(リテラシー)」に関わる学内の授業実践事例と データサイエンス教育の意義
コーディネーター：日置 慎治 学長補佐
実践事例報告者：足立 整治 教授(全学教育開発センター)「データサイエンス入門」 蟹 雅代 准教授(経済経営学部)「経済経営xデータ分析」 森泉 慎吾 講師(心理学部)「心理学部でのデータサイエンス教育」
形 式：Zoomによるオンライン講演形式
対象者：本学教職員
参加者：理事3名、教員76名、事務職員25名

本学では、「数理・データサイエンス・AI」の知識を持つ人材育成に対する社会的機運の高まりを受け、2021年4月よりデータサイエンスの基礎が学べる科目を全学部全学科の学生を対象にスタートさせた。同時に、経済経営学部では、ビジネスで活用できるデータサイエンスの基礎を学べるデータサイエンスベーシックコース（Data Science Basic course for Business/DSBコース）を設けた。その1年間にわたるデータサイエンス教育の実績から明らかになった課題や授業ノウハウを共有し、さらなる授業改善に結びつけることを目的に、2月16日、令和3年度の第2回FDフォーラムを開催した。

今回は、「数理・データサイエンス・AI（リテラシー）」に関わる学内の授業実践事例とデータサイエンス教育の意義と題して、日置慎治教授（数理・データサイエンス教育担当学長補佐）をコーディネーターに、足立整治教授（全学教育開発センター）、蟹雅代准教授（経済経営学部）、森泉慎吾講師（心理学部）が、データサイエンス授業の実践事例について報告した。

足立教授が担当する「データサイエンス入門」は、認定制度標準カリキュラムに準拠したリテラシーレベルの授業。学生にデータサイエンス自体に興味を持ってもらうことを主眼に全学部を対象に開講している。蟹准教授と森泉講師が担当する「応用統計学」と「心理学統計法」は学部教育に密接に関連したデータサイエンスの専門科目で、エクセルだけでなくSPSS（統計用ソフト）を使用しての多変量解析までを扱う。

いずれの発表においても、「適切なソースからデータを入手することを理解させる」「分析目的と分析方法を明確にさせる」ことの大切さについて触れられた。また、データの因果関係や相関関係を学生に理解させるためには、学生自身が興味を持ちそうな題材を選び、データの原因と結果を視覚化することが重要であるとの認識が示され、理解度向上に向けての具体的な工夫が示された。一方で、学生の数学的な素養が理解度に影響することや、分析手法の習得のみに終始してしまいがちであることが、データサイエンス教育における現時点での課題として挙げられた。

報告の後には質疑応答があり、今後の授業改善に向けた方策について意見交換を行った。

3. 外部団体主催のFDフォーラム

公益財団法人大学コンソーシアム京都が主催する第27回FDフォーラム（：2022年2月19日（土）・20日（日）・26日（土）・27日（日）/オンライン開催）および京都大学が主催する第28回大学教育研究フォーラム（2022年3月16日（水）、17日（木）/オンライン開催）への積極的な参加を呼びかけ、以下の7名が参加した。

- | | |
|---------|-----------------|
| ● 大西智之 | 全学教育開発センター教授 |
| ● 日置慎治 | 経済経営学部経済経営学科教授 |
| ● 清水益治 | 教育学部こども教育学科教授 |
| ● 馬場文 | 法学部法学科准教授 |
| ● 佐伯孝子 | 現代生活学部食物栄養学科准教授 |
| ● 小谷早稚江 | 全学教育開発センター准教授 |
| ● 中島剛 | 教学支援課長 |
| ● 鈴木 依子 | 入試広報課員 |

IV. 公開授業

V. 公開授業について

1. 前期公開授業の中止

例年、各学部および全学教育開発センターにて授業を公開する教員を選出し、6月・7月に公開授業を実施しているが、今年度前期は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、5月6日（木）以降、遠隔授業と対面授業を組み合わせたハイブリッド型授業となり、多くの授業が遠隔となったため中止とした。（※第3回FD推進委員会にて審議・承認）

2. 後期公開授業週間の中止

例年、後期は11月下旬から12月上旬にかけての2週間を公開授業週間とし、全専任教員が原則として全授業科目を公開すること、少なくとも1科目を参観することを前提に授業を公開しているが、今年度後期においても、遠隔授業と対面授業を組み合わせたハイブリッド型授業となり、多くの授業が遠隔となったため中止とした。（※第6回FD推進委員会にて審議・承認）

V. F D推進委員会

1. F D推進委員会

[2021年度]

F D推進委員会	委員長	大西 智之	(全学教育開発センター長)
	委員	河口 充勇	(文学部)
		吉村 泰志	(経済経営学部)
		関 誠	(法学部)
		永石 高敏	(心理学部)
		木村 祐子	(現代生活学部)
		吉田 雅昭	(教育学部)
		谷 美奈	(全学教育開発センター)
		米田 準	(大学事務局次長)
		島本英一郎	(教学支援課長・東生駒キャンパス)
		中島 剛	(教学支援課長・学園前キャンパス)
事務局スタッフ	榎井 謙一	(教学支援課)	

2.活動報告

4月8日	第1回FD推進委員会
5月13日	第2回FD推進委員会
6月3日～6月9日	前期授業改善アンケート実施
6月10日	第3回FD推進委員会
6月～9月	各学部教授会等および全学教育開発センター教員会議において 「前期授業改善アンケートを受けての学部内FD」実施
7月15日	第4回FD推進委員会
9月9日	第5回FD推進委員会
9月15日	第1回FDフォーラム 演題：数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル） 教育の取組 講師：越後 富夫 大阪電気通信大学教授（情報通信工学部長）
10月14日	第6回FD推進委員会
11月8日～11月20日	後期授業改善アンケート実施
11月11日	第7回FD推進委員会
12月	学生ヒアリング実施（各学部・学科）
12月9日	第8回FD推進委員会
1月13日	第9回FD推進委員会
12月15日	各学部教授会および全学教育開発センター教員会議において 「シラバス作成のためのFD」実施
12月～1月	各学部教授会等および全学教育開発センター教員会議において 「後期授業改善アンケート結果を踏まえた学部内FD」実施
2月3日	第10回FD推進委員会
2月16日	第2回FDフォーラム 演題：「数理・データサイエンス・AI（リテラシー）」に関わる 学内の授業実践事例とデータサイエンス教育の意義 コーディネーター：日置 慎治 学長補佐 実践事例報告者：足立 整治 教授（全学教育開発センター） 「データサイエンス入門」 蟹 雅代 准教授（経済経営学部） 「経済経営×データ分析」 森泉 慎吾 講師（心理学部） 「心理学部でのデータサイエンス教育」
3月10日	第11回FD推進委員会

以上

3. 帝塚山大学FD推進委員会規程

制定 令和3年2月26日

(趣旨)

第1条 この規程は、大学設置基準第25条の3（大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。）及び大学院設置基準第14条の3（大学院は、当該大学院の授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。）に基づき設置する帝塚山大学FD推進委員会（以下「委員会」という。）に関して必要な事項を定める。

(目的)

第2条 委員会は、本学における教育の資質向上を図るために組織的に取り組む活動（以下「FD」という。）を推進するとともに円滑な実施を図ることを目的とする。

(業務)

第3条 委員会は、前条に掲げる目的を達成するために、次の各号に掲げる業務を行う。

FDの調査研究に関すること

FDの企画、立案及び実施に関すること

FDに関する講演会及び研修会等の企画・立案・実施に関すること

学生による授業改善アンケートの企画・実施・分析に関すること

各学部及び大学院研究科等が行うFDの支援に関すること

その他前条の目的達成のために必要な業務

(構成)

第4条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

全学教育開発センター長（以下「センター長」という。）

帝塚山大学全学教育開発センター規程第4条第1項第2号及び第3号に定める職員のうちからセンター長が指名した者

学部教授会から選出された各学科1名の教員

事務局長（次長）

教学支援課長

その他センター長が必要と認めた教職員

(任期)

第5条 前条第1項第1号、第2号、第4号及び第5号の委員の任期は、その職にある期間とし、異動が生じた場合には、後任者が引き継ぐものとする。

2 前条第1項第3号及び第6号の委員の任期は、2年とし、異動が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、センター長がその任にあたる。

(運営)

第7条 委員長は、委員会を代表するとともに、委員会を招集しその議長となる。

2 委員長は、必要に応じて、委員以外の教職員に委員会への出席を求め、その報告又は意見を聴くことができる。

3 その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員会においてこれを定める。

(幹事)

第8条 委員会に幹事を置き、教学支援課長をもってこれに充てる。

(他委員会等の連絡調整)

第9条 委員長は、全学教育開発センター運営委員会等、関係の各種委員会等との連絡を密にし、委員会の任務遂行の実をあげるよう努めなければならない。(改廃)

第10条 この規程の改廃は、委員会及び大学協議会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

VI. 全学教育開発センター FD推進検討チーム

1. 全学教育開発センターFD推進検討チーム

[2021年度]

メンバー リーダー 谷 美奈 (全学教育開発センター准教授)
岩井 洋 (全学教育開発センター・教授)
小谷 早稚江 (全学教育開発センター准教授)

<活動内容>

■FDフォーラムに関する検討

今年度も従来通り年2回開催の方向で検討を進めた。

第1回は、学長の提案により数理・データサイエンス・AI（リテラシー）教育をテーマとして学外から講師を招き、Zoomによるオンライン形式の講演を開催することで検討を進めた。本年度から帝塚山大学においてもデータサイエンス教育を初年次教育に取り入れて、各学部でも推進していく方向を打ち出している。そこで、当該教育プログラムの文科省認定に向けた大阪電気通信大学の取組を紹介してもらうことで、本校のデータサイエンス教育の充実とその課題について議論していく機会を設けることとした。

第2回は、数理・データサイエンス・AI（リテラシー）に関わる学内の授業実践事例をテーマに学内から複数名の講師を選び、引き続きZoomによるオンライン形式の講演を開催することで検討を進めた。第1回のFDフォーラム後のアンケートでも、数理・データサイエンス・AI（リテラシー）教育についての全体像や概要は理解できたが、実際に本学でどのような内容の授業を行うことが可能なのか、また行うべきなのかという現実的かつ具体的な内容について知りたいという意見が複数見られた。そこで、学内における異なる分野の数理・データサイエンス・AI（リテラシー）に関わる授業実践の紹介と意見交換を行う機会を設けることとした。

当チームで、開催時期やテーマ、講師の選定等を行った上で、FD推進委員会に提案した。具体的内容については、本報告集の「FDフォーラム」の項を参照のこと。

■授業改善アンケートに関する検討

◆アンケートの実施方法および項目の検討

前期は、当初、対面形式で各教員原則1科目を対象に実施する方向で検討していたが、新型コロナウイルスの感染が拡大し、多くの授業が遠隔形式に変更されたため、これを機会に、従来検討されてきた全科目を対象としたアンケートを、Googleフォームを用いて試験的に実施することを、FD推進委員会に提案した。

後期は、前期アンケートの回収率が芳しくなかったこと、ならびに対面形式と遠隔形式の授業が混在していたことから、各教員原則1科目とし、TALES上でのWEBアンケートによる実施が適切だと考え、FD推進委員会に提案した。

◆アンケート結果の検証・検討

アンケート結果については当チームで検証・検討を行い、FD報告集に掲載することとした。いずれも、詳しくは本報告集の「I. 授業改善アンケート」→「1. 2021年度 授業改善アンケート集計結果」→「(6) 授業アンケート結果概要」を参照のこと。

■FD報告集の内容・構成に関する検討

今年度は、FD報告集の「授業改善アンケート」の内容・構成については、つぎのように変更することとした。

(1)昨年度は、前期の授業改善アンケートは実施されなかったため後期の授業改善アンケートのみを掲載したが、本年度は、前期・後期の両方の授業改善アンケートを掲載する。(2)ただし、前期・後期の調査方法の違いや回答への負荷の違い等から、両者を同等にあつかうことはできないため、後期分のみ、可能な範囲で昨年度との比較を行う。(3)以上のような制約条件をふまえて、全学的な傾向についてまとめたものを掲載することとした。

■その他の検討

2021年度全学教育開発センターFD推進検討チームの活動の総括を行った。

2. 帝塚山大学全学教育開発センター規程

制定 平成24年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、帝塚山大学学則第63条第2項の規定に基づき、帝塚山大学全学教育開発センター（以下「センター」という。）に関して必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、本学における全学的な教育施策の企画及び開発、教育活動の継続的な整備・改善の推進及び支援、並びにFD推進の企画及び大学教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学的な教育内容・方法の整備・改善に関わる企画、推進及び支援に関すること
- (2) 全学に共通する教育システムの企画及び開発に関すること
- (3) 全学的なFDの企画及び推進に関すること
- (4) 全学的な学習支援の企画及び推進に関すること
- (5) その他全学的な教育に関する必要な事項

(組織)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
 - (2) センターに配属された本学の専任教員（任期制教員を含む）
 - (3) その他センター長が必要と認める教職員
- 2 センター長の選出、任期等に関する規程は別に定める。
- 3 センターに必要あるときは副センター長を置くことができる。副センター長はセンター長が指名する。

(職務)

第5条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐する。

(委員会・教員会議)

第6条 センターに、第3条に定める業務の円滑な実施に関する重要な事項を審議するため、全学教育開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）及び全学教育開発センター教員会議（以下「教員会議」という。）を置く。

第7条 運営委員会及び教員会議に関する事項は別に定める。

(事務)

第8条 センターに関する事務は、教学支援課において行う。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、運営委員会及び大学協議会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。

2 この規程の制定に伴い、「帝塚山大学全学共通教育センター規程」,
「帝塚山大学FD推進室規程」及び「帝塚山大学学習支援室規程」（平成17年7月29日制定）は、平成24年3月31日をもって廃止する。

附 則

この規程は、平成25年6月28日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。